

令和元年度 第3回山梨県公立大学法人評価委員会次第

日 時 令和元年8月9日(金) 午後2時00分から
場 所 県立大学飯田キャンパスA館2階大会議室

開 会

1 委員長あいさつ

2 議 題

- (1) 令和元年度第2回山梨県公立大学法人評価委員会議事概要(案)について
- (2) 公立大学法人山梨県立大学の平成30年度業務実績に関する評価及び評価結果(案)について
- (3) その他

閉 会

【配付資料】

- 資料1 令和元年度第2回山梨県公立大学法人評価委員会議事概要(案)
- 資料2 平成30年度業務実績評価に係る論点整理表
- 資料3 公立大学法人山梨県立大学平成30年度業務実績に関する評価結果(素案)

参考資料1 公立大学法人山梨県立大学 平成30事業年度業務実績報告書

令和元年度第2回山梨県公立大学法人評価委員会 議事概要（案）

- 1 日 時 令和元年7月9日（火）午後2時00分～午後4時15分
- 2 場 所 県立大学飯田キャンパスA館2階大会議室
- 3 出席者 委 員 金丸康信 島田眞路 徳永保 古屋玉枝
 法 人 清水理事長 神宮司副理事長 相原理事 下村理事 流石理事
 八代国際政策学部長 西澤人間福祉学部長 名取看護学部長
 佐藤大学院看護学研究科長 渡邊図書館長
 箕浦地域研究交流センター長、黒羽キャリアサポートセンター長 ほか
 事務局 小澤県民生活部次長 井上私学・科学振興課長 ほか

<議題>

- （1） 令和元年度大1回山梨県公立大学法人評価委員会議事概要（案）について
 審議の結果、各委員から特段の意見なく、案のとおり了承。

<議題>

- （2） 公立大学法人山梨県立大学の平成30年度業務実績報告書について

◆法人

資料2により「第1-1 教育に関する目標」について説明。

○委員

慢性期看護学は、どのようなものか。

○法人

慢性期看護学は、専門看護師（CNS）コースになるが、昨年度、開講の準備が整い、入学試験を行った結果、2名が合格した。

○委員長

No. 13について、自己評価を4としているが、基本的にこれはただのアウトプットの話なので、実際に、そのアウトカムとして、山梨県立大学ではどれだけの授業の中で、アクティブラーニングを導入しているかというような実態調査をされているか。

○法人

教育委員会を中心に、アクティブラーニングについては、8割の科目で実施しており、特に看護学部では、演習科目や実習が多いため高い比率になっている。看護のFD・SDのアウトカムである8つの学士力に対する学生による受講評価の結果については、参考資料の20ページに掲載しているが、直近の数値は、3.70から3.63となっている。今回で4回目になるが、3回目も2回目もほぼ同じ傾向であり、どの学習をとっても、数値に差が無い。これは、どの教員が、どんな形態の科目を教えても同じような結果が出ているということで、教授が上手い下手ということの差異が無いということ。日常的に、若い先生を

含めて、FDに取り組んでおり、その教え方について、全教員によく浸透しており、その結果が数値に表れている。これはFDの成果だと自信を持って言える。

○委員

NO. 13について、自己評価を4としているが、4は本当に良くないといけない。記載されている計画の進捗状況等の文章では読み取れない。

○法人

今、私が口頭で説明した内容は含まれていないが、我々としては高いレベルで推移しているものは、4という評価にしている。

○委員長

学習成果の可視化について、可視化すること自体が目的ではなくて、あくまでも一定の予定した学習成果を保障するということが継続的な目標であるはず。全体として、例えば、学士力に含まれている専門的な知識や能力は、試験を行って、成績がつくわけだが、一方で、汎用的なスキルについても、将来的に自己評価でいくのか、或いは何かそういう包括的な評価を通じて習得状況を評価していくのかを検討する必要があると思うが、現在、そのような検討は学内で行っているのか。

○法人

学習成果の可視化については、学生の自己評価によって、大学とか組織の学習成果のレベルを明確にして社会に公表することになるが、これで終わるものではなく、今度は、個人の学習成果がどのくらい身に付いたかということのを可視化しなければいけない。これについては、今、教育委員会をお願いをしており、例えば、ポートフォリオ等、別の可視化する手段があるので、それらの手段も含めて、個人の学習成果の可視化を次の段階として実施しようと考えている。

○委員

No. 12について、GPA 1.5未満の学生に対し、個別に修学指導を行ったことは、素晴らしいことだと思うが、行ってどうなったかという記載がないので、この学生の成績が上がったとか、本当はそういうことが求められると思う。そこの記載がないので、どうなのかなというところがある。

○法人

看護学部には、1.5未満の学生はそんなに多くはないが、チューターの教員を通して、個別の指導を行った結果、1.5から上がった学生がいた。このため、個別の指導は、きちんと学生に通じていて、それを学習成果というところで、反映されていると考えている。

○委員

そのような取り組みを行っているのであれば、そこまで記載した方が安心する。

○委員長

国際政策学部の取り組みとして、地域理解演習を開講し、延べ79名の学生が参加したことは、県立大学として地域貢献を考えていく上で、大変大きな成果だと思っている。昨年度には無かった取り組みなので評価に値する項目だと思うが、COC+事業の受講者については、大学としては当初どのくらいを予定していたのか。

○法人

カリキュラムの年度進行で3年生を対象とした地域理解演習の科目だったので、実はそれほど期待はしていなかったが、思ったよりも学生がアクティブに取り組んでくれた。COC+の連携科目としても、かなり合致していたので、そちらの成果でもあるのかなと考えている。

○委員長

今後、県立大学の成果として、対外的に説明するには、一番相応しい項目なので、もう少し自己評価が高くても良かったのかなと思う。

○委員

GPA評価の1.5未満は、優、良、可でいうと不可に値する学生の事か。

○法人

1.5というのは、A、B、C、Dでいうと、Dが1.0になるので、DとCの間と考えていただければと思う。

◆法人

資料2により「第1-2 研究に関する目標」「第1-3 大学の国際化に関する目標」について説明。

○委員

No. 20について、新たな組織的研究課題を募集したが、全く応募が無く、次年度からの事業に組み入れて実施するということだが、何も無く、次年度に期待するだけで、自己評価が3というのはおかしいのではないか。

○法人

これまでは継続して3件あったが、組織的な研究課題なので、十分検討する間がなく、結果的には再募集まででしたが、応募が無かった。その下に記載している農福連携事業において、就農者も1人生んだというアウトカムがでていることから、こちらの方を評価していただきたい。

○委員

No. 21について、地域研究事業の共同研究について、参考資料の231ページの資料を確認すると、発表者の方の1人の名前しか記載がない。共同研究というのは、色々とこ

ると共同研究するので、発表者だけの名前ということはないと思うが、これだけ見ると、そのところがはっきりしない。

○法人

参考資料の233ページから地域研究交流センターの共同研究報告書を添付しているが、数年前までは全ての研究結果等を掲載していたが、ここ1、2年で簡略化し抄録の形にしている。今、委員からお話があったメンバーについては、235ページから8つの研究について、それぞれの研究代表者と共同研究者の名前が記載されている。

○委員

重点テーマ研究について、これも次年度からということになっているが、如何か。

○法人

重点テーマについては、数年前までは学長プロジェクトとして行っていたものが重点研究のような形になっていたが、応募が無かった。このため、参考資料の287ページの資料に記載されているように、COC事業で始まったMiraiサロンにおいて、地域との対話の場を開催して、改新のある本学教職員が集い、学部や分掌を超え、喫緊に地域から寄せられる問題解決の要望に対して、地域と一緒に課題解決に向けて、そのプロセスから将来、地域主導型へ移行できることを目指した共同研究事業のことを重点テーマとして定義した。平成30年度は、対話の場を利用しながら応募のあった研究、これがたまたま1件だったが、大学周辺の穴切地区をフィールドとしたテーマで決定をした。決定にあたっては、外部の委員を含めた選考委員会で選考・決定をしている。

○法人

今年度から実施になるが、テーマを決めたということで自己評価を3にしている。

○委員

私だからかもしれないが、決めたら即実施して、現在は実施中ということになる。年度を区切って決めたので、来年度からやりますよというのではなく、今年度既に実施しているはずなので、ここの場での説明においては、今は実施している途中ですとっていただいた方が分かりやすい。

○委員長

平成30年度に、山梨県内、県外を含めて、企業との共同研究や企業からの受託研究があったのか。

○法人

事例はない。

◆法人

資料2により「第2 地域貢献等に関する目標」について説明。

○委員

県内就職率は、如何か。

○法人

COC+事業では、当初のKPIで設定した数値を下回っている。

○委員長

具体的には何%か。

○法人

COC+事業では、5年間で県内就職率を10%程度上げることになっている。本学の県内就職率は50%であるが、COC+事業の8大学の平均は、約36%である。

○委員

学長との対話の取り組みを行っているが、学生への周知はどのように行っているのか。

○法人

学長と学生の対話については、昨年度で5年目を迎え、毎年計画的に実施している。看護学部はキャンパスが離れており、私が行く機会も少ないことから、学生や教職員と対話できるようにするために始めたが、学生は授業や実習でスケジュールが埋まっているので、参加者の中心は教員である。研究科でも学生との対話を行っている。

○法人

研究科の学生との意見交換会は定例で9月、2月の2回行っている。研究科の学生は、ほぼ働いており、長期履修制度を活用していることから、修士論文の発表の終わった後を利用しながら、意見交換会を行っている。ここ1、2年は、ほぼ全員の学生が参加しており、1時間から1時間30分くらいの時間ではあるが、非常に活発な意見交換ができています。

○法人

人間福祉学部は、専門の国家資格を取ることでなっている。県内に留まりたい学生は、児童養護施設や社会福祉協議会、行政の社会福祉の専門職を希望しているが、就職先が無く、学生も非常に苦慮している。

○法人

福祉関係の労働環境が県内非常に劣悪であるという中で、学生は待遇の良い、あるいは仕事の環境の整った社会福祉法人の仕事に就くという傾向がある。前から言っているが県内の就職率は相互作用なので我々養成校だけの問題ではなく、そういう状況を放置している県の責任でもあると思っている。

○委員長

地域への優秀な人材の供給が中期目標にあり、県は県内企業に就職してもらいたいという考えがある中で、昨年度、県内企業研究会を開催し、参加人数が増えたということを行っているが、極端の話をすると1回しか開催していない。今後よりきめ細かく企業研究会を開催することや、企業に対するアピール方法等について、企業と連携を取っているのか。

○法人

COC+事業において、県内企業との関わりを持って、プロジェクトを実施しており、その中で、学生には県内にどんな企業があるのか、そこにはどんな仕事があるのかということを知ってもらい、また、大学生を採用する企業には、学生とのコミュニケーションの機会として、長期のインターシップなどの取り組みを設けてもらっている。ただ、5年程前に行った県内企業のアンケート調査で、大学卒業者をどのくらい採用しますかということを知ったが、その数は少なかった。ここ最近では、県内企業の改革等があるため、学卒者も採用する企業が増えてきている。キャリアサポートセンターでは、学生には県内の元気な企業について勉強してもらおう機会を設けている。

○委員

山梨県内の企業を規模で見ると、99%は中小企業ということで、東京に勉強に行った大学生にとって、魅力がある企業が少ないというのは確かだと思う。そういう面で実際に名前がそんなに知られてなくても、世界のシェアを持っている企業もあるが、そういうものを商工会議所でもできるだけPRしようと話をしている。私の会社でも未来企業として、特色ある企業を定期的に紹介するようにはしているが、なかなか学生には浸透していない。

○委員長

なかなか難しいということだが、私とすれば、企業説明会は、きめ細かく、また、企業に対してこういう情報を出していただきたいとかを言っていないと、なかなか中期目標期間中に県内就職率55%を達成するというのは難しいと思う。大学としての大目標として決めているわけですから、この目標に向かって、様々な取り組みを努力いただきたいと思う。

◆法人

資料2により「第3 管理運営等に関する目標」について説明。

○委員長

今まで日本の大学は、授業科目を、どういう授業科目にするか、また、誰をその非常勤講師に充てるかということについては、全て学科任せで、学部長も口を出せない。さらに、大学本部は、正直言って、どういう授業科目があるかさえ分からないということの中で教学マネジメントを行っている。このような状況の中で、今回、山梨県立大学が教学マネジメント指針を策定したことは高く評価できるが、内容を拝見したところ、大学本部が具体的な授業科目の設置や開設、或いは各プログラムの開設に関与していくことについては、未だ道半ばというか、むしろ肝心なことは、実際、マネジメントをどのように行っていくかということなので、その点について、説明をお願いしたい。

○法人

ご指摘の件については、真摯に受け止めて取り組みたい。確かに、実際のマネジメントという点では、この指針を策定したことは小さな一歩かもしれないが、私がこの間感じたことは、これは国が策定したから本学でも策定したというわけではなくて、GPAやナンバリングシステム等、色々な教学に係るシステムがどんどん入ってきている中で、そういうものを本学で制度化する時に、何を根拠に我々はこの制度を導入するのかについて疑問に思った。確かに国とか他の大学がそれを導入しているからやるってということもあるし、義務になっていれば当然それは導入することになるが、GPAやナンバリングシステムは、未だ義務にはなっていない。このため、本学としてのシステムを導入する際の根拠（ルール）があった方が良く、この指針を策定した。

<議題>

●（３） 公立大学法人山梨県立大学の平成30年度財務諸表等について

◆法人

資料3～7により説明。

○委員長

教育支援経費の主な増加要因は何か。大学では、教育と研究が大事になるため、決算における教育経費と研究経費が減少していることは、あまり感心ができない。ただ、教育支援経費、例えば、授業料減免の経費が増加しており、それらを合わせると増加しているため、大学としては健全な財政構造だという説明になると考えるが、如何か。

○法人

教育研究支援経費の増加と言えるかは分からないが、平成30年度については、新たな補助事業として対流促進事業を展開したことにより、派遣職員等の必要な経費が増加したことが金額的には大きいところである。

○委員長

大学として、決算における教育経費と研究経費が減少しているというのは、いわばアドミニストレーションコストだけが増加しているということになるので、是非、対外的に説明する際は、工夫をお願いしたい。

<議題>

●（４） その他

◆事務局

参考資料1により今後のスケジュール等について説明。

（以上）

平成30年度業務実績評価に係る論点整理表

○小項目評価基準
 IV：年度計画を上回って実施している
 III：年度計画を順調に実施している
 II：年度計画を十分には実施していない
 I：年度計画を大幅に下回っている、又は実施していない

○大項目（総括的）評価基準の目安
 S：特筆すべき進行状況にある（評価委員会が特に認める場合）
 A：計画どおり進んでいる（すべてⅢ～Ⅳ）
 B：おおむね計画どおり進んでいる（Ⅲ～Ⅳの割合が9割以上）
 C：やや遅れている（Ⅲ～Ⅳの割合が9割未満）
 D：重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合）
 ※上記の判断基準は、計画の進行状況を判断する際の目安であり、法人を取り巻く諸事情を勘案して総合的に判断する

○評価に際しての留意事項
 （山梨県立大学の各事業年度の業務実績評価実施要領より抜粋）
 評価委員会は、業務実績報告書に基づき、法人からのヒアリング等を通じ、業務の実績等について調査・分析の上、法人の自己点検・評価を検証し、年度計画の達成状況について評価を行う。
 特に、法人による自己評価と評価委員会による評価が異なる場合は判断理由等を示す。

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永 委員長	●金丸 委員	★山口 委員	◆古屋 委員	▼島田 委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
1	・各科目にて扱う「学士力」について、シラバス上に明示するよう教員に周知するとともに、それぞれの授業科目のシラバス作成に反映されているか引き続き調査し、検証する。さらに、「学士力」のシラバス上への明示については、記載し易いシラバス様式へと入力システムの改修ができるよう予算化を要求する。	III	3.0	III	III	III	III	III	III	■計画されたすべての事項について着実に取り組みが進められている。 ●学士力の可視化を着実に実施している。 ★学士力の測定数値を認識できたが、「全学共通化科目」が近年微増し「教職課程科目」のデータが低下している要因の把握・検討過程を確認したい。 ◆「入力システム」の改修ができたか不明だが、シラバス作成要領の改訂、「学士力」の周知は計画通りできている。 ▼年度計画を順調に実施している。 記述し易いシラバス様式へ改修する予定は引き続きあるか記述があると良い。	III	
	・「学士力」について、授業評価データに基づき引き続き測定し、その達成状況を検証する。	III										
2	・科目ナンバリング制の導入について、学部ごと学修成果を踏まえて検証する。	III	3.0	III	III	III	III	III	III	■計画されたすべての事項について着実に取り組みが進められている。 ●カリキュラムツリーとの整合性の確認を評価する。 ◆科目ナンバリングの見直しは教育課程が理解しやすい。 ▼年度計画を順調に実施している。	III	
	・科目ナンバリング制の導入について、カリキュラムツリーとの整合性を確認し、検証する。ただし、当該年度は3学部専門科目及び教職課程科目においてはカリキュラム改正に向けた検討があることから、科目ナンバリング制の導入についての検証は、カリキュラム改正を見据えて実施する。	III										
3	・本学の目指すアクティブラーニングの在り方がシラバスに反映できているか検証する。特に、シラバス作成要領に明記したアクティブラーニングの定義が周知され、シラバスの教育方法の欄に、アクティブラーニングの実践方法が適切に記載されているか調査し、検証する。ただし、当該年度はカリキュラム改正に向けた検討があることから、検証は、カリキュラム改正を見据えて実施する。	III	3.0	III ⁴ II ¹	II	III	III	III	III	■年度実績報告書の記載に拠る限り、地域関連科目の充実に向けて、各学部の取り組みに委ねるのみで、大学としての取り組みが見られない。 ●アクティブラーニングの在り方についての検証を生かして計画通りに実施できた。 ◆アクティブラーニングの実践方法が適切か、詳細に記載できているか不明。今後の検証に期待する。 ▼検証結果の記述が不十分と思われる。十分な検証ができなかったのであれば、その内容を記述いただきたい。		

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永委員長	●金丸委員	★山口委員	◆古屋委員	▼島田委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
4	<p>国際政策学部では、以下の取組を実施する。</p> <p>①3年次の地域理解演習を実施するとともに、1・2年次の演習科目の改善のための取組を行う。</p> <p>②英語カリキュラムの検証を引き続き行いながら、次年度のカリキュラム改正に向けた準備を行う。</p> <p>③海外協定校との交換留学や短期派遣プログラムの新規開拓とともに確実な実施を行う。</p> <p>④構築した海外インターンシップを確実に実施できるようなプログラム作りを行う。</p> <p>⑤地域の企業と連携した COC+の活動への学生の参加を推進する。</p> <p>⑥新たに創設する語学検定試験受験料補助事業を実施することで、TOEIC 等の語学検定試験受験の促進、得点向上を図る。</p>	III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■地域理解演習、海外インターンシップが、それぞれ、実施され、多くの学生が参加した。</p> <p>●海外協定校との連携による海外インターンシップの取組は評価するが、派遣学生の更なる増加を望む。</p> <p>★語学検定試験受験料補助事業をより周知活用されることが期待される。</p> <p>◆地域理解演習の開講は当学の目標に合致し学生の多様な教育機会の確保となる。</p> <p>「学びの姿」の作成・明示により学ぶ目標が確認できる。</p> <p>▼毎年度 TOEIC の試験結果を記述していただけると判断しやすい。</p>		
5	<p>国際政策学部では、以下の取組を実施する。</p> <p>①コースカリキュラムの3年間の実施状況を評価し、カリキュラム再編成のための作業を行う。</p> <p>②3年次演習科目（ゼミ科目）において学科横断型ゼミを導入し、2学科統一に向けての準備を行う。</p> <p>③地域限定通訳案内士副専攻・日本語教員養成課程副専攻を確実に実施するとともに改善の作業を行う。</p> <p>④地域限定通訳案内士副専攻履修学生の資格取得試験の受験を促し、成果を検証する。</p>	III	3.0	IV1 III4	III	IV	III	III	III	<p>■計画されたすべての事項について着実に取組が進められている。</p> <p>●学部横断型のゼミは学生の視野を広げる意味からも有効であり評価できる。</p> <p>◆「地域通訳案内士」の育成が当学コースのみとのこと。関係機関と連携を密にし、年々増す来県外国人対応への人材育成をお願いしたい。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p> <p>カリキュラムの再編成ができたかどうかの記述があると良い。</p>		
6	<p>・社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の養成目的の明確化に向けた具体的な方策について検討を引き続き行う。</p>	III								<p>■計画された国家試験合格率について、全国平均を上回る実績をあげ、KPI を達成した。</p> <p>●各国家試験の全国平均を大きく上回る合格率を高く評価する。</p> <p>★国家試験の結果が、全国平均をはるかに上回る水準を出しており、十分な支援がなされていることが窺える。</p> <p>◆国家資格合格率は全国でも有数の成績である。各国家資格取得に向けて経費の助成等が効を奏しているのか。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p> <p>助成の効果が把握できるよう志願者の推移を示すなど工夫いただきたい。</p>	IV	
	<p>・社会福祉士、精神保健福祉士、および介護福祉士の各国家試験に、一人でも多くの学生が合格するよう、大学による財政支援等により、学部としての支援を強化する。</p>	III	3.3	IV	IV	IV	IV	IV				
	<p>・精神保健福祉士国家試験合格率を維持、社会福祉士国家試験合格率の向上のため、模試受験料経費に要する経費を大学が支援する。</p>	IV										

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永委員長	●金丸委員	★山口委員	◆古屋委員	▼島田委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
7	・平成 29 年度までの「卒業時の到達状況」調査結果を活用し、看護師、保健師、助産師、養護教諭の専門職業人の養成目的を明確化する。	III	3.0	IV2 III3	III	IV	IV	III	III	<p>■計画されたすべての事項について着実に取り組みが進められている。</p> <p>●3つの国家試験の高い合格率は大学のきめ細かい指導の賜である。</p> <p>★合格率の計画目標が100パーセントと高いが、実際の合格率においてもきめ細やかな指導の結果が十分出ていると判断する。</p> <p>◆委員会の年間活動計画に基づく支援が効果を上げている。常に国家試験の合格率が良い。</p> <p>▼養成目的をどのように明確化したか記述があると良い。</p> <p>保健師はH27 定員変更後初めて2人の不合格者が出ているので、今回の原因を究明し、今後対策を講じるようにしていただきたい。</p>		
	・新卒者の国家試験について、看護師 100 パーセント、保健師 100 パーセント、助産師 100 パーセントの合格率を目指す。	III										
8	・新たな大学院修士課程設置について、県や文部科学省との協議を重ねながら、大学院設置準備委員会を中心に設置構想や内容を具体化し設置準備を進める。	III	3.0	III4 II1	II	III	III	III	III	<p>■中期計画に記された「地域社会のニーズを踏まえた柔軟な・・大学院課程」構想の具体的内容が示されていない。</p> <p>●各学部のスペシャリスト養成のための大学院設置は地域のニーズに合致しており、早期の開設を期待する。</p> <p>◆大学院修士課程・博士課程設置が実現する。関係者の努力に感謝する。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>		
	・看護学研究科は博士課程設置に向けて継続して準備を行う。	III										
9	・専門看護師教育課程 38 単位教育課程の開設に向けて、引き続き準備を行う。	III	3.0	III	III	III	III	III	III	<p>●中期及び年度計画に沿って順調に準備が進められている。</p> <p>◆当学に専門看護師課程が複数あり、県内で学べることは県内就労看護職にとっては非常にありがたい。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>	III	
	・専門看護師コースの充実を図るために、「慢性期看護学」の開講準備を行う。	III										
10	・3 学部の魅力や特色のホームページ等を通じた情報発信を継続する。特に国際政策学部では、外国人留学生受入れのための新規協定校の開拓、海外広報の充実を図るための取り組みを継続する。	III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■インターネット出願が円滑に実施され、入学志願者が増加した。</p> <p>●入試でのインターネット出願の導入は時代の流れに沿ったもので評価できる。</p> <p>★安定した定員充足を維持するのは継続した情報発信が基本であり、受験者はまず大学の魅力をホームページから収集するため、情報発信の継続を期待される。</p> <p>◆大学の魅力発信と同時にインターネット出願により(メリットの案内など、きめ細かい対応で)志願者数が増加している。学生確保に繋がるとよいが。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p> <p>給費奨学金制度導入に向けた検討では、他大学の状況や具体の検討内容の記述があると良い。</p>		
	・アドミッションポリシーに基づいた、入試方法の検討を継続して行う。	III										
	・給費奨学金制度の導入状況について、公立大学に留まらず全国の大学(国立・私立)の状況についても情報収集を行い、本学での導入に向けて検討を進める。	III										
	・平成 29 年度に制定した「アドミッションズ・センター規程」を踏まえ、アドミッションズ・センターの機能充実に向けて活動を推進する。	III										
	・ネット出願を導入することで、学生の受験利便性の向上を図る。	III										

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永委員長	●金丸委員	★山口委員	◆古屋委員	▼島田委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
11	平成 29 年度に制定した「アドミッションズ・センター規程」を踏まえ、平成 29 年度入試結果と入学後の成績 (GPA) との関連から、3 学部の入試結果の妥当性について引き続き検証する。	III	3.0	III4 II1	II	III	III	III	III	<p>■新テスト導入を踏まえ、入学者選抜入学対象者アンケートにとどまらずに、入学試験と定期試験での成績対照などの本格的な EM に向けた調査研究などが求められている。</p> <p>●卒業後に社会で役立つ人材を育てるためにも入試結果と入試後の GPA との関連性の分析は重要である。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>		
12	<p>・継続して、GPA データの収集・分析に基づいて学生に対する学修情報の提供、修学指導を行う。</p> <p>・CAP 制の導入に合わせ、学生への履修指導を継続して徹底する。</p>	III III	3.0	III	III	III	III	III	III	<p>●GPA の継続的な分析がなされている。</p> <p>★GPA データの分析をもとに修学指導をするというきめ細やかな対応は質の向上につながるため今後も期待したい。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>	III	
13	<p>・本学の目指すアクティブラーニングの在り方について継続して検討を行う。</p> <p>・FD 活動などを通じて、学生の能動型アクティブラーニングを促進する教育方法や教育評価法を研究する。</p>	III IV	3.5	IV2 III3	III	IV	III	IV	III	<p>■年度実績報告書の記載に拠る限り、教員研修を実施したにとどまり、新たな指導方法や授業形態などの創出等や学部全体を通じた枠組みの設定等の成果が示されていない。</p> <p>●学生のアクティブラーニングを促進するきめ細かい FD・SD 活動を高く評価する。</p> <p>◆計画以上の実施ができています。互いに高め合う好機となっている。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p> <p>中期計画及び年度計画においては、アクティブラーニングを促進する教育方法や教育評価法を研究することとなっている。FD・SD が充実していることは伺えるが、それらを通して教育方法や教育評価法の研究に結びついているか判断しがたい。アクティブラーニングに関する FD・SD であれば記述を工夫いただきたい。</p>		
I-1-1	(1) 教育の成果・内容等に関する目標		A4 B1		B	A	A	A	A	<p>■各計画事項に係る取り組みが、概ね、順調に進められ、それらの成果が期待される。今後、教学マネジメント体制の整備等を通じて、それらの取り組みが大学全体の明確な方針の下に、大学全体として一体的に進められることを期待する。</p> <p>また、大学政策が修得目標に応じた学位プログラムによる教育をめざしていることを踏まえ、全学共通科目を含めた授業科目ごとの修得目標の設定とその修得確認以上に、当該学科コース等の教育課程全体を通じて修得が期待される専門的な知識・能力と汎用的な能力を明確にし、学科・コースごとの総括・総合的な授業科目その他の教育活動を通じてそれらの修得状況を客観的に確認できるような工夫も有用と考えられる。</p> <p>●各国家試験の高い合格率は素晴らしい。</p> <p>各学部ともスペシャリスト養成のための大学院の早期開設を期待したい。</p> <p>★計画以上の成果が窺える。国際政策学部の英語教育の今後の対応にさらに期待する。</p> <p>▼多くの国家試験において引き続き高い合格率を維持していることは高く評価できる。また、昨年度に指摘した事項については、適切に対応いただいていることが確認できた。</p> <p>一方、アクティブラーニングの効果検証が十分ではないと思われるため、更なる普及に向けた取組を期待する。</p>		

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永委員長	●金丸委員	★山口委員	◆古屋委員	▼島田委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
14	平成 29 年度に引き続き、年間 6 回のテーマ別の全学 F D・S D 研修会を計画・実施し、結果を学内外に大学ホームページに掲載、公表する。	IV	3.7	IV4 III1	III	IV	IV	IV	IV	<p>■計画されたすべての事項について着実に取り組みが進められている。(学生による授業評価については大項目コメント)</p> <p>●授業評価の可視化を実行し、分析結果をホームページで公表した点を評価する。</p> <p>★受審した認証評価にて好結果となり、取り組みの品質の高さが窺える。</p> <p>◆計画以上に実施し、公表もしている。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p> <p>学修成果の可視化について、計画通り前年度との比較考察・分析結果を踏まえてホームページで公表していること、また、本取組が認証評価において高く評価されていることは十分な成果と言える。</p>		
	・広域ネットワーク型 F D・S D の組織体制については、平成 29 年度から始めた「大学コンソーシアムやまなし」を通じた県内大学の F D・S D 研修会の情報を教職員に提供し、その普及を図る。	III										
	・新たに実施した学生による授業評価を継続実施し、学修成果の可視化を図るとともに、初年度との比較考察・分析を行う。次年度に活用できるよう授業評価結果をまとめ、大学ホームページで公表する。	IV										
I-1-1(2)	教育の実施体制等に関する目標		S 2 A 2 B 1		B	S	A	A	S	<p>■ F D の充実に向けた努力は評価されるが、より体系的な計画を設定し、多数の教員が参加する研修とビデオ等による個別研修の組合せにより、個々の教員の経験・力量や必要に応じて、受講できるような仕組みの導入が望まれる。</p> <p>すべての授業科目に学生による評価を導入したこと自体は評価されなければならないが、現在の授業評価形式・内容では感想の域を出ず、例えば、ワークシートと連動してシラバスと実際の授業展開の異同、事前学習の指示と授業展開の関連、資料の取扱、修得目標と授業内容などを学生の視線で確認するような工夫が必要と思われる。</p> <p>また、シラバスの作成要領を改訂し、実務経験教員による教育方法の記載や授業外学修等を記載したことが特記されているが、このことが F D や学生による授業評価にどのように関連しているのか記述されていないので、年度実績評価に反映できない。(もし、関連しているのであれば記述の追加修正が必要)</p> <p>● F D・S D 研修会を着実に実施し、学修成果の可視化でも実績をあげた。</p> <p>★計画の実施とともに、内容の品質の高さが窺える。</p> <p>▼学修成果の可視化について、認証評価で高い評価を得たことは十分な成果と言える。今後も継続して実施することで更なる教育の質向上につながると思われる。</p>		
15	学生相談窓口、クラス担任制、チューター制度等を通じてきめ細やかな相談・学習支援を行う。	III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■計画されたすべての事項について、着実に多様な取り組みが進められている。</p> <p>●各学部ともチューター制度などを通じて学生の指導と支援にきめ細かく対応している。</p> <p>★きめ細やかな学生に対する支援(相談窓口・学習支援体制)が用意されている。</p> <p>ラーニングコモンズ設置がどのようになったか確認したい。</p> <p>◆各学部とも、きめ細かい支援ができています。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p> <p>ラーニングコモンズは、どういう場所にどのように設置したかの記述があると分かり易い。</p>		
	・飯田図書館においては、引き続き施設・設備の整備に努め、ラーニングコモンズとしての機能向上を図る。	III										
	・看護図書館においては、必要な備品、什器類を購入し、適所にラーニングコモンズを設置する。	III										

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永 委員長	●金丸 委員	★山口 委員	◆古屋 委員	▼島田 委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
16	・学生の意見聴取制度の一環として、池田キャンパス及び飯田キャンパスの学生と学長との対話の機会を継続実施し、要望事項等の実現に努める。	III	3.0	III	III	III	III	III	III	<p>■参加者の増が期待される。</p> <p>●学生との対話の会ではもっと多くの学生に参加してほしい。</p> <p>★さらなる参加人数の向上により、意見収集の場として充実されたい。</p> <p>◆学長との対話の機会は貴重である。多くの参加者が得られるよう、この取り組みを周知(広告)し、学生生活の充実に繋がるように活用されたい。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>	III	
17	<p>・学生健康管理システムのデータ蓄積と運用により、健康診断や健康相談、健康教育等を通して生活習慣病予防や禁煙教育に重点を置き健康づくりを支援する。</p> <p>・健康調査を実施し、メンタル不調や希死念慮のある学生に対し状況確認を行い、学生メンタルヘルス相談等により個別支援を行う。</p> <p>・学生の対人関係の円滑化を目的としたプログラムを行い、学生支援の充実を図る。</p> <p>・学生支援のための連携協議会において、学生対応の事例や学生支援にまつわる最新の情報を共有し、職員の資質向上を図る。</p> <p>・平成29年度から、相談者のプライバシーを確保するため、希望者には事前予約にて個室での対応(教室等を別途予約し確保)を行っている。平成30年度も引き続き同様の対応を行う。</p>	III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■メンタルヘルス相談など学生からの多様な相談に対応する体制が整備され、充実した相談活動が実施されていることが評価される。</p> <p>●学生の健康管理や禁煙教育など、小規模な大学ならではのきめ細かい対応を評価する。</p> <p>★学生の健康管理システムを有効利用されており、身近な情報により安心して生活していくことが期待される。</p> <p>面談やメールで連絡を取れなかった学生が38名いると思われるが、残りの学生へのフォローについて記載されたい。</p> <p>個室での対応が安心して相談できる環境を保持できていると考える。実際の利用数を確認したい。</p> <p>◆保健センターを有効活用し、学生時代から個の健康はもちろん地域社会の健康(禁煙支援など)も考えられる健康教育の継続を望む。</p> <p>目標が見えにくく、多様化の時代、まずは命(自・他)を大切に作る“こころ”の育成教育、支援を望む。</p> <p>深刻な相談・対応にはプライバシー保護が最優先される。しっかりと対応している。継続していただきたい。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>		
18	<p>・授業料減免制度について、引き続き周知する機会(進学説明会等)を増やすとともに、新入生及び授業料を滞納した者に対し、制度の周知を徹底する。</p> <p>・平成29年度に行った授業料減免制度成績基準の見直しに基づき、申請者の選考を行う。</p> <p>・繰越積立金を活用し、授業料減免率を5%を継続する。</p>	III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■計画されたすべての事項について着実に取り組みが進められ、特に拡充された授業料減免比率が維持されたことは評価される。</p> <p>●授業料減免制度へのGPAの導入は学生の学力アップの面からも有効である。</p> <p>◆授業料減免制度は学生にとって学ぶ機会を増すものである。適正活用できるよう制度周知の継続をお願いする。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>		
19	<p>・1～3年次までのキャリア関連科目である「キャリアデザインⅠ、Ⅱ」及び「キャリアデザイン実践」の一部を用いて、自己分析に基づく年間の目標設定やその達成状況の把握、さらには次年度以降へのフィードバックを行うPDCAサイクルを構築することにより、キャリア教育の体系化を試行する。併せてロードマップを作成しキャリア教育の全体像を学生に示す。</p> <p>・学生生活における個々人の活動状況が蓄積できるSNSサービスWorkplaceの活用や、集中的な相談期間の設定、外部機関の活用による個別支援の強化に取組む。</p>	III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■計画されたすべての事項について着実に取り組みが進められ、特にキャリアデザイン等の授業科目などによるキャリア教育の体系化への取り組みが評価される。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p> <p>就職率については、毎年度試験結果を進捗状況に記述があると良い。</p>		

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永委員長	●金丸委員	★山口委員	◆古屋委員	▼島田委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
	I-1-(3) 学生の支援に関する目標		A		A	A	A	A	A	<p>■学生相談窓口、学生健康管理システム、キャリア教育、授業料減免の実施など学生支援については充実した取り組みが進められている。</p> <p>ラーニングコモンズについては、学生の利用実態を把握し、授業外学修の充実に繋げていくことが求められる。</p> <p>●学生の生活及び健康管理などにきめ細かい対応をしている。</p> <p>▼学生支援については、学習・生活・就職の各方面において、各計画を順調に実施している。</p>	A	
20	地域課題や社会の要請に応じた特色ある分野別の組織的研究を新規に募集し（3件）、平成29年度に学外委員を含めて設置した研究評価部会において審査・評価し、公表する。	III	3.0	III4 II1	II	III	III	III	III	<p>■募集に対して学内から応募がなかった。</p> <p>★組織的研究課題の新たな認識を期待する。</p> <p>▼組織的研究課題に応募がなかったことは残念な結果である。そもそものニーズがなかったのか、各教員に対するアナウンスが不足であったのか、応募がなかったことについて今一度フォーカスし、その結果を今年度の事業実施につなげてほしい。</p>		
	I-2-(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標		A4 B1		B	A	A	A	A	<p>■中期計画の「地域の課題や社会の要請に対応した特色ある組織的な研究」の推進は、学長プロジェクト研究に限られるものではなく、政府の研究助成制度での共同研究や自治体や地域の企業・団体との共同研究など様々な方策が可能であり、大学として多様な枠組みを提示し、それらへの教員の関わりを把握することにより、中期目標の実現を図るような取り組みの導入を検討する必要がある。</p> <p>●地域の課題に応える特色ある研究テーマについては新年度の成果に期待したい。</p> <p>▼研究評価部会の活動内容が記述からは見えてこないので工夫していただきたい。</p>		
21	地域研究事業について、従来の「共同研究」に加え、大学COC事業で実施してきた「Mirai サロン（地域との対話）」を引き続き実施する中で、地域ニーズを把握し、センターで設定したテーマの研究活動支援する「重点テーマ研究」を創設し、重要性の高い地域課題解決に向けた研究活動を行う。	III	3.0	III4 II1	II	III	III	III	III	<p>■地域研究事業の「重点テーマ」の創設について、テーマ設定が年度末に行われ、具体的な研究活動は次年度からとなった。（年度計画の策定内容が実現可能性を十分考慮していないものであったとも考えられる）</p> <p>●地域の課題解決に向けて次年度以降、地域研究交流センターでの具体的な成果に期待する。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p> <p>重点テーマ研究の実施は今後の展開に期待する。</p>		

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永委員長	●金丸委員	★山口委員	◆古屋委員	▼島田委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
22	・研究倫理教育責任者のリーダーシップのもと効果的な研究倫理に関する研修を実施する。 ・「利益相反マネジメントポリシー」及び「利益相反マネジメント規程」の適正な運用を行う。	III III	3.0	III	III	III	III	III	III	■計画された事項について着実に取り組みが進められた。 ●研究倫理に関する研修会の参加率が高く、欠席者へのフォローもしっかりやっている。 ★科学研究費補助金の獲得をするため、書き方をテーマにした研修会は有効であり。出席率の高さから、今後も引き継ぎ実施することが期待される。 ◆研究倫理保持の管理が適正にされている。 ▼年度計画を順調に実施している。	III	
23	・No. 21 に記載した「重点テーマ研究」を通じて、地域課題解決に向けた、学部の横断及び複数の教員による大規模研究活動を推進するための基盤を構築し、試行する。	III	3.0	III4 II1	II	III	III	III	III	■年度計画には「試行する」と記載されているが、試行は行われなかった。 ●地域研究事業の重点テーマ研究については、市町村との対話を通じて、新年度に具体化してほしい。 ▼年度計画を順調に実施している。 重点テーマ研究の実施は今後の展開に期待する。		
24	・平成 29 年度に引き続き、科学研究費の申請等に関する研修会を多くの教員が参加できる時期に実施する。 ・平成 29 年度に引き続き、科研費以外の外部資金の公募についても速やかにメール等で案内するとともにポスターによる掲示を行う。 ・教員の科研費申請を推進するために、引き続き科研費を獲得した教員の属する学部へ間接経費 10%相当額を配分する取組を行う。 ・科研費の申請を推進するために、新たに科研費（S、A、B）に不採択となった場合で、Aランクの教員に対する奨励金制度を創設する。	III III III III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	■計画された事項について着実に取り組みが進められるとともに、臨機応変に奨励金制度を運用した。 ★科学研究費補助金の獲得のための研修の実施、メールやポスターによる周知が獲得率のアップに貢献されたと考える。 ▼年度計画を順調に実施している。 第4回全学FD・SD研修会の参加者数（参加割合）について、昨年度と比較した状況の記述があると良い。		
25	・教員業績評価において研究業績評価を行い、その結果を公表する。	III	3.0	III	III	III	III	III	III	■計画された事項について着実に取り組みが進められた。 ●教員業績評価を計画通りに実施している。 ★学長表象とともに、ホームページでの公表は、獲得者の意欲の向上が図られるため次回のさらなる獲得に貢献されたと考えられる。 ◆学長表彰の公表は次世代育成に大きな力(励み)となる。 ▼年度計画を順調に実施している。	III	
26	・平成 29 年度に引き続き、外部資金の獲得実績のほか、とくに質の高い研究成果や研究業績を上げた教員に学長表彰を行う。	III	3.0	III	III	III	III	III	III	■計画された事項について着実に取り組みが進められた。 ●優秀教員の表彰制度は良い制度だが、選考のハードルは高く維持してほしい。 ▼年度計画を順調に実施している。	III	

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永委員長	●金丸委員	★山口委員	◆古屋委員	▼島田委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
I-2-(2)	研究実施体制等の整備に関する目標		A 4 B 1		B	A	A	A	A	<p>■地域研究交流センターに関連して計画された事項について取り組みが進められていることは評価されるが、年度計画の内容が、必ずしも学術研究の推進の在り方や大学の実際の状況等を踏まえたものとなっていないように考えられる。また、大学として、研究活動をどのように進めていくかについて、取り組みの全体像や相互の関連が実績報告書や参考資料に明確に示されていない。</p> <p>●地域研究交流センターなどを通じて、地域課題の解決をめざす大学の姿勢を評価する。</p> <p>▼各計画を順調に実施しているほか、昨年度指摘された事項についても適切に対応している。</p>		
27	<p>学部や国際交流委員会が連携しながら、国際教育研究センターの全学組織化へ向けての具体的な準備をする。</p> <p>・平成30年3月現在、20大学と提携することができているため、提携に基づいたプログラム開発を進める。</p>	III	3.0	III4 II1	II	III	III	III	III	<p>■大項目コメントのとおり。</p> <p>●テキサスの大学の短期受け入れプログラムではセンターと複数のゼミ、学生が協力して活気のある交流が展開された。</p> <p>◆「国際化ポリシー」を策定し、運用する中で当学の多文化共生への具体的な取り組み姿勢が見える。</p> <p>▼国際教育研究センター改組に関しては、関係部署と調整中とあるが、どのような状況なのか具体的な記述があると良い。他の提携大学についての状況の記述があると良い。</p>		
28	<p>平成30年4月において、交換留学協定校は9校あり、12名の交換留学生を受け入れることとなっている。今後はより広い地域との交流協定の推進や、プログラムの内容について検討を行う。</p>	III	3.0	IV2 III3	IV	IV	III	III	III	<p>■中期計画に示されたKPI（交換留学協定大学数、海外留学／外国人留学生数）を上回る実績を挙げた。</p> <p>●海外の交換留学協定校8校以上という中期計画の目標を上回っている。</p> <p>◆交換留学協定校が9校あり「留学プログラム」のもと交流が図られている。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>		
29	<p>学事暦見直しのプロジェクトチームの検討結果を踏まえて、学内行事運営の見直しによる年間暦の一部変更を実施し、グローバル化に対応する。</p> <p>・毎年度策定する大学の人事方針の中に、平成29年度に決定した「常時6人以上の外国人教員を維持すること」を明記し、その推進を図る。</p>	III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■全学人事方針において、中期目標に示されたKPI（外国人教員比率）を上回る内容を明文化した。</p> <p>★秋入学制の導入などについて、どのように対策していくか確認したい。</p> <p>人事方針の中に重点項目として明記されていることを確認したが、実際の結果についての記載をされたい。</p> <p>◆「諸行事の見直し」が学生にとってより良いものであるように望む。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p> <p>グローバル化への対応についての記述があると良い。</p>		

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永委員長	●金丸委員	★山口委員	◆古屋委員	▼島田委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
I-3	大学の国際化に関する目標		A 4 A/B 1		A / B	A	A	A	A	<p>■計画されたすべての事項について一定の取り組みが進められ、それらの成果が期待されるが、国際教育研究センターの全学組織化を通じて、留学生／海外研修に対する支援措置や外国大学との交流をどのように進展させようとしているのか、具体的な検討状況や現時点での方針などが、実績報告書に全く記述されていないので、これに関する取り組みが着実に進められていると判断できない。</p> <p>(必要があれば、報告書の記述を追加修正の上、再評価)</p> <p>●大学の国際化についてしっかりと取り組んでいる。</p> <p>▼国際教育研究センターの全学組織化について、中期計画では平成30年度を目途に行うとされているが、まだ全学組織化には至っていないので、早急に実施されることが望まれる。</p>		
30	<p>地域研究交流センター及びキャリアサポートセンターの事務局機能を統合し「社会連携課」を新設することで、地域課題に対応した教育研究活動の支援基盤を構築する。</p> <p>・平成29年度で終了した大学COCの取組を継承し、地域研究事業を活用しながら研究活動と連動した実践的教育プログラムを推進する。</p> <p>・COC+を通じて、他大学との連携により全学共通科目となるプロジェクト型インターンシップ「フューチャーサーチ」をはじめとした地域における実践的教育プログラムを強化する。各学部による上記授業科目の実施に際して、地域研究交流センターとキャリアサポートセンターの連携を図りながら、支援体制を構築する。</p>	III	3.3	IV3 III2	IV	IV	III	IV	III	<p>■外部からの相談のためのフローチャートの作成、内閣府事業への採択による地域実践教育プログラムの充実などは相当な実績を挙げたものと高く評価される。</p> <p>●Miraiサロンのプロジェクトに多くの学生が参加し、地域の課題に積極的に取り組んだ。</p> <p>◆「社会連携課」を新設。「地域からの対応へのフロー」を作成し、流れが分かり柔軟な対応を可能にしている。目的が達成できる取り組みに期待する。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p> <p>新たにプログラムを追加したことは高く評価できる。今後の展開に期待する。</p>		
31	<p>認定看護師の育成・支援を継続実施する。</p> <p>・看護職が学び続ける場を提供するために、看護実践開発研究センター機能を活かした独自のプログラム、ならびに県からの看護職が学び続ける場の提供に係る委託事業を企画・実施する。</p>	III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■認定看護師育成等が定員を上回る規模で実施され、県内入学者も着実に増加したことは高く評価される。</p> <p>●認定看護師の育成に取り組む姿勢を評価する。</p> <p>◆計画通り人材の育成ができています。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>		

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永 委員長	●金丸 委員	★山口 委員	◆古屋 委員	▼島田 委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
32	・県民の社会人学び直し事業(リカレント教育)の一環として、観光講座や子育て支援者養成講座のほか、山梨経済同友会との連携に基づく山梨学講座(夜間)を継続実施する。	III	3.3	IV3 III2	IV	IV	IV	III	III	<p>■計画されたすべての事項について着実な取り組みが進められ、山梨県立大学フューチャーセンターが開設された。</p> <p>●山梨経済同友会との連携事業など社会人教育の充実についての積極的な取り組みを高く評価する。</p> <p>★県民の社会人学び直し事業に対応して、計画以上に進行している。</p> <p>◆「やまなしの創世」講演などリカレント教育が継続実施されている。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。 拠点を開設したことは高く評価できる。 各種公開講座の位置付けの明確化についての記述があると良い。</p>		
	・社会人の多様な要請に応えるため、平成29年度から検討を始めた学外における学びの拠点形成(サテライト教室)のためのプログラム設計を行い、大学のリカレント教育の充実・向上を目指す。	IV										
	・地域研究交流センターで主催する、各種公開講座の位置付けを明確にした上で、社会人学び直し事業の制度化を検討し、試行する。	III										
33	・平成29年度に連携協定を締結した山梨総合研究所などの各種団体と連携しながら、「Miraiサロン(地域との対話)」による地域の課題の把握、それに基づく研究活動の実施(No.21、23)及び研究成果の情報提供により、地域課題の解決に向けたPDCAサイクルを構築する。	IV	4.0	IV3 III2	IV	IV	III	IV	III	<p>■計画されたすべての事項について着実な取り組みが進められ、具体的な成果が得られている。</p> <p>●行政や企業、各種団体と連携し、地域の課題解決に取り組んでいる。</p> <p>◆「Miraiサロン」が活用され始めた。福祉関係団体等との連携事業の開発や県立病院との連携による学術集会の開催で看護の質の向上や福祉について考える貴重な機会となっている。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。 年度計画を上回って実施したと言える根拠が読み取れず、「III」が妥当と考える。</p>		
34	・甲府市からの受託事業である「日本語・日本文化講座」(外国人向けの日本語講座及び日本の文化を知る・体験する講座)の開催を継続する。	III	3.5	IV	IV	IV	IV	IV	IV	<p>■計画されたすべての事項について着実な取り組みが進められ、接客英会話テキストの制作など具体的な成果が得られている。</p> <p>●県内在住外国人のための日本語学習支援は時代のニーズによく合致している。</p> <p>★講座の開催の参加人数で、ニーズとその成果がわかる。今後もさらにニーズの把握に努めて進めることを期待する。</p> <p>◆結果を出している。</p> <p>▼年度計画を上回って実施している。 様々な取組を実施したことは高く評価できる。</p>	IV	
	・教職員や学生(留学生を含む)を活用した、国際交流や多文化共生社会づくりに向けた方策を検討する。	IV										
35	・県内外の高校進路指導担当教員を対象とした大学説明会の開催、高校生による大学訪問の受入、大学教職員による高校訪問、高校への目的別の出前授業、1日大学体験及び大学授業公開の開催等を継続し、高大連携を推進する。	III	3.0	III	III	III	III	III	III	<p>■計画されたすべての事項について着実に取り組みが進められている。</p> <p>●高大連携が目標通り進められている。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。 昨年度と比較してどうだったかの記述があると良い。</p>	III	
	・平成28年度に締結した身延高校及び甲府城西高校との連携協定に基づき、相互の交流・連携を通じて、高校教育・大学教育の活性化等を図る。	III										

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永委員長	●金丸委員	★山口委員	◆古屋委員	▼島田委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
36	・自治体、保健・医療・福祉関連機関及び職能団体等との連携を強化するとともに、主要実習フィールドとの共同研究、人材交流等を継続・推進する。	III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■計画されたすべての事項について多様で意欲的な取り組みが進められ、地元企業の就職説明会等に多数の学生が参加するなどの具体的な成果が得られている。</p> <p>●県内への優秀な人材供給をめざして、各学部が熱心に取り組んでいる。</p> <p>◆計画的な交流会等の実施により、県内企業を知る機会となり、山梨の魅力を見出すことにつながり、わかりやすい情報提供から山梨県内就労につながっていく。</p> <p>看護学部における学年ごとのきめ細かい情報提供や相談等が県内就職への意識を高めている。県内就職率アップ対策による70%台維持は評価できる。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>		
	・No. 30 に記載した「社会連携課」により、地域研究交流センターと連携しながら、「フューチャーサーチ」などの地元企業・団体等との協働による「Mirai」プロジェクト（実践型教育プログラム）を実施することで、学生の地元企業への関心を高める。	III										
	・COC+、県、各種団体と連携しながら、県内企業との交流や県内就職に関するセミナー・イベント等の情報を分かりやすく学生に提供することにより、県内就職への意欲を向上させる。	III										
II 地域貢献等に関する目標			S1 A4		S	A	A	A	A	<p>■すべて計画事項が順調に進められ、成果が挙げている。</p> <p>今後、地域貢献等に関する目標に向けて進められてきた取り組みとその成果を大学の教育研究活動に取り入れ、教育研究活動の内容をより豊富なものとするための取り組みをさらに進めていくことが求められる。</p> <p>●地域の活性化に資する実学的な研究を進めている。</p> <p>▼地域貢献に向けた様々な取組を展開していることは評価できる。</p>		
37	・平成 29 年度に行った理事長選考の委員体制や選考方法の見直し手続きに基づき、新理事長選考を実施する。	III	3.0	III	III	III	III	III	III	<p>■計画された事項について一定の取り組みが進められた。</p> <p>◆理事長の選考は規程に則り、公正に行われている。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>	III	
38	・大学の戦略的運営を図るために、副学長を置くほか、平成 29 年度に設置した地方創生担当理事に加え、新たに入試担当理事を設けて高大接続改革に対応する。	III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■地域研究交流センターとキャリアサポートセンターの事務組織の一元化が実現した。</p> <p>●地域交流研究センターとキャリアサポートセンターの組織改革を計画通りに実施した。</p> <p>◆学生確保対策の強化が見える。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p> <p>年度計画の記述で「地域交流研究センター」は誤植と思われる。</p>		
	・大学の地域貢献機能を強化するために、地域交流研究センターとキャリアサポートセンターの組織改革を実施し、その運営体制や事務組織編制を改善する。	III										
39	・重点項目を盛り込んだ平成 30 年度の大学人事方針を策定し、優秀な教員採用とともに人事の透明性・公正性を図る。	III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■全学人事方針において、中期目標に示されたKPI（外国人教員比率）を上回る内容を明文化した。</p> <p>●しっかりした人事方針を策定し、人事の透明性確保に取り組んでいる。</p> <p>★教員採用の点はもとより、人事の透明性・公正性に対する取り組みに関するコメントが望まれる。</p> <p>◆人事方針に則り、人事の公正性、透明性を保ちながら優秀な人材の確保に努めている。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>		

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永 委員長	●金丸 委員	★山口 委員	◆古屋 委員	▼島田 委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
40	・引き続き、専門性の高い教員の確保に努めるとともに、大学運営全般に精通した事務局職員の育成のため適切な人事配置を行う。	III	3.0	III	III	III	III	III	III	<p>■計画された事項について着実に取り組みが進められた。</p> <p>★事務局の業務フローの検討により、二重作業の防止など適切かつ効率な人員配置につながる。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p> <p>事務局職員の人事配置についても記述があると分かり易い。</p>	III	
	・事務局では担当事項の見直しにより業務の効率化を図るとともに、新事業の提案など組織活性化のための職員による活動を支援する。	III										
41	・3年目を迎える教員業績評価制度を実施し、その結果に基づく昇給等への反映を行うとともに、各評価領域（教育、研究、社会貢献、学内運営）における優秀な教員を理事長表彰する。	III	3.0	III	III	III	III	III	III	<p>■計画された事項について着実に取り組みが進められた。</p> <p>●教員の業績評価は大学のレベルアップのためにも重要であり、評価の客観性の確保に努めてほしい。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>	III	
	・プロパー職員については、年度計画等の達成への取り組み状況を含め、県派遣職員に準じた方法により適切な人事評価を実施し、その結果を給与等に反映する。	III										
42	・引き続き、事務局職員のプロパー職員化を進める。	III	3.0	III	III	III	III	III	III	<p>●事務局職員のプロパー化に向けて計画通り進めている。</p> <p>◆計画通り実施できている。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>	III	
43	平成31年度からの課室内の体制について、事務の効率化及び事務負担の軽減の観点から具体的に見直しを進める。	III	3.3	IV4 III1	IV	III	IV	IV	IV	<p>■インターネット出願制度が導入され、またwebレターの導入に向け、具体的な準備が進められた。</p> <p>★業務工程表による工程の見直しなど、事務の効率化が図られている。また、AIを導入するなどにより、財務会計システムのさらなる効率化の検討が望まれる。</p> <p>◆事務量の削減、事務の効率化により、学生への利便性が高まっている。</p> <p>▼学生証・証明書自動発行機の導入に加え、インターネット出願により事務量を削減したことは評価できる。</p>		
	・財務会計システムの更新により事務局職員の会計業務の効率化を進める。	III										
	・学生の利便性向上及び、職員の事務量削減のために、学生証・証明書自動発行機の導入を進める。	IV										
44	国、公立大学協会などが主催する外部研修へ職員を派遣し、大学運営に関する専門的知識を備えた職員を育成する。	III	3.0	III4 II1	II	III	III	III	III	<p>■計画されたすべての事項について取り組みが進められたが、実績報告書の記述内容では、それらが中期目標に記載された「プロパー事務職員に関するキャリアパスの策定」あるいは策定された内容との関連が不明であり、中期目標の実現に向けた各年度の取り組みとして適切に評価することができない。</p> <p>(必要があれば、報告書の内容を追加修正の上で再評価)</p> <p>●多くの職員を外部研修に派遣している姿勢を評価する。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>		
	・外部研修で得た知識を他の職員に還元するための場を年2回試行的に設ける。	III										

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永委員長	●金丸委員	★山口委員	◆古屋委員	▼島田委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
III-1	業務運営の改善及び効率化に関する目標		A4 A/B1		A / B	A	A	A	A	<p>■計画された多くの事項について順調に取り組みが進められ、特に、地域研究交流センターとキャリアサポートセンターの事務組織の一元化などが実現したことなどが評価される。一方、平成29年度に一部実施された委員会の統合等や構成員の見直し、会議形式の変更等について、その後の進捗状況などを報告書に記述することが求められる。</p> <p>●業務の改善に向けて組織改革を実施し、職員のプロパー化にも努力している。</p> <p>★業務フローの見直しが進んでおり、さらなる効率化が期待される。</p> <p>▼事務局職員のプロパー職員化を着実に進めており、業務の効率化を実施していることは評価できる。</p>		
45	引き続き、教職員ポータル等を活用した情報の共有化を図るとともに、科学研究費補助金についての研修会を実施する。	III	3.3	IV2 III3	III	IV	IV	III	III	<p>■目標金額を上回る寄附金を獲得したことは評価されるべきであるが、中期目標は外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標として「科学研究費補助金への申請率」向上等が示されており、その面での取り組みが成果に結びついていない。</p> <p>一方、中期計画項目30に係る実績として、内閣府の事業に採択された旨の記載があるが、当該事業補助金の受領は外部資金獲得実績として本項目に記載すべきものとする。</p> <p>(山梨県において受領し、法人決算に反映されていない場合であっても、当該補助金により法人として事業を実施した場合には、実質的に外部資金として取り扱うべきものとする。これは、科学研究費補助金は研究者個人に対する補助金であって、その間接経費が法人決算に反映されるだけであるにもかかわらず、外部資金獲得に係る目標として科学研究補助金申請が重視されていることと同様である)</p> <p>●古本募金で目標をクリアした事は評価できる。</p> <p>★自己収入の増加に対する取り組みへの姿勢が積極的でありその成果が出ている。</p> <p>◆古本募金について分かりやすい「案内」があり、目標額をクリアしている。継続に期待する。</p> <p>ホームページ閲覧状況の増減はあるが多くの方がみている。企業の広告も効果がでてくると思う。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>		
	・平成30年2月に開始した古本募金制度を新入生や卒業生等にも周知することで、古本募金制度の周知及び募金額の増加を目指す。	IV										
	・平成30年3月より開始した本学ホームページのバナー広告による自己収入の増加を図る。	III										
46	・消費税10%への引き上げについては、2019年10月まで実施延期の見込であるが、近隣の同規模大学に調査等を行い、動向を把握し、金額についての検討を引き続き行う。	III	3.0	III	III	III	III	III	<p>■計画された事項について着実に取り組みが進められている。</p> <p>●消費税引き上げなどに対する準備が着実に進められている。</p> <p>◆消費税引き上げに伴う受講料、授業料の引き上げはやむを得ないと考える。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>	III		

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永 委員長	●金丸 委員	★山口 委員	◆古屋 委員	▼島田 委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
47	経費の抑制の観点から、他の新電力を導入も検討する。	IV	3.5	IV4 III1	IV	IV	IV	IV	III	<p>■具体的な経費抑制施策が導入され、実現した。</p> <p>●電力会社との交渉で単価の引き下げに成功した。</p> <p>★経費の抑制を図るため、アイミツをとるなどで成果が出ている。引き続き、体制を維持していただきたいと考える。</p> <p>◆いかに経費の抑制を図るかの努力が見える。(冷房の使用についての注意喚起依頼など)</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。 年間削減額などの記述があると理解しやすい。</p>		
	・冷房・暖房を過度な設定にならないように、集中管理し、電気料金の削減に努める。	III										
48	・金利の情勢に留意しながら、運用方法についての判断を行う。	III	3.0	III	III	III	III	III	III	▼年度計画を順調に実施している。	III	
III-2	財務内容の改善に関する目標		S1 A4		A	A	S	A	A	<p>■計画されたすべての事項について順調に取り組みが進められ、電力使用料の節減等の成果が得られている。一方、大学の本来の使命(高度の/専門的な教育研究と教育研究を通じた社会貢献)を踏まえれば、地域研究交流センターを中心とする地域連携/産学連携活動を、受託研究、共同研究、寄附講座等として実施し、それらを通じて外部資金を獲得するという方向に取り組みが必要と考えられる。</p> <p>●経費節減についてさまざまな取り組みをしている点を評価する。</p> <p>★財務内容を改善するため、経費の面だけでなく、収入増を図るという点が課題に対する積極的な姿勢があることが評価される。</p> <p>▼財務内容については、古本募金による増収策や、ネット見積による経費抑制策など、新たな試みを取り入れていることは評価できる。</p>		
49	平成29年度、大学質保証委員会で検討を進めてきた外部委員からの指摘事項等について、法人経営及び教学経営の両面からの改善計画を明確にしその実現を図る。	IV	4.0	IV3 III2	III	III	IV	IV	IV	<p>■大項目コメントのとおり。</p> <p>●外部委員の指摘事項について行動計画を立て一部を実施した。新年度は更なる努力をしてほしい。</p> <p>★日本人学生の海外経験の比率において、国立・公立・私立すべてを含めた全国大学ランキング40位の結果が対応の高さが窺える。</p> <p>大学改革支援・学位授与機構から認証評価により、事例報告校として選出された点は、特筆すべき事項と考えられる。</p> <p>▼他大学に先んじてガバナンスコード及び教育の質保証のための教学マネジメント指針を策定するなど、大学質保証委員会が十分機能した結果により、認証評価の結果が良好となり、事例報告校にも選出されたことは高く評価できる。</p>		
	・認証評価受審のための本学における自己点検・評価書や基本統計データ等を完成・提出し、大学改革・学位授与機構から認証評価を受け、その結果をホームページに公表する。	IV										

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永委員長	●金丸委員	★山口委員	◆古屋委員	▼島田委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
III-3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する 目標			S 3 A 2		A	A	S	S	S	<p>■認証評価で好評を得たことは評価されるべきであるが、中期目標には「法人経営と教学経営の双方の観点から自己点検・評価を実施する」とあり、認証評価は教学経営の観点からの自己点検・評価を確認するものであって、他方、法人経営の観点からの実績報告の記述が十分でない。</p> <p>また、教学マネジメントは、大学本部が学部や学科の教育活動にコミットしていく体制と仕組みを整備することを趣旨とするものであり、評価はそれらの整備を踏まえてのものであるべきと考える。</p> <p>●教育研究活動と業務運営の両面で計画通り自己点検と評価を実施している。</p> <p>★大学改革支援・学位授与機構による認証評価を受審してその結果を公表するにとどまらず、高い評価を受けていることは特筆すべき事項と判断する。</p> <p>▼認証評価結果において、「主な優れた点」8、「更なる向上が期待される点」1、「主な改善を要する点」なし、との高い評価を受けたことは特筆すべき成果である。</p>		
50	・本学の事業成果や教育実践内容に関するホームページを充実させたいと、ポータルへのリンクにより本学の特色を社会へ広く情報発信する。	III	3.0	III	III	III	III	III	III	<p>■計画された事項について取り組みが進められている。</p> <p>●ホームページはできる限り更新の回数を増やす努力が大切である。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>	III	
51	大学ホームページの内容のリニューアルと情報検索の利便性を高めたサイトの見直しをすすめることによる、広報体制の充実を図る。また、大学案内についても内容の充実を図り、学生募集につながるよう再構成を行う。	III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■公式ウェブサイトからアクセスすることが容易になった。</p> <p>★HPを内部対象者のみならず、学生募集の際に受験者に選択肢としてより目が留まるように、引き続き検討されることを期待する。</p> <p>◆次年度(平成31年度)での検討と見直しができ、リニューアルを期待する。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p> <p>進捗状況については、誰が何を実施しているか把握できるよう工夫いただきたい。</p>		
52	・定期点検等の結果を踏まえて老朽化した設備の更新について、計画的な修繕を行うとともに、教職員・学生等の意見・要望等を反映させた施設整備、教育研究設備の充実を図る。	III	3.0	IV2 III3	IV	III	IV	III	III	<p>■施設の「修繕必要箇所概要並びに修繕優先度一覧」をまとめたこと、また厳しい財政状況の下でありながらラーニング commonsの整備や修繕、改修など利用者のニーズに応じたきめ細かな環境整備が実施されたことは高く評価される。</p> <p>●年度計画を着実に実施している。</p> <p>★修繕一覧作成により、予算と緊急性のバランスをとった対応に計画の高さが窺える。</p> <p>◆修繕を要する箇所が沢山ある。急・不急、予算との兼ね合いを考慮して修繕ができています。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>		

小項目	年度計画	法人評価	法人評価 平均値	委員 評価	■徳永委員長	●金丸委員	★山口委員	◆古屋委員	▼島田委員	委員コメント等	委員会 評価 (案)	判断理由・委員会としてのコメント
53	<p>・大学運営に支障のない範囲で地元自治会等学外に積極的に施設を開放し、地域の資源として、市民の学びの場や健康づくりの場として活用するなど、地域の人と人をつ結びつける拠点として有効利用を図る。</p> <p>・飯田キャンパスに昨年度開設した学食「グローバルキッチン」を地域住民の利用にも開放する。</p>	III	3.0	III	III	III	III	III	III	<p>■計画されたすべて事項について着実に取り組みが進められている。</p> <p>●大学施設の一般への開放を計画通り実施している。</p> <p>★地域社会と交流しやすい環境を構築されている。</p> <p>◆開かれた大学運営に努力している様子がわかる。安全性を考慮しつつ地域で活用できる場であり続けて欲しい。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>	III	
54	<p>・教職員のストレスチェックを行うとともに職場分析も行い、その結果を執務環境改善に反映する。</p> <p>・防災訓練の実施等を通じ、教職員・学生の危機管理意識の啓発や災害対応力の維持向上に努めるとともに、そのために必要となる防災備品等の充実を図る。</p> <p>・健康診断及び健康相談等を通して教職員の疾病の早期発見、健康の保持増進に取り組む。</p>	III	3.0	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■計画されたすべての事項について着実に取り組みが進められ、特に多くの教職員がストレスチェックを受け、必要な措置が執られたことは評価される。</p> <p>●思いもよらぬ災害、事件が頻発する昨今、防災対策にはさらに留意してほしい。</p> <p>◆教職員の健康管理がきめ細かく実施されている。防災訓練等を実施し、危機管理意識向上に努めている。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>		
55	<p>・環境配慮については、年度始めのオリエンテーション及び年に1回環境研修会を実施し、教職員や学生に環境配慮への意識を高める。</p> <p>・人権尊重やハラスメントについては、年度始めのオリエンテーションにおいて、本学の人権委員である弁護士から学生に対して人権に関する講話を行う。また、四半期ごとに、ハラスメントに関する情報を配信し、人権意識の向上を図る。</p> <p>・また、アンケート及び研修会を実施するとともに、各学部教授会及び事務局課長会議の際に毎月の人権委員会の対応状況を報告し、ハラスメントのない大学環境への配慮について教職員の意識向上を図る。</p>	III	3.3	IV1 III4	IV	III	III	III	III	<p>■計画されたすべての事項について着実に取り組みが進められ、特に多くの学生からハラスメントに関する回答を得られたことなどは評価される。</p> <p>◆「ハラスメント」をそのままにしないで、遠慮なく相談でき、「一人ひとりが尊重される大学をめざしている」ことが伝わってくる。</p> <p>▼年度計画を順調に実施している。</p>		
III-4 その他業務運営に関する目標			A	A	A	A	A	A	A	<p>■評価されたすべての事項について着実に取り組みが進められ、それぞれ一定の成果を得ている。しかし、昨年度も指摘したことがあるが大学の公式ウェブサイトやラーニング commons のサイトが見当たらないため、改善して欲しい。</p> <p>●大学のPRや防災対策などにしっかり取り組んでいる。</p> <p>★計画通り、またそれ以上の実施が拝見される。</p> <p>▼教育研究設備の充実に向け、施設修繕必要箇所概要並びに修繕優先度一覧を作成し対応していること。また、ハラスメント対策においては、研修会など各種取組により意識向上に努めていることは評価できる。</p>	A	

○全体を通して（自由記入）

■徳永委員長

- ・総じて年度計画に記載された事項については順調に取り組みが進められ、期待された以上の成果も挙げているものもあり、30年度の業務実績は計画通りの進捗状況と評価される。
- ・しかしながら、実績報告書の記載内容、記述のスタイルには教育、研究、地域貢献、国際化、管理運営等の事項区分によって差がある。また、二つ以上事項区分にまたがって関連する事項についての記述にそれらの関連を示す記述が、昨年より改善されたものの、やはり少ない。さらに、例えば、教員のFDなどは、FDの実施自体が目標ではなく、FDを通じて様々な目標を達成するという性質のことがらであり、実績報告書の記述においては、当該FDの実施を通じて、中期目標の実現に向けて具体的にどのような成果が得られたかを明確にすべきものとする。
- ・山梨県立大学の活動全体を評価するためには実績報告書の記載内容や記述方法についてさらなる工夫、洗練が必要と考えられる。

●金丸委員

- ・県立大学らしく経済団体と連携して地域の活性化に役立つ研究を推進している点を高く評価する。
- ・国際化への取り組みもよい。
- ・学生の学士カアップに向けて更なる努力を期待する。

★山口委員

- ・全体的に計画を上回る実施結果を認識致しました。
- ・今後さらに人口減少し、少子化が進むといわれる中、定員を充足するため、より魅力ある組織体制を構築されることを期待します。

◆古屋委員

- ・さまざまな取り組みを提示し、計画的に着実に実行している。今後に向けてもしっかりと継続していただきたい。
- ・学生が自信と誇りをもって「私は山梨県立大学の学生です」と言える環境整備等取り組みが続けられている。
- ・地域理解の演習や地域貢献行事等への積極的参加がみられる。県立大学がめざす方向（地域・社会貢献）がしっかりと定着しつつある。県民の期待は大きい。
- ・今後に大いに期待する。

▼島田委員

- ・中期（年度）目標の達成に向け、適切な取組がなされているとともに積極的な対応や展開が図られており、ほぼ全ての項目の計画が順調に進んでいると思われる。中でも、教育の質の向上に係る取組、学生支援に対する取組、地域貢献に向けた様々な取組、及び運営の効率化に向けた体制（組織）整備に関する取組においては多くの成果が見受けられる。特筆すべきは、理事長（学長）のリーダーシップの下、教育の内部質保証システムを構築したことなどが評価され、平成30年度認証評価において高い評価（事例報告校に選出）を得たことである。更には、他大学に先駆けてガバナンスコード及び教学マネジメント指針を策定するなど、教育の質保証に向け積極的な事業を展開していることから、今後も更なる成果・効果が期待される。
- ・一方で、若干ではあるものの、進捗状況が十分とは思われない計画（No3 アクティブラーニング実践方法の検証、No27 国際教育研究センターの全学組織化）や、見通しの甘かった計画（No20 組織的研究課題の公募、No21 重点研究テーマの創設）が散見されたことは気懸かりである。そのいずれもが難題であることは承知しているものの、常に計画の進捗状況の把握に努め、早期に対応策を講じるなどの改善を図っていただきたい。
- ・このほか、中期計画への直接的な記述はないものの、令和元年5月に山梨県及び山梨大学との連携協定を締結し、今後山梨大学との連携を強化されるということなので、関連する事業等（教養教育や看護教育など）についても、精力的に取り組んでいただきたい。
- ・以下、次年度以降の評価に向け、一点お願いしたい。
進捗状況の記述や関係資料から概ねの事柄は理解できるものの、具体的な中身が読み取り難い（取組の概要等が判らず評価し難い）項目や、前年度との比較の一覧表を作成するなど添付資料や記述を工夫した方が良いと思われる項目見受けられることから、この点を改善していただきたくお願いしたい。
- ・進捗状況における記述の工夫が特に必要と思われる計画：No. 3、20、21、27

公立大学法人山梨県立大学

平成30年度業務実績に関する評価結果

(素案)

令和元年8月

山梨県公立大学法人評価委員会

目 次

	頁
1 全体評価	
（１）過年度評価結果の概要	2
（２）平成30年度の評価結果と判断理由	4
（３）平成30年度の全体的な実施状況	5
2 項目別評価	
Ⅰ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	
1 教育に関する目標	
（１）教育の成果・内容等に関する目標	10
（２）教育の実施体制等に関する目標	12
（３）学生への支援に関する目標	13
2 研究に関する目標	
（１）研究水準及び研究の成果等に関する目標	14
（２）研究実施体制等の整備に関する目標	15
3 大学の国際化に関する目標	16
Ⅱ 地域貢献等に関する目標	17
Ⅲ 管理運営等に関する目標	
1 業務運営の改善及び効率化に関する目標	19
2 財務内容の改善に関する目標	20
3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	21
4 その他業務運営に関する目標	22
参 考	
用語注釈	24
委員構成	26
委員会開催状況等	26
山梨県公立大学法人評価委員会事務局	27
公立大学法人山梨県立大学の業務実績に関する評価基本方針	28
公立大学法人山梨県立大学の各事業年度の業務実績評価実施要領	30

1 全体評価

(1) 過年度評価結果の概要

山梨県立大学は、平成22年4月1日に公立大学法人山梨県立大学（以下「法人」という。）として再出発した。同法人の毎年度の業務の実施状況については、法人化に伴い新たに設けられた山梨県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が評価を行うものとされ、各年度の評価（平成26年度には第1期中期目標期間に係る事前評価、平成28年度には第1期中期目標期間に係る評価）を進めてきた。第2期中期目標期間の2年目となった平成29年度の業務実績の評価については、平成30年8月に、「平成29年度業務実績に関する評価結果」として取りまとめ公表した。

◆平成29年度評価結果の概要

ア 全体的な所見

- ・ 第2期中期目標の達成に向け、適切な取り組みがなされているとともに積極的な対応や展開が図られており、総じて年度計画に記載された項目については順調に進められ、期待された以上の成果を挙げているものもあり、平成29年度の業務実績は計画どおりの進捗状況であると評価する。
- ・ 中でも、教育の質の向上に係る取り組み、地域貢献に向けた取り組み、経済的困窮者に対する授業料減免措置の拡大及び運営の効率化に向けた体制（組織）整備に関する取り組みにおいては多くの成果が見受けられる。
- ・ 特筆すべきは、理事長（学長）の優れたリーダーシップの下、教育の質保証に向けた取り組みの一つである「学修成果の可視化」の仕組みを構築したことであり、これを高く評価する。今後はこれらの取り組みを更に強化させることにより、更なる成果・効果が得られることを期待する。
- ・ 一方で、若干ではあるものの、進捗が十分でないと思われる事柄（英語教育、大学の国際化、科学研究費補助金の採択数・採択率等）が見受けられるのは気懸かりである。そのいずれもが難題であることは承知しているものの、できるだけ早期に対応策を講じ、改善を図っていただきたい。
- ・ また、今後は18歳人口の減少を踏まえた対応が必要となると思われる。例えば、従来の看護大学院の修士課程に加え、博士課程の整備を検討しているとのことであるが、山梨大学をはじめ、他の県内看護系の大学とも連携・情報交換する中で検討を進めるなどの方法を執ることも可能性として考えられるので、柔軟に幅広く検討していただきたい。
- ・ 少子高齢化による全人口の減少が続き、国や県の財政も厳しい状況が続く中で、地方創生を推進する役割を担う地方の大学が生き残る道は、他にない特色を創出することである。特に地域の公立大学として、本県経済の発展や人材の定着など山梨県立大学の「地域貢献」に対する県民の期待は非常に大きく、そのことを常に意識して大学運営に当たっていただきたい。
- ・ 最後に、理事長をはじめ、大学関係者の弛まぬ努力に深く感謝するとともに、第2期中期目標の折り返しとなる3年目以降においても、大学のますますの発展に向け、引き続き、全学をあげての努力を強く期待する。

イ 評価事項

- ・ 平成28年度に設定した学士力について、その達成度の可視化のための測定を、前期・後期に区分し項目別に平均値を算出するなど十分な分析が行われ

- ており、着実に運用を開始したことを評価する。
- ・ 地域研究交流センターの研究事業について、学外委員も含めた評価委員会、選考委員会により評価と選定を行い、引き続き積極的に実施していることを評価する。
 - ・ 海外協定校の開拓を積極的に行い、平成29年度は新たに3校と協定を締結し、交換留学協定校を9校としたこと、また、それらにより協定に基づく交換留学生の受入人数が11名となり、協定校拡大の成果が着実に出ていることを評価する。
 - ・ 看護実践開発研究センターの機能を活かした認定看護師の育成や多岐に亘る独自プログラムを展開により、看護学生が学び続けられる場を提供し県内の看護の質向上に大きく貢献している点を高く評価する。
 - ・ プロパー職員の採用、職員の自主研修への支援、効果的・効率的な人員配置など戦略的・弾力的な大学運営に取り組んだ。
 - ・ 外部研究資金・自己収入の増加を図るため、科学研究費補助金の獲得に向けた研修会を昨年度に引き続き開催し、申請者増に向けた取り組みを進めたほか、新たに古本募金制度、本学ホームページのバナー広告の募集を開始した。
 - ・ 効率的・合理的な事務執行のため委員会の統合廃止を実現したことや、学生の県内就職の促進と大学と地域の連携強化のため社会連携課の新設を決定したことなど、組織の見直しを進めていることを高く評価する。
 - ・ 計画された全ての事項について順調に取り組みが進められ、特に新電力会社からの電力の購入により、経費削減に努めたことを評価する。
 - ・ 大学情報発信、施設設備の整備・活用、安全管理、法令順守等、業務運営に係る項目全てにおいて計画のとおり適切な取り組みがなされていることを評価する。
- ウ 指摘事項
- ・ 中期計画で定める4年次後期に国際政策学部の学生の半数がTOEIC650点以上を獲得するという目標の達成が困難な状況にあるのは残念である。目標達成に向け、年度計画上に目標数値を設定することを含め再検討し、各種取り組みを加速させることを期待する。またVELCテスト未受講者に対し、どのような対応を行ったのかを整理しておくなど、次期に向け（ハードルを下げることを含め）検討していただきたい。
 - ・ 研究業績評価に基づく表彰制度は、教員のモチベーションや意識向上に繋がると評価できるが、優秀教員の表彰だけでは計画に示された教員業績評価結果の公表としては不十分である。例えば、評価段階別の教員数の分布状況を公表するなど、公表内容、公表方法の検討のほか評価方法や判断基準の公表も含めて全体的に検討する必要がある
 - ・ 外部資金の獲得について、一定の実績が示されているが、共同研究や受託研究の実績がここ数年乏しいことは残念である。大学の本来的な使命（高度の、専門的な教育研究と教育研究を通じた社会貢献）を踏まえれば、地域研究交流センターを中心とする地域連携や産学連携活動を受託研究、共同研究、寄附講座等として実施し、それらを通じて外部資金を獲得するという方向の取り組みが必要と考えられる。

(2) 平成30年度の評価結果と判断理由

平成30年度は、法人化9年目を迎え、設立団体である山梨県から示された第2期中期目標及びこれにより法人が策定した第2期中期計画の3年目となっている。法人は平成30年度計画を策定し、これらの目標及び計画を達成するため、理事長（学長）のリーダーシップのもと、様々な取り組みを進めた。

評価委員会は、このたび法人から平成30年度の業務実績報告書の提出を受け、その内容について評価を行った。この結果、教育、研究、国際化、地域貢献、管理運営等の目標について、引き続き着実な取り組みが進められていると評価した。

その詳細については、後ほど具体的に記載するが、全体的な所見として以下の点があげられる。

◆平成30年度評価の全体的な所見

- ・ 第2期中期目標の達成に向け、適切な取り組みがなされているとともに積極的な対応や展開が図られており、総じて年度計画に記載された項目については順調に進められ、期待された以上の成果を挙げているものもあり、平成30年度の業務実績は計画どおりの進捗状況であると評価する。
- ・ 中でも、教育の質の向上に係る取り組み、学生支援に対する取り組み、地域貢献に向けた取り組み、及び運営の効率化に向けた体制（組織）整備に関する取り組みにおいては多くの成果が見受けられる。
- ・ 特筆すべきは、理事長（学長）の優れたリーダーシップの下、教育の内部質保証システムを構築したことなどが評価され、大学改革支援・学位授与機構による認証評価において高い評価（事例報告校に選出）を得たことである。更には、他大学に先駆けてガバナンス・コード及び教学マネジメント指針を策定するなど、教育の質保証に向け積極的な事業を展開していることから、今後も更なる成果・効果が得られることを期待する。
- ・ 一方で、若干ではあるものの、進捗が十分でないと思われる計画（アクティブ・ラーニング実践方法の検証、国際教育研究センターの全学組織化）や見通しの甘かった計画（組織的研究課題の公募、重点研究テーマの創設）が見受けられるのは気懸かりである。そのいずれもが難題であることは承知しているものの、常に計画の進捗状況の把握に努め、早期に対応策を講じ、改善を図っていただきたい。
- ・ また、今後さらに人口減少し、少子化が進むといわれる中、定員を充足するため、より魅力ある組織体制を構築されることを期待するとともに、地域の公立大学として、本県経済の発展や人材の育成・定着など山梨県立大学の「地域貢献」に対する県民の期待は非常に大きく、そのことを常に意識して大学運営に当たっていただきたい。
- ・ 最後に、理事長をはじめ、大学関係者の弛まぬ努力に深く感謝するとともに、第2期中期目標の折り返しとなる4年目以降においても、大学のますますの発展に向け、引き続き、全学をあげての努力を強く期待する。

以上のような状況を総合的に判断し、全体として第2期中期計画の達成を目指し、本年度の年度計画はおおむね順調に実施されていると認められる。

一方で、評価作業を実施する際の資料となる法人が作成した実績報告書については、記載内容、記述のスタイルには教育、研究、地域貢献、国際化、管理運営等の事項区分によって差があり、また、二つ以上の事項区分にまたがって関連する事項についての記述にそれらの関連を示す記述が、昨年より改善されたものの、やはり少ない。ま

た、進捗状況の記述や関係資料からおおむねの事柄は理解できるものの、具体的な中身が読み取り難い（取り組みの概要等が判らず評価し難い）項目や、前年度との比較の一覧表を作成するなど添付資料や記述を工夫した方が良いと思われる項目が見受けられる。

法人の活動全体を評価するためには、上記で指摘した実績報告書の記載内容や記述方法、添付資料の内容などについて、更なる工夫や洗練が必要と考えられるため、次年度以降の実績報告書の作成の際には、このことに十分に留意していただきたい。

（３）平成３０年度の全体的な実施状況

①法人の主な取り組み状況

平成３０年度は、第１期中期計画期間及びこれまでの各事業年度の業務実績に対する評価委員会の評価結果を踏まえつつ、令和３年度までを計画期間とする第２期中期計画の３年目として、昨年度に引き続き、年度計画の着実な実施に取り組んだ。

ア「教育に関する目標」について

- ・ 国際政策学部において、初めて３年次の地域理解演習を開講するとともに、ＴＯＥＩＣ等の語学検定試験の受験の促進及び得点向上を図るため、「語学検定試験受験料補助事業」を創設した。
- ・ 学生の受験利便性の向上を図るため、平成３０年度入試よりインターネット出願を導入した。

イ「研究に関する目標」について

- ・ 科学研究費補助金の申請及び獲得を促進するため、全学ＦＤ・ＳＤ研修会を開催するとともに、両キャンパスに過去に採択された申請書の閲覧コーナーを新設した。また、科学研究費奨励金制度を、若手にも拡大し、より利用しやすい制度に変更した。
- ・ 教員の研究業績評価について、教育、研究、社会貢献及び学内運営の４分野で実施し、これを踏まえ学長が行った最終評価を「学長表彰」として教育研究審議会で公表した。

ウ「大学の国際化に関する目標」について

- ・ 新たにフィリピンの南ルソン州立大学と国際交流協定を締結したほか、ニュージーランドのクライストチャーチ工科大学とも国際交流協定の締結が決定した。その他、引き続き、海外大学との交流や、地域限定特例通訳案内士の養成を進めるなど、地域の国際交流の推進に努めた。
- ・ 留学プログラムについて、長期・短期ともＪＡＳＳＯの奨学金対象プログラムに追加採択されたことを契機に、短期の海外留学生プログラムを開発した。

エ「地域貢献等に関する目標」について

- ・ 大学ＣＯＣ事業による産官民学連携、地域への人材供給等に加え、平成２７年度に採択されたＣＯＣ＋事業の副代表校（代表校：山梨大学）として、山梨県の人口の自然減・社会減と産業力の低下という地域課題の解決に、民間企業、自治体、大学、金融機関、労働界、報道機関が連携して、学卒者の地元への定着と新たな雇用の創出を目指した四つの教育プログラムに取り組んだ。
- ・ 社会人教育の充実を図るため、地域と大学による実践活動や情報発信の拠点となる「Casa Prisma」を開設し、地域の新たな価値創造に向けた実験や情報発信を行った。

オ「業務運営の改善及び効率化に関する目標」について

- ・ 職員のプロパー化を計画的に進めるとともに、各種団体等が開催する外部研修に職員を派遣し、大学運営に関する専門知識などの習得を促した。
- ・ 大学の地域貢献機能強化のための組織改革として、新たに「社会連携課」を設置し、地域研究交流センターとキャリアサポートセンターの事務を一本化した。

カ「財務内容の改善に関する目標」について

- ・ 外部研究資金・自己収入の増加を図るため、科学研究費補助金の獲得に向けた研修会を昨年度に引き続き開催し、申請者増に向けた取り組みを進めたほか、古本募金制度では、様々な呼びかけなどを行った結果、年度末には寄付額が13万円を超えた（年間目標10万円）。

キ「その他の業務運営に関する目標」について

- ・ 施設設備の整備について、法定点検、自主的な施設調査の結果及び学生からの要望等を踏まえ、「施設修繕必要箇所概要並びに修繕優先度一覧」を取りまとめ、計画的に整備・修繕を行った。
- ・ ハラスメントのない大学づくりに向け、教職員を対象に、ハラスメント防止に係る情報メールの配信や研修会を開催し、人権意識の向上に努めた。

②評価事項

ア「教育に関する目標」について

- ・ 国家試験合格率の維持及び向上を目指すため、模試受験料の一部負担や、模試結果を踏まえた個別指導や補習講義など、様々な取り組みを行った結果、高い合格率を維持したことを高く評価する。
- ・ 受験生の利便性を図るため、インターネット出願を導入し、入学者が増加（29年度：995人、30年度：1,135人）したことを評価する。
- ・ 学生からの多様な相談に対する体制整備が行われるとともに、学生の健康管理や禁煙教育など、小規模大学ならではのきめ細かな取り組みが行われていることを評価する。
- ・ 授業料減免制度について、平成29年度に拡充された授業料減免比率（4.4%→5.0%）を維持したことを評価する。

イ「研究に関する目標」について

- ・ 地域研究交流センターなどを通じて、地域課題の解決を目指す大学の姿勢を評価する。
- ・ 研究倫理に関する研究会の参加率が高く、欠席者へのフォローもしっかり行われていることを評価する。

ウ「大学の国際化に関する目標」について

- ・ 海外協定校の開拓を積極的に行い、平成30年度は新たに1校と協定を締結し、交換留学協定校を10校としたこと、また、テキサスA&M大学との短期受け入れプログラムにおいて、学生が協力して活気ある交流が展開されていることを評価する。

エ「地域貢献等に関する目標」について

- ・ 外部からの相談のためフローチャートの作成や、内閣府事業への採択による地域実践教育プログラムの充実などは相当な実績を挙げたものとして高く評価する。

- ・ 看護実践開発研究センターでの認定看護師の育成において、定員を上回る規模で実施され、県内入学者も着実に増加したことを高く評価する。
- ・ 国際交流や多文化共生づくりを推進するため、「カタコト英語プロジェクト」など、様々な取り組みが実施されたことを高く評価する。

オ「業務運営の改善及び効率化に関する目標」について

- ・ 効率的かつ合理的な事務執行のため、プロパー職員化が着実に進められているとともに、学生証・証明書自動販売機及びインターネット出願を導入するなど、様々な取り組みが実施されたことを評価する。

カ「財務内容の改善に関する目標」について

- ・ 財務内容を改善するため、古本基金制度による増収や、インターネット見積もり比較システム導入等による経費削減を行うなど、積極的に新たな試みを取り入れていることを評価する。

キ「その他の業務運営に関する目標」について

- ・ 厳しい財政状況がある中で、「修繕必要箇所概要並びに修繕優先度一覧」を作成し、各種修繕・改修など利用者のニーズに応じたきめ細かな環境整備が実施されたことを評価する。

③指摘事項

- ・ 組織的研究課題に応募がなかったことは非常に残念な結果である。そもそもニーズがなかったのか、各教員に対するアナウンスが不足であったのか、応募がなかったことについて今一度フォーカスし、その結果を今年度の事業実施に繋げていただきたい。
- ・ 地域研究交流センターに関連して計画された事項について取り組みが進められていることは評価されるが、年度計画の内容が、必ずしも学術研究の推進の在り方や大学の実際の状況等を踏まえたものとなっていないように考えられる。また、大学として、研究活動をどのように進めていくかについて、取り組みの全体像や相互の関連が業務実績報告書等に明確に示されていない。
- ・ 地域研究事業の「重点テーマ」の創設について、テーマ設定が年度末に行われ、具体的な研究活動は次年度からとなった。これは、年度計画の策定内容が実現の可能性を十分考慮していないものであったとも考えられる。
- ・ 国際教育研究センターの全学組織化について、中期計画では平成30年度を目処に行うとされているが、未だ全学組織化には至っていないので、早急に実施されることが望まれる。

④評価に当たっての意見

- ・ 今後、教学マネジメント体制の整備等を通じて、それらの取り組みが大学全体の明確な方針の下に、大学全体として一体的に進められることを期待する。
- ・ FD活動については、より体系的な計画を設定し、多数の職員が参加する研修とビデオ等による個別研修の組み合わせにより、個々の教員の経験・力量や必要に応じて、受講できるような仕組みの導入が望まれる。
- ・ ラーニングコモンズについては、学生の利用実態を把握し、授業外学修の充実に繋げていくことが求められる。
- ・ 地域の課題や社会の要請に対応した特色のある組織的な研究の推進については、学長プロジェクト研究に限られるものではなく、政府の研究助成制度での共同研究や自治体や地域の企業・団体との共同研究など様々な方策が可能

であり、大学として多様な枠組みを提示し、それらへの教員の関わりを把握することにより、中期目標の実現を図るような取り組みの導入を検討する必要がある。

- ・ 今後、地域貢献等に関する目標に向けて進めてきた取り組みとその結果を大学の教育研究活動に取り入れ、教育研究活動の内容をより豊富なものとした取り組みをさらに進めていくことが求められる。

(参考)項目別評価結果の一覧表(大項目評価)

項目名	評価				
	S	A	B	C	D
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標					
1 教育に関する目標					
(1)教育の成果・内容等に関する目標		○			
(2)教育の実施体制等に関する目標		○			
(3)学生の支援に関する目標	○				
2 研究に関する目標					
(1)研究水準及び研究の成果等に関する目標		○			
(2)研究実施体制等の整備に関する目標		○			
3 大学の国際化に関する目標		○			
II 地域貢献等に関する目標	○				
III 管理運営等に関する目標					
1 業務運営の改善及び効率化に関する目標		○			
2 財務内容の改善に関する目標		○			
3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標		○			
4 その他業務運営に関する目標		○			

評価基準

- S : 特筆すべき進行状況にある(評価委員会が特に認める場合)
- A : 計画どおり進んでいる
- B : おおむね計画どおり進んでいる
- C : やや遅れている
- D : 重大な改善事項がある(評価委員会が特に認める場合)

平成29年度評価結果(更新前です)

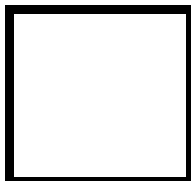
2 項目別評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育の成果・内容等に関する目標

①評価結果



評価	IV	III	II	I	計
項目数					13

②法人の主な取り組み状況

- ・ シラバス作成要領を改訂し、実務経験のある教員の教育方法の記載や授業外の学修等の記載を行った。
- ・ 学修成果としての学士力の見える化・可視化を図るため、全学レベル、部局レベルにおける学士力の達成度（4段階）を測定した。前期の全体平均値は3.47点、後期の平均値は3.51点であった。
- ・ 国際政策学部では、初めて3年次の地域理解演習が開講され、6名の教員が担当し、通年で延べ79名の学生が受講した。また、TOEIC等の語学検定試験の受験の促進及び得点向上を図るため、「語学検定試験受験料補助事業」を創設し、延べ17名の学生が利用した。
- ・ 人間福祉学部では、精神保健福祉士等の国家試験合格率の向上を目指し、模試の受験料の一部を支援した。その結果、平成30年度の国家試験合格率は、社会福祉士78.3%（全国平均28.9%）、精神保健福祉士100%（62.7%）、介護福祉士100%（全国平均73.7%）で、全国平均を上回る合格率であった。
- ・ 看護学部では、看護師等の国家試験合格率100%を目指す目標を達成するため、学生厚生委員会、キャリアサポート運営委員会が中心となり、個別指導や補習講義など、様々な側面からの支援を行った。平成30年度の国家資格合格率は、看護師99.1%（全国平均89.3%）、保健師93.3%（全国平均81.8%）、助産師100%（全国平均99.6%）と全国平均を上回る合格率であった。
- ・ 看護学研究科では、博士課程設置準備委員会を10回開催し、博士課程設置に向けた具体的な意見交換等を行った。また、専門看護コースの充実を図るため、「慢性期看護学」を新たに開設した。
- ・ 学生の受験利便性の向上を図るため、平成30年度入試よりインターネット出願を導入した結果、志願者総数が昨年度の995名から1,159名に増加（1.16倍）した。
- ・ 学生の能動型アクティブ・ラーニングを促進する教育方法等を開発するため、看護学部FD・SD委員会では、ランチョンミーティングや清水学長を講師に迎えた講演会を開催し、情報交換や意見交換を行った。
- ・ 平成29年度評価で指定事項とされた、英語教育について、平成30年度の学部将来構想委員会で英語教育を強化するための4つの方針を定めた「English Education Enhancing Project」を作成し、教授会で承認された。

③実施状況

1) 評価事項

- ・ 国際政策学部における2学科統一に向けた学科横断型ゼミの取り組みについては、学生の視野を広げる意味からも有効であり、評価できる。
- ・ 人間福祉学部において、国家試験合格率の維持及び向上を図るため、経済的に模試の受験料が負担となる学生に対し、受験料の一部を大学が支援を行った結果、国家試験合格率が全国平均を大きく上回ったことを高く評価する。
- ・ 看護学部において、国家試験合格率の維持及び向上を図るため、国家試験対策委員会の年間活動計画に基づく支援及びきめ細やかな指導を行った結果、看護師、保健師等の国家試験で高い合格率を維持したことを評価する。
- ・ 受験生の利便性を図るため、平成30年度入試からインターネット出願を導入し、入学志願者が増加（29年度：995人、30年度：1,135人）したことを評価する。
- ・ 学生の能動型アクティブ・ラーニングを促進するきめ細かいFD・SD活動を高く評価する。

2) 指摘事項

- ・ 特になし。

3) 評価に当たっての意見

- ・ 各計画事項に係る取り組みが、概ね、順調に進められ、それらの成果が期待される。今後、教学マネジメント体制の整備等を通じて、それらの取り組みが大学全体の明確な方針の下に、大学全体として一体的に進められることを期待する。
- ・ また、大学政策が修得目標に応じた学位プログラムによる教育をめざしていることを踏まえ、全学共通科目を含めた授業科目ごとの修得目標の設定とその修得確認以上に、当該学科コース等の教育課程全体を通じて修得が期待される専門的な知識・能力と汎用的な能力を明確にし、学科・コースごとの総括・総合的な授業科目その他の教育活動を通じてそれらの修得状況を客観的に確認できるような工夫も有用と考えられる。
- ・ 「地域通訳案内士」の育成が当学コースのみになるが、関係機関との連携を密にし、年々増す来県外国人対応への人材育成をお願いしたい。
- ・ 海外協定校との連携による海外インターシップの取り組みは評価するが、短期派遣プログラムの履修者数が減少傾向にあることから、派遣学生の増加を図ることが望まれる。
- ・ 新たに創設された語学検定試験受験料補助事業について、平成30年度は17名が補助対象となったが、より一層の周知を図り、多くの学生が活用されることを期待する。
- ・ 保健師について、平成27年度定員変更後、初めて2人の不合格者が出ているので、今回の原因を究明し、今後対策を講じるようにしていただきたい。
- ・ 各学部のスペシャリスト養成のための大学院設置は、地域のニーズに合致しており、早期の開設が期待される。
- ・ 新テスト導入を踏まえ、入学者選抜入学対象者アンケートに留まらずに、入学試験と定期試験での成績対照などの本格的なEMに向けた調査研究などが求められる。

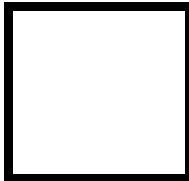
- ・ 卒業後に社会に役立つ人材を育成するためにも入試結果と入試後のGPAとの関連性の分析は重要である。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(2) 教育の実施体制等に関する目標

①評価結果



評価	IV	III	II	I	計
項目数					1

②法人の主な取り組み状況

- ・ 教育の質の向上を図るため、年間6回のテーマ別の全学FD・SD研修会を計画・実施するとともに、当該研修会の計画及び結果を、大学ホームページに掲載し、公表した。
- ・ 昨年度に引き続き、新しい授業評価による学生アンケートを全ての開設科目について実施し、学士力を基礎とした学修成果の見える化・可視化を行い、その結果を教育研究審査会で報告するとともに、平成29年度との比較考察・分析結果を踏まえて大学ホームページに掲載した。

③実施状況

1) 評価事項

- ・ 学習成果の可視化について、計画通り前年度との比較考察・分析結果を踏まえてホームページで公表していること、また、本取組が大学改革支援・学位授与機構の認証評価において高く評価されたことを評価する。

2) 指摘事項

- ・ 特になし。

3) 評価に当たっての意見

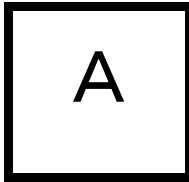
- ・ FD活動の充実について、より体系的な計画を設定し、多数の職員が参加する研修とビデオ等による個別研修の組み合わせにより、個々の教員の経験・力量に応じて、受講できるような仕組みの導入が望まれる。
- ・ すべての授業科目に学生による評価を導入したこと自体は評価されるが、現在の授業評価形式・内容では感想の域を出ず、例えば、ワークシートと連動してシラバスと実際の授業展開の異同、事前学習の指示と授業展開の関連、資料の取扱、修得目標と授業内容などを学生の視線で確認する工夫が必要と思われる。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(3) 学生への支援に関する目標

①評価結果



評価	IV	III	II	I	計
項目数					5

②法人の主な取り組み状況

- ・ 学生にきめ細やかな相談・学習支援を図るため、学生相談窓口を両キャンパスに設置し、修学や日常生活のための相談や助言を行うとともに、学部毎に様々な取り組みを行った。
- ・ 昨年度アクティブ・ラーニングに対応するラーニングコモンズに改修した飯田図書館の機能向上を図るため、プロジェクター、スクリーン及びホワイトボード等の整備を行った。また、看護図書館の2階を、アクティブ・ラーニングに対応したラーニングコモンズに新たに改修した。
- ・ 学生健康管理システムにデータを蓄積し、個々の健診結果や保健センター利用履歴等を活用して健康づくりを支援するとともに、学園祭で生活習慣病やタバコの害に関する健康教育を実施した。
- ・ 授業料減免制度について、オープンキャンパスや、大学説明会において制度の概要を記載したチラシを配布し、制度の周知を徹底した。また、平成29年度に改正した授業料減免制度に基づき、「GPA制度」を用いた成績基準により対象者の選考を行うとともに、昨年度の授業料減免比率5.0%を維持した結果、平成30年度の対象者(214名)は前年度並みであった。
- ・ 就職支援について、更なるキャリア関係授業とキャリアサポートセンター(CSC)事業の連携強化に向けて、CSCスタッフ及び外部の専門家による議論を経て、「山梨県立大学キャリアサポート体制の体系化と見える化に向けて(構想)」を策定し、次年度に学生便覧に掲載するための調整を行った。
- ・ 平成31年度末の就職内定状況は、国際政策学部98.6%、人間福祉学部98.9%、看護学部100%、全学平均99.2%と高い水準を維持(29年度全学平均99.6%)した。

③実施状況

1) 評価事項

- ・ 各学部ともチューター制度などを通じて学生の指導と支援(相談窓口・学習支援体制)にきめ細かく対応していることを評価する。
- ・ メンタルヘルス相談など、学生からの多様な相談に対する体制が整備され、充実した相談活動が実施されていること、また、学生の健康管理や禁煙教育など、小規模な大学ならではのきめ細かい取り組みが行われていることを評価する。
- ・ 授業料減免制度は、学生にとって学ぶ機会を増すものあることから、拡充された授業料減免比率を維持されたことは評価できる。

2) 指摘事項

- ・ 特になし。

3) 評価に当たっての意見

- ・ ラーニングコモンズについては、学生の利用実態を把握し、授業外学修の充実に繋げていくことが求められる。
- ・ 保健センターを有効活用し、学生時代から個の健康はもちろん地域社会の健康（禁煙支援など）も考えられる健康教育の継続が望まれる。
- ・ 目標が見えにくく、多様化の時代、まずは命（自・他）を大切にする“こころ”の育成教育、支援が望まれる。
- ・ 深刻な相談・対応には、プライバシー保護が優先されるため、適切な対応の継続をお願いしたい。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

①評価結果

--

評価	IV	III	II	I	計
項目数					1

②法人の主な取り組み状況

- ・ 地域課題や社会の要請に応じた特色ある分野別の組織的研究を新規に募集したが応募がなかったことから、次年度からの見直しを検討した結果、地域研究交流センター事業に組み入れて実施することとした。
- ・ 大学の奨励事業として始まった農福連携事業については支援を続け、県農業大学校との連携協力の下で、活発な教育研究活動を行い、就農者を生み出すなど一定の成果を得た。

③実施状況

1) 評価事項

- ・ 特になし。

2) 指摘事項

- ・ 組織的研究課題に応募がなかったことは非常に残念な結果である。そもそもニーズがなかったのか、各教員に対するアナウンスが不足であったのか、応募がなかったことについて今一度フォーカスし、その結果を今年度の事業実施に繋げていただきたい。

3) 評価に当たっての意見

- ・ 中期計画に示された「地域の課題や社会の要請に対応した特色のある組織的な研究」の推進は、学長プロジェクト研究に限られるものではなく、政府の研究助成制度での共同研究や自治体や地域の企業・団体との共同研究など

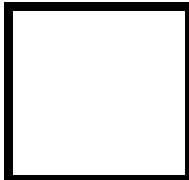
様々な方策が可能であり、大学として多様な枠組みを提示し、それらへの教員の関わりを把握することにより、中期目標の実現を図るような取り組みの導入を検討する必要がある。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

2 研究に関する目標

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

①評価結果



評価	IV	III	II	I	計
項目数					6

②法人の主な取り組み状況

- ・ 科学研究費補助金の申請及び獲得を促進するため、全学FD・SD研修会において、「科学研究費申請率・採択率アップに向けての体制づくり」をテーマに、講演「採択される申請書の書き方」、「科学研究費申請手続きの説明」を開催するとともに、両キャンパスに「採択された申請書の閲覧コーナー」を新設した。
- ・ 教育、研究、社会貢献及び学内運営の4分野に対する教員業績評価を各学部・研究科で実施（一次評価）、これを踏まえ、学長が行った最終評価を、「学長表彰」として3月の教育研究審議会で公表した。
- ・ 平成29年度評価で指摘事項とされた、教員業績評価結果に関する公表については、過去2カ年の実施状況と併せて、学部別、職階別の評価結果の分布状況を公表するとともに、次年度以降は、教育、研究、社会貢献及び学内運営の各領域における分布も公表する予定である。

③実施状況

1) 評価事項

- ・ 地域研究交流センターなどを通じて、地域課題の解決を目指す大学の姿勢を評価する。
- ・ 研究倫理に関する研究会の参加率が高く、欠席者へのフォローもしっかり行われていることを評価する。
- ・ 計画された事項について着実に取り組みが進められているとともに、昨年度指摘された事項についても適切に対応していることを評価する。

2) 指摘事項

- ・ 地域研究交流センターに関連して計画された事項について取り組みが進められていることは評価されるが、年度計画の内容が、必ずしも学術研究の推進の在り方や大学の実際の状況等を踏まえたものとなっていないように考えられる。また、大学として、研究活動をどのように進めていくかについて、取り組みの全体像や相互の関連が業務実績報告書等に明確に示されていない。

- ・ 地域研究事業の「重点テーマ」の創設について、テーマ設定が年度末に行われ、具体的な研究活動は次年度からとなった。これは、年度計画の策定内容が実現の可能性を十分考慮していないものであったとも考えられる。

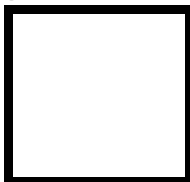
3) 評価に当たっての意見

- ・ 教員業績評価について、学長表彰とともに、ホームページでの公表は、獲得者の意欲の向上が図られるため、次回の更なる外部資金の獲得に貢献されると考えられる。
- ・ 科学研究費補助金を獲得するため、書き方をテーマにした研修会の開催やメール及びポスターによる周知は有効であり、獲得率のアップに貢献されることから、今後も引き続き実施することが期待される。
- ・ 優秀教員の表彰制度は良い制度だが、選考のハードルは高く維持していただきたい。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

3 大学の国際化に関する目標

①評価結果



評価	IV	III	II	I	計
項目数					3

②法人の主な取り組み状況

- ・ 提携に基づいたプログラム開発を進めるため、提携に基づきテキサスA & M大学を対象として短期受入プログラムを開発し、実施するとともに、本学の国際化に果たす役割について取りまとめた「国際化ポリシー」を策定した。
- ・ 外国の大学等との国際交流協定については、新たにフィリピンの南ルソン州立大学と平成31年3月に提携を結んだほか、ニュージーランドのクライストチャーチ工科大学との提携が決定した。
- ・ 留学プログラムについて、平成30年度は長期・短期ともJASSOの奨学金対象プログラムに追加採択されたことを契機に、段階的な報告書の作成方法などを行えるように検討を行った。また、2月に短期の海外留学生プログラムを開発した。プログラムには2名の応募があり、クライストチャーチ工科大学で実施した。

③実施状況

1) 評価事項

- ・ テキサスA & M大学の短期受け入れプログラムにおいて、センターと複数のゼミ、学生が協力して活気のある交流が展開されたこと、また、「国際化ポリシー」を策定し、運用する中で当学の「多文化共生」への具体的な取り組み姿勢が見られることを評価する。

- ・ 中期計画に示された交換留学協定校（8校以上）を上回る実績を挙げていること、また、各種プログラムに基づき、韓国のハンバツ大学やニュージーランドのクライストチャーチ大学と交流が行われるなど、国際的な協力・交流が積極的に進められていることを評価する。

2) 指摘事項

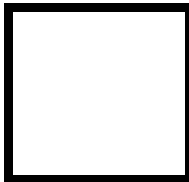
- ・ 国際教育研究センターの全学組織化について、中期計画では平成30年度を目処に行うとされているが、未だ全学組織化には至っていないので、早急に実施されることが望まれる。

3) 評価に当たっての意見

- ・ 特になし。

II 地域貢献等に関する目標

①評価結果



評価	IV	III	II	I	計
項目数					7

②法人の主な取り組み状況

- ・ 平成29年11月に締結した拓殖大学との連携を活用し、内閣府事業「地方と東京圏の大学生対流促進事業費補助金」を獲得して、対流促進に係る事業を実施した。
- ・ COC+事業におけるプロジェクト型インターシップ「フューチャーサーチ」において、地域研究交流センターとキャリアサポートセンターの連携により、18名の学生が参加した。
- ・ 看護実践開発研究交流センターにおいて、認定看護師の育成・支援及び看護職の学び続ける場を提供するため、引き続き、緩和ケア認定看護師教育課程及び認知症看護師教育課程を開講するとともに、独自プログラムとして認定看護師フォローアップ研修会や認知症看護研修会等を開催した。
- ・ 社会人教育の充実を図るため、本学のサテライト教室として、地域と大学による実践活動や情報発信の拠点となる「Casa Prisma」を開設した。また、プレイベントとして、ワークショップ等を開催するとともに、リカレント教育の一環として東日本大震災を機に山梨県内に転入した方々によるトーク・カタリバを開催するなど、地域の新たな価値創造に向けた実験や情報発信を行った。
- ・ 地域との連携を図るため、対話の場（Miraiサロン）を通じて、人間福祉学部では、山梨県精神保健協会等との共催により、精神障害者の人権をテーマとした研修会を開催した。今後、福祉教育・実践センターを中心に、県内の福祉関係の職能団体等との連携事業のあり方を検討する予定である。また、看護学部では、県立中央病院との「包括連携協定」に基づき、3回連絡会議を開催し、情報交換を行うとともに、学術集会の共同開催等を行った。

- ・ 東京オリンピックの開催に合わせ始めた「カタコト英語プロジェクト」において、甲府中心街の商店等を対象に接客英会話テキストの制作や出前講義等を実施した。当該プロジェクトは、甲府財務事務所主催の「経済財政に関する山梨コンファレンス」で高い評価を受けるとともに、県の観光計画に採用されるなど、これまでの取り組みが学内外でも認められた。
- ・ 教育現場との連携を図るため、高校への目的別の出前授業を各学部合計で21回行い、延べ128名が参加した。また、平成28度に締結した身延高校及び甲府城西高校との連携協定に基づき、身延高校とは「高校生のハローワーク」、甲府城西高校とは「まるごと山梨館の英語メニュー作成」という課題設定を通じて授業を展開した。
- ・ 学生に県内で働くことについての関心を高めてもらうため、地元企業・団体等との協働による「Miraiプロジェクト」において、「やまなしJIBUNデザインdays」や「山梨合同JIBUN説明会」を開催し、県内企業を知る機会や山梨県の魅力を再発見する機会を提供した。
- ・ キャリアポートセンターにおいて、国際政策学部・人間福祉学部の学生に対して、実際に働くことや県内就職の魅力を伝える機会を提供する目的で、本学と連携協定を締結している山梨経済同友会会員企業の担当者を招き、計6回の講義を実施した。また、県内インターシップを促進するため、県内企業、官公庁及び山梨県情報通信協会主催などのインターシップへの斡旋及び参加を勧奨した結果、県内19カ所に28名の学生が参加した。さらに、特に4年生には、県内で行うセミナーやイベント、合同説明会、企業説明会の情報をチラシやメールなどで積極的に学生に提供し、県内就職への意識を向けるよう促した。
- ・ 看護学部では、県内就職への意欲向上を図るため、学生に対して、県内で奨学金制度のある施設一覧表を配布し、相談及び支援を行った。また、スタートアップセミナーの開催や、県内就職した卒業生の体験談を直接聞く機会の提供、チューター教員による就職活動及び国家試験合格に向けた個別指導等を行った。
- ・ 平成31年3月卒業生の県内就職率は、国際政策学部38.4%（前年度41.0%）、人間福祉学部36.0%（前年度37.0%）、看護学部70.6%（前年度69.2%）で、大学全体で50.0%（前年度49.8%）であった。

③実施状況

1) 評価事項

- ・ 社会連携課の新設に伴い、外部からの相談対応のためのフローチャートの作成や、内閣府事業への採択による地域実践教育プログラムの充実などは相当な実績を挙げたものと高く評価できる。
- ・ Miraiサロンのプロジェクトに多くの学生が参加し、地域の課題に積極的に取り組んだことは評価できる。
- ・ 認定看護師育成等が定員を上回る規模で実施され、県内入学者も着実に増加したことを高く評価する。
- ・ 学外における学びの拠点としてサテライト教室「Casa Prisma」が開設されたこと、また、山梨経済同友会との連携事業など社会人教育の充実についての積極的な取り組みを高く評価する。

- ・ 国際交流や多文化共生社会づくりを推進するため、「日本語・日本文化講座」や「カタコト英語プロジェクト」など、様々な取り組みを実施したことを高く評価する。
- ・ 県内への優秀な人材供給を目指した取り組みについて、地元企業の就職説明会等に多数の学生が参加するなどの具体的な成果が得られており、また、学生の地元企業への関心を高めるため、計画的な交流会等の実施により、県内企業を知る機会や、山梨の魅力を再発見する機会を提供していることは、県内就職率の向上に繋がることから評価できる。
- ・ 看護学部における学年毎のきめ細かい情報提供や相談などが県内就職への意識を高めており、その結果、県内就職率が70%を超えたことは評価できる。

2) 指摘事項

- ・ 特になし。

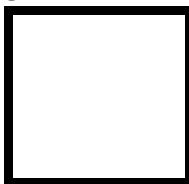
3) 評価に当たっての意見

- ・ 今後、地域貢献等に関する目標に向けて進めてきた取り組みとその結果を大学の教育研究活動に取り入れ、教育研究活動の内容をより豊富なものとした取り組みをさらに進めていくことが求められる。
- ・ M i r a i サロンが活用され始めことにより、福祉関係団体等との連携事業の開発や県立病院との連携による学術集会の開催で看護の質の向上や福祉について考える貴重な機会となっている。
- ・ 各講座の開設は、講座の開催の参加人数でニーズとその結果が分かる。今後も、さらにニーズの把握に努めて進めることを期待する。

Ⅲ 管理運営等に関する目標

1 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①評価結果



評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数					8

②法人の主な取り組み状況

- ・ 平成29年度から理事長の選考方法や手続きを見直すための検討を進め、新たな選考方法により新理事長の選考を行うとともに、その後、理事長選考の振り返りを行い、次回理事長選考に向けての検討事項を整理した。
- ・ 大学の地域貢献機能強化のための組織改革として、地域研究交流センターとキャリアサポートセンターの事務を一本化し、新たに「社会連携課」を設置した。
- ・ プロパー職員を1名採用したことにより、県派遣職員（退職派遣除く）10名、プロパー職員11名となり、ほぼ同数となった。プロパー職員には、所属する課室等の年度計画の達成を念頭においた目標設定を行わせ、県派遣職員に準じた方法で人事評価を実施し、給与等への反映を行った。

- ・ 財務会計システムの改修を行い、会計業務の効率化を図った。また、学生証・証明書自動発行機やインターネット出願制度を導入し、学生の利便性向上及び職員の事務量の削減を図った。
- ・ 公立大学協会主催の会計研修、早稲田アカデミックソリューションが実施する学生対応力向上研修及びリーダーシップ研修などの外部研修に延べ35名の職員を派遣し、大学運営に関する専門的知識などの習得を促した。

③実施状況

1) 評価事項

- ・ 計画通りに、地域研究交流センターとキャリアサポートセンターの事務組織の一元化などが実現したことを評価する。
- ・ 全学部で人事方針を策定し、中期計画に示されたKPI（外個人教員比率）を上回る内容を明文化したこと、また、同方針に則り、人事の公平性、透明性を保ちながら優秀な人材の確保に努めていることを評価する。
- ・ 事務局職員のプロパー職員化を着実に進めており、業務の効率化を実施していることを評価する。
- ・ 学生証・証明書自動発行機の導入に加え、インターネット出願により事務量の削減をしたことを評価する。
- ・ 大学運営に関する専門的知識を備えた職員を育成するため、多くの職員を外部研修に派遣している姿勢は評価できる。

2) 指摘事項

- ・ 特になし。

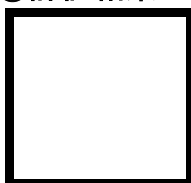
3) 評価に当たっての意見

- ・ 教員の業績評価は大学のレベルアップのためにも重要であることから、評価の客観性の確保に努めていただきたい。
- ・ 業務工程表による工程の見直しなど、事務の効率化が図られており、また、AIを導入するなどにより、財務会計システムの更なる効率化の検討が望まれる。
- ・ 平成29年度に一部実施された委員会の統合や構成員の見直しなど、会議に形式の変更等について、その後の進捗状況などを報告書に記載することが求められる。

Ⅲ 管理運営等に関する目標

2 財務内容の改善に関する目標

①評価結果



評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数					4

②法人の主な取り組み状況

- ・ 科学研究費補助金の申請率の向上を図るため、「科学研究費の獲得と研究倫理

に関する研修会」を開催し、採択される科学研究費申請書の書き方や申請手続きについての説明を行った。

- ・ 古本募金制度について、様々な広報活動を行った結果、10月には年間目標の10万円を超過し、年度末には寄付額が13万円を超えた。
- ・ 新電力の電力会社と電力料金の引き下げ交渉を行った結果、平成31年度の電気料金単価の削減を図ることができた。
- ・ インターネット出願制度や各種証明書自動発行機の導入、インターネット見積もり比較システムの活用等により、人件費や印刷費等の削減を図った。
- ・ 平成29年度評価で指摘事項とされた、外部資金の獲得に係る取り組みについては、本学が新たに設置した拠点施設「Casa Prisma」を活用し、フューチャーセンター準備会を中心に寄付講座の開設や地域の情報発信などの受託事業の獲得に向けた取り組みを推進する予定である。平成30年度は、新たに1件の新規受託研究を獲得して研究を実施中である。

③実施状況

1) 評価事項

- ・ 財務内容を改善するため、古本基金による増収策や、電気料金の引き下げ交渉及びインターネット見積もり比較システムの導入等による経費削減対策など、積極的に新たな試みを取り入れていることは評価できる。

2) 指摘事項

- ・ 特になし。

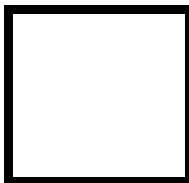
3) 評価に当たっての意見

- ・ 古本募金について、目標金額を上回る寄付金を獲得したことは評価されるべきであるが、中期目標は外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標として「科学研究費補助金への申請率」の向上等が示されており、その面での取り組みが成果に結びついていない。一方、中期計画項目No. 30に係る実績として、内閣府の事業に採択された旨の記載があるが、当該事業補助金の受領は外部資金獲得実績として本項目に記載すべきものとする。

Ⅲ 管理運営等に関する目標

3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価結果



評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数					1

②法人の主な取り組み状況

- ・ 学部委員からの指摘事項等を受け、検証を進めるとともに改善のため行動計画を立て、国際化ポリシーの策定をはじめ一部を実行した結果、日本人学生の留学比率において、全国大学40位となった。また、国の高等教育無償化

政策に対応するために、他大学に先んじてガバナンス・コード及び教育の質保証のための教学マネジメント指針を策定した。

- ・ 大学改革支援・学位授与機構による認証評価を受審し、「主な優れた点」8、「更なる向上が期待される点」1、「主な改善を要する点」なし、との高い評価を受け、その結果をホームページで公表した。

③実施状況

1) 評価事項

- ・ 他大学に先んじてガバナンス・コード及び教育の質保証のための教学マネジメント指針を策定するなど、大学質保証委員会が十分機能した結果により、大学改革支援・学位授与機構による認証評価の結果が良好となり、事例報告校にも選出されたことを高く評価する。

2) 指摘事項

- ・ 特になし。

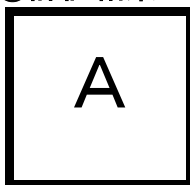
3) 評価に当たっての意見

- ・ 認証評価において好評を得たことは評価されるべきではあるが、中期計画には「法人経営と教学経営の双方の観点から自己点検・評価を実施する」と示されており、認証評価は教学経営の観点からの自己点検・評価を確認するものであって、他方、法人経営の観点からの実績報告の記述が十分でない。また、教学マネジメントとは、大学本部が学部や学科の教育活動にコミットしていく体制としくみを整備することを趣旨とするものであり、評価はそれらの整備を踏まえてのものであるべきと考える。

Ⅲ 管理運営等に関する目標

4 その他業務運営に関する目標

①評価結果



評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数					6

②法人の主な取り組み状況

- ・ 施設設備の整備について、法定点検のほか自主的な施設調査、学生との意見交換による要望を踏まえ、「施設修繕必要箇所概要並びに修繕優先度一覧」を取りまとめ、優先度に従って計画的に施設等の整備・修繕を行うこととした。
- ・ 飯田、池田キャンパスにおいて地元自治会等各種団体が行う諸活動や講演会などの利用のために大学施設を開放した。
- ・ 飯田、池田キャンパスにおいて避難訓練、消火訓練及びメールによる安否確認訓練などを通して危機管理意識の向上を図るとともに、防災設備・備品等の点検や設置方法の確認を行った。

- ・ ハラスメントのない大学づくりに向け、教職員を対象に、ハラスメント防止に係る情報をメール配信するほか、ハラスメントに関する研修会を開催し、人権意識の向上に努めた。

③実施状況

1) 評価事項

- ・ 「修繕必要箇所概要並びに修繕優先度一覧」の作成により、予算と緊急性のバランスをとった対応に計画を取りまとめたこと、また厳しい財政状況がある中で、各種修繕・改修など利用者のニーズに応じたきめ細かな環境整備が実施されたことを高く評価する。
- ・ 大学施設の開放を通じて、地元自治会や各種団体などの地域社会と交流しやすい環境が構築されている点を評価する。
- ・ 多くの教職員がストレスチェックを受け、その結果に応じて、必要な措置（産業医面接）が執られるなど、教職員の健康管理がきめ細かく実施されていることを評価する。
- ・ ハラスメント対策において、研修会など各種取組により、意識向上に努められていることを評価する。

2) 指摘事項

- ・ 特になし

3) 評価に当たっての意見

- ・ 大学ホームページについて、内部対象者のみならず、学生募集の際に受験者の選択肢としてより目が留まるように、引き続き検討を行い、リニューアルされることを期待する。また、最新の情報を提供するため、できる限り更新の回数を増やすことが大切である。
- ・ 近年、想定外の災害、事件が頻発しているため、より一層の防犯・防災対策が講じられることを期待する。

○用語注釈

- ※アクティブ・ラーニング…教員が講義形式で一方向的に教えるのではなく、学生の能動的な学修参加を促すために、自信で深く考えたり、教員・学生間で意見を交わしたり、体験を通して学んだりする指導・学習方法の総称。
- ※インターンシップ…学生に就業体験の機会を提供する制度。実際に企業に赴かせ、一定期間、職場体験をさせる。職業選択、適性が見極めが目的のために無報酬のケースが多く、その点では報酬を受け取るアルバイトとは異なる。
- ※学士力（学士基盤力、学士専門力）…学士課程（大学の学部教育）のなかで身に付けるべき能力。全学共通科目で培う「学士基盤力」と各学部の専門科目で培う「学士専門力（学士教職力）」からなる。
- ※ガバナンス・コード…大学の持続的な成長・発展と中長期的な教学及び経営に係る価値の向上のために、学生、教職員はもとより受験生や地域住民などのステークホルダーの立場を踏まえた上で、透明で公正かつ迅速な意思決定を行うための仕組み。
- ※教学マネジメント…高等教育機関において、教育目標を達成するための方針を定め、教育課程の実施に係る内部組織を整備し、教育を実践するとともに、評価・改善を図りながら教育の質の向上を図る、組織的な取り組みを指す。
- ※シラバス…授業科目の詳細な授業計画のことをシラバスといい、授業科目名、担当の教員名、講義の目的、到達目標、各回の授業内容、成績評価の方法や基準、準備学習の内容や目安となる時間についての指示、教科書・参考文献、履修条件などを記載することが期待されている。
- ※大学COC事業（地（知）の拠点整備事業）…地域を志向した教育・研究・地域貢献を自治体と連携して進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての機能強化を図ることを目的とする文部科学省の事業。
- ※COC+事業（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）…大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取り組みを支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする文部科学省の事業。
- ※地方独立行政法人大学改革支援・学位授与機構…大学等の教育研究活動の状況についての評価等を行うことにより、その教育研究水準の向上を図るとともに、国立大学法人等の施設の設備等に必要資金の貸付け及び交付を行うことにより、その教育研究環境の整備充実を図り、あわせて大学以外で行われる高等教育段階での様々な学習の成果を評価して学位の授与を行う。
- ※チューター…大学において学士課程の学生への学習助言や教授の補佐を行う者をいう。ティーチング・アシスタントとも呼ばれる。
- ※認定看護師…日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行うことが期待されている。
- ※ラーニングコモンズ…図書館や大学などの施設で自学学習をする利用者の利用目的や学習方法にあわせ、図書館資料やICT（情報通信技術）を柔軟に活用し、効率的に学習を進めるための人的な支援を含めた総合的な学習環境のことをいう。
- ※ランチョンミーティング…昼食をともにしながら、フランクに意見交換を行うこと。
- ※リカレント学習…職業人を中心とした社会人が必要に応じ高度で専門的な知識技能あるいは教養等を習得するための学習。そうした学習ニーズに応える再教育のシステムをリカレント教育という。
- ※AI（artificial intelligence）…人工知能。計算という概念とコンピュータという道具を用いて知能を研究する計算機科学の一分野を示す語。
- ※EM（Enrollment Management）…入学前から、在学中、卒業後までを一貫してサポートする。総合的な学生支援策。

- ※FD活動…ファカルティディベロップメント。教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称。その意味するところは広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などがある。
- ※GPA (Grade Point Average) 制度…アメリカにおいて一般的に行われている学生の成績評価方法の一種。日本の大学では、従来、優 (A)、良 (B)、可 (C)、不可 (D) で成績を評価してきたが、GPAでは、それぞれの教科の単位数と成績を総合した指標を提示する。
- ※JASSO (Japan Student Services Organization) …独立行政法人日本学生支援機構。主に学生に対する貸与奨学金事業や留学支援、また外国人留学生の就学支援を行う。
- ※KPI (Key Performance indicator) …重要業績評価指標。組織の目標達成の度合いを定義する補助となる計量基準群である。
- ※SD活動…スタッフ・ディベロップメント。大学等の管理運営組織が、目的・目標の達成に向けて十分機能するよう、管理運営や教育・研究支援に関わる幹部職員・事務職員・技術職員又はその支援組織の資質向上のために実施される研修などの取り組みの総称。
- ※TOEIC (Test of English for International Communication) …英語を母語としない者を対象とした、英語によるコミュニケーション能力を検定するための試験。試験の開発、運営、試験結果の評価は、アメリカ合衆国の非営利団体である教育試験サービス (ETS) が行っている。
- ※VELCテスト (Visualizing English Language Competency Test) …ベルクテスト。テストイング・英語教育の専門家チームが日本人大学生のために開発したシンプルで信頼性の高い英語力診断テスト。VELC研究会事務局が行っている。

<参 考>

◆委員構成（委員は50音順）

委員長	徳永 保	国立大学法人筑波大学教授
委員	金丸 康信	山梨県商工会議所連合会会長
	島田 眞路	国立大学法人山梨大学学長
	古屋 玉枝	公益社団法人山梨県看護協会会長
	山口由美子	公認会計士

◆委員会開催状況等（平成22年度以降）

[第1期中期目標期間]

平成22年度	
第1回委員会	平成22年7月15日開催
第2回委員会	平成22年8月25日開催
平成23年度	
公立大学法人山梨県立大学視察	平成23年5月27日実施
第1回委員会	平成23年6月29日開催
第2回委員会	平成23年8月 3日開催
第3回委員会	平成24年1月27日開催
平成24年度	
公立大学法人山梨県立大学視察	平成24年5月29日実施
第1回委員会	平成24年7月12日開催
第2回委員会	平成24年8月 6日開催
第3回委員会	平成25年1月31日開催
平成25年度	
公立大学法人山梨県立大学意見交換会	平成25年5月27日実施
第1回委員会	平成25年7月 5日開催
第2回委員会	平成25年8月 5日開催
第3回委員会	平成25年11月14日開催
平成26年度	
第1回委員会	平成26年6月 4日開催
第2回委員会	平成26年7月11日開催
第3回委員会	平成26年8月 6日開催
第4回委員会	平成26年11月17日開催
第5回委員会	平成27年2月 2日開催
平成27年度	
第1回委員会	平成27年6月12日開催
第2回委員会	平成27年7月10日開催
第3回委員会	平成27年8月 4日開催
第4回委員会	平成27年8月26日開催
第5回委員会	平成27年10月14日開催
第6回委員会	平成28年2月 8日開催

[第2期中期目標期間]

平成28年度

第1回委員会

平成28年6月 8日開催

第2回委員会

平成28年6月27日開催

第3回委員会

平成28年7月27日開催

第4回委員会

平成28年8月18日開催

第5回委員会

平成29年2月 8日開催

平成29年度

第1回委員会

平成29年5月17日開催

第2回委員会

平成29年7月13日開催

第3回委員会

平成29年8月10日開催

第4回委員会

平成30年2月 8日開催

平成30年度

第1回委員会

平成30年6月 8日開催

第2回委員会

平成30年7月13日開催

第3回委員会

平成30年8月10日開催

第4回委員会

平成31年1月21日開催

令和元年度

第1回委員会

令和元年6月11日開催

第2回委員会

令和元年7月 4日開催

第3回委員会

令和元年8月 9日開催

◆山梨県公立大学法人評価委員会事務局

山梨県県民生活部私学・科学振興課

公立大学法人山梨県立大学の業務実績に関する評価基本方針

平成22年8月25日
山梨県公立大学法人評価委員会決定

山梨県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が公立大学法人山梨県立大学（以下「法人」という。）の評価を実施する際の基本的事項を定める。

1 評価の基本方針

- （1）中期目標の達成状況及び中期計画の実施状況を確認することにより評価する。
- （2）法人が自主的に行う業務運営等の改善や継続的な質的向上に資するとともに、次期中期目標、中期計画の検討に資する評価とする。
- （3）法人化を契機とした、特色ある大学、地域に魅力ある大学づくりに向けた積極的な取組や、理事長のリーダーシップによる機動的・戦略的な運営、業務運営の改善や効率化など、特色ある取組や工夫を積極的に評価する。
- （4）評価の一連の過程を通じて、法人の状況をわかりやすく示し、県民をはじめ社会への説明責任を果たす評価とする。

2 評価の方法

- （1）評価は法人の自己点検・評価をもとに実施する。
- （2）各事業年度における業務の実施に関する評価（以下「年度評価」という。）と中期目標期間における業務の実績評価（以下「中期目標期間評価」という。）を行う。
また、中期目標期間の4年経過時に、次期中期目標の策定に反映させるため、中期目標期間評価の事前評価（以下「事前評価」という。）を行う。
- （3）各評価は、それぞれ「項目別評価」と「全体評価」により行う。

I 年度評価

- ① 法人の自己点検・評価に基づき、中期計画等の実施状況を調査・分析し、総合的に評価する。
- ② 評価結果を踏まえ、必要に応じて、業務運営の改善その他について勧告する。
- ③ 具体的な実施方法は、別に実施要領で定める。

II 中期目標期間評価

- ① 法人の自己点検・評価に基づき、中期目標の達成状況を調査・分析し、総合的に評価する。
- ② 教育研究についての評価は、認証評価機関の評価を踏まえて行う。
- ③ 評価結果を踏まえ、必要に応じて、業務運営の改善その他について勧告する。
- ④ 具体的な実施方法は、別に実施要領で定める。

Ⅲ 事前評価

- ① 法人の自己点検・評価に基づき、中期目標期間の4年経過時における、中期目標の進捗状況及び達成の見込みを調査・分析し、総合的に評価する。
- ② 教育研究についての評価は、認証評価機関の評価を踏まえて行う。
- ③ 評価結果を踏まえ、次期中期目標策定及び中期目標期間評価を実施する。
- ④ 具体的な実施方法は、別に実施要領で定める。

3 評価を受ける法人における留意事項

- (1) 法人の業務実績報告書等をもとに評価を行うことから、中期目標等の達成状況など、法人自ら説明責任を果たすことを基本とする。
- (2) 達成状況を客観的に示すため、できる限り数値目標等の指標を設定することとする。また、定性的指標となる場合は、達成状況が明確になるよう工夫することとする。
- (3) 法人における自己点検・評価の視点と体制

①視点

県民の視線に留意し、自己点検・評価に用いる指標や評価結果等、できる限り分かりやすく説明することとする。

②体制

目標達成に係る組織内の責任の所在を明確にし、理事長がリーダーシップを発揮できる推進体制を確立することとする。

4 評価の留意事項

- (1) 評価に関する作業が、法人の過度の負担とならないよう留意する。
- (2) 評価結果を決定する際は、評価の透明性・正確性を確保するために、法人からの意見申し出の機会を設ける。

5 その他

本評価基本方針は、必要に応じて、評価委員会での協議を経て見直すことができるものとする。

公立大学法人山梨県立大学の各事業年度の業務実績評価実施要領

平成22年8月25日
山梨県公立大学法人評価委員会決定
平成29年7月13日
一部改正

「公立大学法人山梨県立大学の業務実績に関する評価基本方針」に基づき、山梨県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う公立大学法人山梨県立大学（以下「法人」という。）の各事業年度における業務の実績に関する評価（以下「年度評価」という。）の実施について必要な事項を定める。

1 評価の方針

- (1) 年度評価は、中期目標の達成及び中期計画の実施に向けた法人の事業の進捗状況を確認する観点から行う。
- (2) 年度評価の積み重ねが、中期目標期間終了時における法人の自主的な組織や業務全般の見直しの基礎となることに留意する。
- (3) 教育研究の年度評価に当たっては、その特性に配慮した評価を行う。
- (4) 年度評価の際、法人の取組を社会に積極的にアピールすることや、法人全体の改善・充実を図る観点から、以下の事項を考慮する。
 - ① 法人化を契機とした機動的・戦略的な大学運営の実現に向けた取組を積極的に評価する。
 - ② 法人の置かれている状況や条件等を踏まえた、法人運営や教育研究活動を円滑に進めるための様々な工夫についても積極的に評価する。
 - ③ 法人の更なる発展のため、次期の中期目標・中期計画の見直しの検討に資するものとする。
 - ④ 中期目標の達成に向けて支障が生じている、又は、生じるおそれがある場合には、その理由（外的要因を含む）についても明らかにするものとする。
 - ⑤ その他法人を取り巻く諸事情を考慮するものとする。

2 評価の方法

- (1) 年度評価は、「項目別評価」と「全体評価」により行う。
- (2) 「項目別評価」は、年度計画について法人が自己点検・評価を行い、これをもとに、評価委員会において検証・評価を行う。
- (3) 「全体評価」は、「項目別評価」の結果を踏まえつつ、年度計画及び中期計画の進捗状況全体について、総合的に評価する。
- (4) 評価委員会が評価結果を決定する際には、評価（案）を法人に示すとともに、評価（案）に対する法人からの意見申し出の機会を設ける。

3 項目別評価の具体的方法

- (1) 項目別評価は、次の小項目、大項目に区分して行う。
 - ① 小項目は、②の大項目に係る年度計画記載項目とする。

② 大項目は、中期目標の区分を踏まえ、次の11項目とする。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

－1 教育に関する目標

－(1)教育の成果・内容等に関する目標 [1]

－(2)教育の実施体制等に関する目標 [2]

－(3)学生の支援に関する目標 [3]

－2 研究に関する目標

－(1)研究水準及び研究の成果等に関する目標 [4]

－(2)研究実施体制等の整備に関する目標 [5]

－3 大学の国際化に関する目標 [6]

II 地域貢献等に関する目標 [7]

III 管理運営等に関する目標

－1 業務運営の改善及び効率化に関する目標 [8]

－2 財務内容の改善に関する目標 [9]

－3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標 [10]

－4 その他業務運営に関する目標 [11]

(2) 項目別評価は次の手順で行う。

① 法人による自己点検・評価

○ 法人は、小項目ごとに、業務実績をI～IVの4段階で自己評価し、計画の実施状況及び判断理由を記述した業務実績報告書を作成する。

評価は以下を基準として行う。

IV：年度計画を上回って実施している

III：年度計画を順調に実施している

II：年度計画を十分には実施していない

I：年度計画を大幅に下回っている、又は実施していない

評価の際に参考となる資料があれば、必要に応じて添付する。

○ また、業務実績報告書には、大項目ごとに、特記事項として以下の項目を記載する。

ア 法人化のメリットを活用し、大学運営の活性化などを目指した財政、組織、人事などの面での特色ある取組

イ 法人の置かれている状況や条件等を踏まえた、大学運営を円滑に進めるための様々な工夫

ウ 自己点検・評価の過程で、中期目標・中期計画を変更する必要がある、又は変更について検討する必要があると考えられる場合は、その状況

エ 中期目標の未達成な事項の状況や、達成に向けて支障が生じている（又は生じるおそれがある）場合は、その状況、理由（外的要因を含む）など

オ 当該年度以前に評価委員会から指摘された事項についての対応結果など

② 評価委員会による法人の自己点検・評価の検証・評価

評価委員会は、業務実績報告書に基づき、法人からのヒアリング等を通じ、業務の実績等について調査・分析の上、法人の自己点検・評価を検証し、年度計画の達成状況について上記の4段階で評価を行う。

特に、法人による自己評価と評価委員会による評価が異なる場合は判断理由等を示

す。

③ 評価委員会による大項目の評価

業務実績報告書の検証を踏まえ、大項目ごとの達成状況について、以下のとおりS～Dの5段階で評価するとともに、その判断理由のほか、特筆すべき点や遅れている点についての意見を記述する。

S：特筆すべき進行状況にある（評価委員会が特に認める場合）

A：計画どおり進んでいる（すべてⅢ～Ⅳ）

B：おおむね計画どおり進んでいる（Ⅲ～Ⅳの割合が9割以上）

C：やや遅れている（Ⅲ～Ⅳの割合が9割未満）

D：重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合）

※上記の判断基準は、計画の進行状況を判断する際の目安であり、法人を取り巻く諸事情を勘案して総合的に判断するものとする。

4 全体評価の具体的方法

評価委員会は、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の進捗状況について、記述式により総合的に評価を行う。

全体評価においては、法人化を契機とした、特色ある大学、地域に魅力ある大学づくりに向けた積極的な取組や、理事長のリーダーシップによる機動的・戦略的な運営、業務運営の改善や効率化など、特色ある取組や工夫を積極的に評価する。

5 年度評価のスケジュール

基本的に次のスケジュールにより実施する。

6月末まで 法人が業務実績報告書を評価委員会に提出

7月～8月 評価委員会による調査・分析（ヒアリングを含む）

評価案の策定

評価案に対して法人からの意見申し出の機会の設定

評価結果の決定、法人への通知、知事への報告

9月 評価結果の議会への報告、公表

6 その他

(1) 年度評価に係る業務実績報告書及び評価書の様式は、別紙のとおりとする。

(2) 本実施要領を踏まえつつ、具体的な評価方法等については必要に応じ修正を加えるものとする。

また、本実施要領については、各年度評価の実施結果等を踏まえ、見直し・改善を図るものとする。

参考資料 1

平成30事業年度 業務実績報告書

令和元年6月
公立大学法人山梨県立大学

【目次】

	頁
大学の概要	1
1 現況	
2 大学の基本的な目標	
中期計画の進捗に係る当該年度の全体的な状況	2
1 中期計画の全体的な進捗状況	
2 項目別の進捗状況のポイント	
項目別の状況	
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	
1 教育に関する目標	
(1) 教育の成果・内容等に関する目標	6
(2) 教育の実施体制等に関する目標	15
(3) 学生の支援に関する目標	17
2 研究に関する目標	
(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標	21
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標	22
3 大学の国際化に関する目標	25
II 地域貢献等に関する目標	27
1 社会人の教育の充実に関する目標	30
2 地域との連携に関する目標	31
3 教育現場との連携に関する目標	32
4 地域への優秀な人材の供給に関する目標	33
III 管理運営等に関する目標	
1 業務運営の改善及び効率化に関する目標	
(1) 運営体制の改善に関する目標	34
(2) 人事・教職員等配置の適正化に関する目標	35
(3) 事務等の効率化・合理化・高度化に関する目標	35
2 財務内容の改善に関する目標	
(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標	37
(2) 学費の確保に関する目標	37
(3) 経費の抑制に関する目標	38
(4) 資産の運用管理の改善に関する目標	38
3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	40
4 その他業務運営に関する目標	
(1) 情報公開等の推進に関する目標	41
(2) 施設・設備の整備・活用等に関する目標	42
(3) 安全管理等に関する目標	42
(4) 社会的責任に関する目標	43
予算、収支計画及び資金計画	44
短期借入金の限度額	44
1 限度額	
2 想定される理由	
重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	44
剰余金の使途	44
その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	45
1 施設及び設備に関する計画	
2 人事に関する計画	
3 地方独立行政法人法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることのできる積立金の処分に関する計画	
4 その他法人の業務運営に関し必要な事項	

大学の概要

1 現況

(1) 大学の名称

山梨県立大学

(2) 所在地

飯田キャンパス 甲府市飯田5丁目11-1

池田キャンパス 甲府市池田1丁目6-1

(3) 役員の状況(平成30年5月1日現在)

理事長(学長) 1名(兼職)

理事数 5名(理事長、副理事長を含む)

監事数 2名

役職名	氏名	任期
理事長(学長)	清水 一彦	平成27年4月1日～平成31年3月31日
副理事長	相原 正志	平成30年4月1日～平成31年3月31日
理事(副学長)	流石ゆり子	平成30年4月1日～平成31年3月31日
理事	澁谷 彰久	平成30年4月1日～平成31年3月31日
理事	佐藤 文昭	平成30年4月1日～平成31年3月31日
監事	水上 浩一	平成30年4月1日～任命後4年以内の最終事業年度の財務諸表の知事承認日まで
監事	久保嶋 正子	平成30年4月1日～任命後4年以内の最終事業年度の財務諸表の知事承認日まで

(4) 学部等の構成

(学部)

国際政策学部、人間福祉学部、看護学部

(研究科)

看護学研究科

(附属施設等)

図書館、地域研究交流センター、キャリアサポートセンター、保健センター、看護実践開発研究センター、地域戦略総合センター、国際教育研究センター、福祉・教育実践センター

(5) 学生数及び教職員数(平成30年5月1日現在)

学生数 1,170名

大学院生数 27名

教員数 114名

職員数 48名

大学・大学院学生数内訳(平成30年5月1日現在)

学部・大学院	学科・研究科	入学定員	3年次編入学定員	現員		
				男	女	計
国際政策学部	総合政策学科	40	5	95	103	198
	国際コミュニケーション学科	40	5	51	144	195
	小計	80	10	146	247	393
人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	50	5	52	179	231
	人間形成学科	30	5	10	125	135
	小計	80	10	62	304	366
看護学部	看護学科	100	—	32	379	411
学部計		260	20	240	930	1,170
大学院	看護学研究科	10	—	2	25	27

2 大学の基本的な目標

山梨県立大学は県民の強い期待と支援のもとに成り立つ公立大学として、地域の産業振興や保健医療を含めた地域福祉、住民の生活・文化の向上など、地域社会の発展に寄与するという大きな使命を有するとともに、山梨県から日本へ、さらに世界への貢献を目指していくものである。

(基本的な目標)

1 社会の実践的な担い手や指導的な人材の育成

更なる教育の質の向上を図り、グローバルな視野で現実をとらえながら、主体的に考え行動できる、社会の実践的な担い手や指導的な人材を育成し、地域社会に輩出することを目指す。

2 地域が抱える諸課題に対応する研究と地域貢献

全学的な研究水準の向上を図る中で、公立大学としての意義を踏まえた地域の課題や社会の要請に対応した特色ある研究を推進するとともに、大学の知的資源や研究成果の社会への還元を積極的に行うことにより地域の発展に貢献することを目指す。

3 自主・自律的な大学運営の推進

理事長のリーダーシップのもと、より効果的・機動的な運営組織の構築や柔軟で弾力的な人事制度の整備、業務の見直しなどによる経営の効率化に積極的に取り組み、自主・自律性を確保した健全な大学運営を目指す。

中期計画の進捗に係る当該年度の全体的な状況

1 中期計画の全体的な進捗状況

山梨県立大学は、国際政策学部、人間福祉学部及び看護学部と大学院看護学研究科からなる大学として、平成17年4月に開学した。

平成22年4月に公立大学法人に移行し、自主・自律性を確保した大学運営のもと、地域ニーズや時代の変化に柔軟・的確に対応し、将来にわたって県民の期待に応える個性豊かな魅力ある大学を目指し、教職員一丸となって改革の推進に取り組んできた。

平成30年度は、令和3年度までを計画期間とする第2期中期計画の前半期の最終年度として、年度計画の着実な実施に取り組んだ。

大学の教育に関する目標については、平成27年度に導入したGPA(Grade Point Average)制度に対応したシステムを構築し、学生に対するGPAの周知、GPAの低い学生への修学指導の実施等を実施したほか、学士力の測定を行い、状況を確認した。

学生の支援については、経済的困窮者に対する授業料減免率5.0%の維持、キャリアサポート体制の体系化や見える化構想の策定、看護図書館のラーニングコモンズ設置を行ったほか、ネット出願制度を導入し、志願者の利便性向上を図った。

大学の研究に関する目標については、引き続き地域課題・ニーズに対応した研究に、自治体・団体・企業等と連携して取り組んだ。また、外部資金として、大学COC+事業に加え、新たに地方と東京圏の大学生対流促進事業費補助金を獲得した。

科研費補助金については科研費の申請を促進するため、科研費に不採択となったがAランクであった教員に対する奨励金制度を創設した。

国際化については、本学の国際化に果たす役割についてまとめた「国際化ポリシー」を策定した。また、留学生の短期受入プログラムを開発し、初めて海外提携校2校の学生に対してプログラムを実施した。

大学の地域貢献等に関する目標については、平成27年度に採択された「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)の副代表校(代表校山梨大学)として、山梨県の人口の自然減・社会

減と産業力の低下という地域課題の解決に、関係団体と連携して、学卒者の地元への定着と新たな雇用の創出を目指したほか、「地方と東京圏の大学生対流促進事業費補助金」を新たに獲得し、東京圏の大学生の山梨県での就職に向けたきっかけとなる取組について検討した。また、山梨経済同友会との連携講座や、がん征圧・がん患者支援催しである「リレーフォーライフ in 甲府」(共催)を引き続き実施した。更に、新たにサテライトオフィスを甲府駅北口に開設した。

業務運営の改善及び効率化に関する目標については、理事長の任期が年度末で切れることから、新たな選考方法により、理事長選考を行った。その他、社会連携課の新設、教員の人事方針の策定、教員の業績評価、職員の人事評価、各職員の業務行程表の作成など、効果的・効率的な業務運営の取組を進めた。

財務内容の改善に関する目標については、電気料金の引き下げ交渉やネット出願制度の導入、教職員アンケートを基にした定期購読雑誌の見直しなどの経費削減、主に科研費の未申請者を対象とした科研費の研修会を開催するなど、外部研究資金の獲得増加に向けて取り組んだ。

自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標については、大学改革支援・学位授与機構から認証評価を受け、3月27日付けで結果が公表され、「優れた点」が8項目と高い評価を受けた。

以上のように、全体としては、第2期中期計画の前半期を順調に終えることができたと考えている。

2 項目別の進捗状況のポイント

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育の成果に関する目標

(学士課程)

シラバスの作成要領を見直し、学士力やアクティブ・ラーニングの記載方法等を確認した。また、昨年度に引き続き、学士力の測定を行った。

国際政策学部では、海外インターンシップの実施やプログラム作り、語学検定試験補助事業等に取り組んだ。

人間福祉学部では、新卒者について、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験合格率向上を目指し、学部として支援の取り組み（学内模擬試験・過去問題のメール配信・対策講座の開催）を行ったほか、模擬試験受験料の助成を行った。なお、平成 30 年度の在校生の国家試験合格率は、社会福祉士では合格率 78.3%：全国平均 28.9%（福祉系大学等で全国 208 校中 32 位）、精神保健福祉士では合格率 100%：全国平均 62.7%（福祉系大学等で全国 64 校中 1 位）であった。

看護学部では、保健師・助産師国家試験合格率は全国平均を上回る計画を達成すべく、個別指導や補習講義など、さまざまな側面からの支援を行った結果、看護師 99.1%（全国平均 81.8%）、保健師 100.0%（全国平均 93.3%）、助産師 100%（全国平均 99.6%）と高い合格率であった。（大学院課程）

専門看護師 38 単位化の開設のため、分野毎に認定委員長からの助言を受け、また、学内会議において調整を行った。

また、新大学院構想については、学位プログラム型大学院等の設置構想について文科省と協議するなどの調整を行った。

（2）教育の実施体制等に関する目標

教育の質の向上を図るため、全学 FD・SD 研修会を開催し、研修結果はホームページで公表したほか、学部での FD 研修会、ランチョンミーティング、新任教職員への研修等を実施した。

（3）学生の支援に関する目標

学業不振、ゼミ、就職活動等における悩み、心身の課題などの多様な支援を必要とする学生に対して、飯田・池田両キャンパスに設けて相談や助言を行った。また、学部毎

に、チューター制、クラス担任制等の学生相談や指導等のできる体制を取った。

健康面では、学生健康管理システムにデータを蓄積し、必要に応じて個々の健診結果等を活用して、健康づくりを支援したほか、全学生を対象に健康調査を実施し、対応が必要とされた学生には面談やメール等による対応を行った

設備面では、飯田図書館に引き続き、看護図書館も一部をラーニングコモンズとして整備し、学生等の利用を促した。学内関係部署の他、医療機関等の学外機関との連携を図る目的から、平成 24 年度に立ち上げた学生支援検討会を概ね月 1 回開催し、連携して支援が必要な学生に対応したほか、学習支援として、従来から取り入れているチューター制度による支援、チューターミーティング（チューター）における情報交換を行った。

就職支援については、キャリアサポートセンター、就職支援担当等を通じ、キャリア形成支援等を充実させた。学生の早い段階からのキャリアデザインへの意識を高めるため、1 年から 3 年次までのキャリア関連科目と「やまなし JIBUN デザイン days」や「やまなし合同 JIBUN 説明会」などの就職関連イベントと連携を図りながら各自の自己分析や目標設定等の場を提供するなど、学生に県内企業を知る機会を提供し、県内で働くことに関心を高める取組などを行った。

看護学部でも、県内で奨学金制度を持つ施設一覧の配布や個別相談支援、卒業生の体験を聞く機会を設ける等の取組を行った。

その結果、年度末時点の就職内定状況は、国際政策学部 98.6%、（うち県内就職率 38.4%）人間福祉学部 98.9%（うち県内就職率 36.0%）、看護学部 100.0%（うち県内就職率 70.6%）、全学平均 99.2%（うち県内就職率 50.0%）と高い水準を維持（昨年度全学平均 99.1%）した。

このほか、経済的に困窮状態にある学生の支援として、減免制度についてオープンキャンパスや大学説明会等で高校生に案内したほか、在学生については年度当初のオリエンテーション等で減免制度を周知し、申請を促した。なお、目的積立金も活用して平成29年度より引き続き、減免比率5.0%を維持し、214名の学生に対して支援を実施した。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

地域課題の解決に資するための組織的研究課題を募集したが応募がなかったため、見直しを行った。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

地域研究交流センターを主体とし、共同研究、重点テーマ研究を募集、実施した。

共同研究については10件の応募のうち、8件が採択された。

地域研究交流センターが重点的に取り組む必要があるテーマとして位置づけた重点テーマ研究については、応募のあった1件が採択された。

科学研究費等の学外の競争的資金の申請・獲得を促進するために、新たに科研費に不採択となった場合で、Aランクの教員に対する奨励金制度を創設した。また、科研費申請率・採択数の向上をテーマとした全学FD・SD研修会を開催し、教員の科研費等申請を促した。

また、昨年度に引き続き、教員業績評価を実施し、優秀な教員について学長表彰を行った。

3 大学の国際化に関する目標

学生の海外留学への関心や人材不足等を背景とした地域のグローバル人材ニーズが高まる中、学生の海外留学の支援、優秀な留学生の確保等を行うため、国際教育研究センターを中心に大学の国際化を進めた。

10月には、本学の国際化に果たす役割についてまとめた国際化ポリシー及び国際化ポリシーに基づいた行動計画を策定した。

新たな交流協定の締結に向けた調整はカナダ、ニュージーランド、フィリピンの大学と進めた。本学学生のニュージーランドの大学における新たな短期留学生プログラムを実施したほか、留学生の受入プログラムをアメリカ、韓国からの学生に対して実施した。

II 地域貢献等に関する目標

地域戦略総合センターと統合した地域研究交流センターを拠点として、自治体を含め地域との密接な連携を図りながら、本県の地域課題に対応したプロジェクトを通して教育・研究・社会貢献活動を効果的に実施した。

COC+事業（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）については、これまでに整備した本事業の推進体制及び事業協働機関の連携基盤に基づいて、平成28年度より開講している「やまなし未来創造教育プログラム」（以下、「教育プログラム」という。）を中心に、教育プログラム全体としての質の向上を図るとともに、雇用創出や学卒者の地元定着に向けた各種取組の充実を図った。

また、大学と地域の対話の場である「Miraiサロン」での企業と学生が交流する機会の創出を図るなど、学生が県内で働く支援を行った。

高校大学連携としては、城西高校に対しては、看護・福祉系進路希望者を対象とした講座を通年にわたり実施したほか、身延高校では高校卒業後に身延町内で働くことを予定している身延高校生に向けたリーフレットの作成を支援した。

このほか、平成29年度に引き続き、甲州市から人口対策プロジェクトの「甲州市魅力発信事業」を受託し、情報誌「甲州らいふ」の作成とFacebookページの運営を行った。地域研究交流センターとしては、「観光講座」「秋季総合講座」

を実施した。

看護学部では、地域でのがん征圧・がん患者支援のための催し「リレーフォーライフ in 甲府」を前年度に引き続いて共催した。

年度当初には、地域研究交流センターと地域戦略総合センターを統合した。

III 管理運営等に関する目標

1 業務運営の改善及び効率化に関する目標

平成 30 年度末に理事長の任期が切れることから、平成 31 年度からを任期とする理事長の選考を行った。また、地域貢献機能強化のために、社会連携課を新たに事務局内に設置した。

業務運営の効率化については、会計業務の効率化のために、財務会計システムの改修を行ったほか、学生証・証明書自動発行機を導入するなどの改善を図った。また、プロパー職員を 1 名新たに採用し、高度化・複雑化する大学業務運営の強化を進めた。

2 財務内容の改善に関する目標

外部資金の獲得増に向け科学研究費補助金の獲得に向けた研修会を昨年に引き続き開催し、応募奨励制度資金の増額変更をするなど、申請増に向けた取り組みを強化した。

このほか、自己収入増のため、古本募金の周知を進めたほか、大学ホームページのバナー広告獲得を進めた。

また、経費の抑制を進めるため、図書館で定期購読している雑誌の見直しを行った。

3 自己点検・評価及び当該状況に関する情報の提供に関する目標

7 年以内に 1 回、受審することが義務付けられている、認証評価を大学改革支援・学位授与機構において受審した。その結果、「主な優れた点」8、「更なる向上が期待される点」1、「主な改善を要する点」なし、との高い評価を受けた。評価結果は、大学ホームページに公表した。

4 その他業務運営に関する目標

施設、設備の整備について、計画的な修繕及び施設整備の充実等を図るため、施設の修繕について、「施設修繕優先度一覧」を整備したほか、両キャンパスでの漏水箇所の緊急修繕、飯田キャンパスでのブロック塀の撤去等を行った。

また、学生、教職員のハラスメント防止対策などを進めた。

項目別の状況

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育の成果・内容等に関する目標

ア 学士課程

自主的、総合的に考え判断する能力、豊かな人間性と広い視野、様々な知識を現代社会と関連づけて生きる力を培う教養教育と、各学部の教育目標や特色を生かして専門的知識と技術を培う専門教育により、地域の創造的な発展を担う人材を育成する。その一環として、学部ごとに必要な達成目標を定め、学修成果の向上を図る。

地域に貢献し得る問題解決能力を身につけるため、山梨県全体をキャンパスに、地域に根ざした実学・実践重視の教育を行う。

三学部の連携により学際的な領域の教育に取り組むとともに、各学部の特性を生かした他教育機関や研究機関等との連携や産官民との連携を通じて、学生の多様な教育機会の確保を図る。

(ア) 国際政策学部

国際政策学部では、グローバルな視点に立って地域社会の問題を考え、地域の自然、文化及び産業を豊かにして地域の活力をつくる人材並びにアジアをはじめとする世界各国と地域社会をつなぎ、平和で豊かな国際社会の形成に貢献できる人材を育成する。その際、養成すべき人材育成に合致した、達成すべき具体的目標を定め、実施する。

Next-10行動計画に従って、コース導入の理念を踏まえた教育を実施する。

(イ) 人間福祉学部

人間福祉学部では、深い共感的理解、問題解決への知的探究心及び協働できる力を持ち、乳幼児から高齢者まで誰もが人間らしく、そのらしさを発揮して生き生きと生活できる地域社会、即ち「福祉コミュニティ」づくりに主体的かつ実践的に貢献できる人材を育成する。その際、養成すべき人材育成に合致した、達成すべき具体的目標を定め、実施する。

(ウ) 看護学部

看護学部では、人間や社会を看護学的に探究する能力、倫理的な判断力と科学的な思考力及び専門的職業人としての豊かな人間性を兼ね備え、優れた看護実践により地域に貢献できる人材を育成する。看護師、保健師及び助産師の国家試験合格率については、達成すべき具体的目標を定め、実施する。

イ 大学院課程

地域ニーズや時代の変化、学問の進展に的確に対応するため、大学院機能の充実・発展を含めた教育研究組織の在り方について積極的に検討を進める。

看護学研究科では健康と福祉の向上に寄与する専門領域のスペシャリストの育成と教育研究者の育成の観点から、教育課程の充実改善を図る。

ウ 入学者の受け入れ

県立大学にふさわしい優秀な学生を受け入れるために、大学の教育研究活動について関係者への周知を図るとともに、多様な能力・意欲・適性を総合的に評価・判定し、社会人も考慮した入学選抜を実施し、随時見直し、及び改善を図る。

エ 成績評価等

学士課程においては、授業の到達目標を明示し、客観的で明確な基準による厳正な成績評価を行い、学生の単位認定、進級・卒業時の質の保証を確保する。大学院課程においては、授業の到達目標を明示し、厳正かつ公正な成績評価と学位論文審査を実施し、修了時の質の保証を確保する。

No.	中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
ア 学士課程				
1	全学共通の「学士力」と各専門領域の「専門力」を可視化できるカリキュラムの体系化・構造化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 各科目にて扱う「学士力」について、シラバス上に明示するよう教員に周知するとともに、それぞれの授業科目のシラバス作成に反映されているか引き続き調査し、検証する。さらに、「学士力」のシラバス上への明示については、記載し易いシラバス様式へと入力システムの改修ができるよう予算化を要求する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の教務委員が中心となって、専門科目をはじめ、全学共通科目、教職課程科目のシラバスへの「学士力」記載状況を点検し、不備・不足がある場合は学務課及び事務室の担当者にシステム上での加筆修正を依頼し、整備を終えた。 学生に対してはカリキュラムガイダンス、オリエンテーション等で学士力を周知した。 単位の実質化を図るためとしてシラバスの【教育内容】の次に【授業外の学修】を、また支援措置の対象となる大学等の要件として【教育方法】の次には高等教育無償化に対応して【実務経験のある教員による教育方法】を記載することとなり、シラバス作成要領を改訂した。 	III
		<ul style="list-style-type: none"> 「学士力」について、授業評価データに基づき引き続き測定し、その達成状況を検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学士力」の測定は授業評価データに基づいて行った。全学共通科目では2017年前期 3.37、後期3.41、2018年度前期3.51、後期3.57で、微増していた。一方、教職課程科目では2017年前期3.51、後期3.61、2018年度前期3.62、後期3.53で、低下していることを確認した。 	III
2	科目ナンバリング制を導入し、学部ごとに学修成果の達成目標を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 科目ナンバリング制の導入について、学部ごと学修成果を踏まえて検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職課程については1月25日に再課程認定を受けたことを踏まえて、2019年度からの新課程への移行に向けて科目ナンバリングの見直しを行った。 	III
		<ul style="list-style-type: none"> 科目ナンバリング制の導入について、カリキュラムツリーとの整合性を確認し、検証する。ただし、当該年度は3学部専門科目及び教職課程科目においてはカリキュラム改正に向けた検討があることから、科目ナンバリング制の導入についての検証は、カリキュラム改正を見据えて実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・ツリーとの整合性を確認し、検証した。ただし、3学部専門科目及び教職課程科目においてはカリキュラム改正に向けた検討があることから、科目ナンバリングのふり直しのみ行った。 科目ナンバリングの変更時のルールを見直し、科目ナンバリングの区分および科目変更時のルールを追加した。 	III

3	<p>COC+事業等を通じて、学部間及び他教育機関、研究機関等、産官民との連携強化を推進するとともに、サービスラーニング科目をはじめ地域関連科目の充実を図り、体験型のアクティブラーニング教育を全学的、学際的に実施する。</p>	<p>・本学の目指すアクティブラーニングの在り方がシラバスに反映できているか検証する。特に、シラバス作成要領に明記したアクティブラーニングの定義が周知され、シラバスの教育方法の欄に、アクティブラーニングの実践方法が適切に記載されているか調査し、検証する。ただし、当該年度はカリキュラム改正に向けた検討があることから、検証は、カリキュラム改正を見据えて実施する。</p>	<p>・各学部の教務委員が中心となって、専門科目をはじめ、全学共通科目、教職課程科目のシラバスの教育方法の欄にアクティブ・ラーニングの実践方法が記載されているか点検した。ただし、適切で詳細に記載できているかについては科目担当者に任されるため、引き続きシラバス作成要領の見直しを実施した。</p>	III
(ア) 国際政策学部				
4	<p>社会のグローバル化に対応して、問題解決能力の育成をより重視したカリキュラム再編成を早期に実施するとともに、行動する国際人を目指して半数以上の学生に地域や海外に出て行う学習を経験させる。</p> <p>また、英語教育においては、中期計画期間中に4年次後期において学生の半数がTOEIC650点以上を、そのうちの二十パーセントは800点以上を獲得することを目指す。</p>	<p>・国際政策学部では、以下の取組を実施する。</p> <p>①3年次の地域理解演習を実施するとともに、1・2年次の演習科目の改善のための取り組みを行う。</p> <p>②英語カリキュラムの検証を引き続き行いながら、次年度のカリキュラム改正に向けた準備を行う。</p> <p>③海外協定校との交換留学や短期派遣プログラムの新規開拓とともに確実な実施を行う。</p> <p>④構築した海外インターンシップを確実に実施できるようなプログラム作りを行う。</p> <p>⑤地域の企業と連携したCOC+の活動への学生の参加を推進する。</p> <p>⑥新たに創設する語学検定試験受験料補助事業を実施することで、TOEIC等の語学検定試験受験の促進、得点向上を図る。</p>	<p>①3年次の地域理解演習が初めて開講された。6名の教員が担当し、通年で延べ79名の学生が受講した。とりわけ、COC+連携科目として開講された科目には延べ59名の受講者が集まっており、目的と学生のニーズが適合している。カリキュラム検討委員会で「国際政策学部の学びの姿」を作成し、演習科目も含め、どのように学んでいくのかについてまとめ、全員に配布した。</p> <p>②英語カリキュラムの検証を行い、将来構想委員会で、2019年度から2022年度までの計画を立てた。現在は計画に基づき人事やカリキュラム設計を進めた。</p> <p>③交換留学の受入に関しては、定員(12名)を充足している。送り出しについては国により偏りがあり英語圏へのニーズが高いもののアジア圏は少ない傾向がある。また、短期プログラムの履修者数も減少傾向にあることから現在、調査を進めている。</p> <p>④海外インターンシップには当年度は6名の応募があり、活動を始めた。本年度は、これまでと同様にクライストチャーチのJapan Festivalへ出展し、県内物産と県内観光地の紹介を行っている活動に加えて、タイの県内企業の子会社で宿泊させていただき、バンコク市内の企業でインターンシップをさせていただき活動も開始した。</p> <p>⑤COC+の活動には23名の学生が参加登録しており、順調に進んでいる。</p> <p>⑥語学検定試験受験料補助事業を活用した学生は延べ17名(TOEIC15名、IELTS2名、全額補助4名、半額補助17名)である。</p>	III

5	<p>育成する人材像をより明確化し、地域マネジメント、国際ビジネス・観光、国際コミュニケーションの3コース及び、副専攻コースを設置するとともに、1学部1学科制への移行を図る。</p>	<p>・国際政策学部では、以下の取組を実施する。</p> <p>①コースカリキュラムの3年間の実施状況を評価し、カリキュラム再編成のための作業を行う。</p> <p>②3年次演習科目(ゼミ科目)において学科横断型ゼミを導入し、2学科統一に向けての準備を行う。</p> <p>③地域限定通訳案内士副専攻・日本語教員養成課程副専攻を確実に実施するとともに改善の作業を行う。</p> <p>④地域限定通訳案内士副専攻履修学生の資格取得試験の受験を促し、成果を検証する。</p>	<p>①カリキュラム検討ワーキンググループで、2019年度カリキュラムを編成し、学科会議・教授会で議論を行った。</p> <p>②3年次演習科目において学科横断型ゼミを導入した。20名の学生が所属学科とは違う教員を選択した。一年間の実施の結果からは大きな問題もなく、新学習課程に移行して、3年間の2学科3コース制は概ね順調に実施できており、学習課程における2学科統一は順調に進んでいる。</p> <p>③山梨県地域通訳案内士副専攻課程は3年19名、2年19名、1年25名が選択し、日本語教員養成課程副専攻は3年8名、2年18名、1年21名が選択した。いずれの副専攻課程も確実に実施できている。また、カリキュラムWGIにおいて、カリキュラム改善に向けての作業を進めているが、副専攻課程については、現在問題点は見つからず、議論はされていない。</p> <p>④2年次を終了した時点で資格取得試験の応募資格は取得できる。当年度は2名が受験し1名が合格した。3年生19名が課程を履修しているが、履修科目数が不足している学生や語学要件(TOEIC730点以上など)を満たしていない学生がいる。また、地域通訳案内士の育成については県国際交流課が実施していた社会人育成コースがなくなり、本学のコースのみが育成の機能を持つことから県国際交流課と密な連携を行っていくこととした。</p>	III
(イ)人間福祉学部				
6	<p>社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の養成目的を明確化し、その目的達成に向けた具体的な方策を策定し計画的に実行する。</p> <p>新卒者の社会福祉士国家試験の合格率について六十パーセント以上を達成し、精神保健福祉士国家試験の合格率について百パーセントを目指す。</p>	<p>・社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の養成目的の明確化に向けた具体的な方策について検討を引き続き行う。</p> <p>・社会福祉士、精神保健福祉士、および介護福祉士の各国家試験に、一人でも多くの学生が合格するよう、大学による財政支援等により、学部としての支援を強化する。</p>	<p>・各資格・免許課程の養成目的に関しては、資格課程の改定や社会状況の変化を踏まえながら検討を重ねた。なお、2020年度に家庭科および福祉科の教職免許課程を廃止することを決定した。</p> <p>・社会福祉士国家試験の模擬試験については学部経費より約半額の助成を実施した。</p>	III III

6		<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉士国家試験合格率を維持、社会福祉士国家試験合格率の向上のため、模試受験料経費に要する経費を大学が支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉士国家試験の模擬試験の受験料に関して、約半額の助成を行った。 合格率は、社会福祉士国家試験合格率78.3パーセント(全国平均28.9パーセント)、精神保健福祉士国家試験合格率100.0パーセント(全国平均62.7パーセント)、介護福祉士合格率100.0パーセント(全国平均73.7パーセント)であった。また、既卒者を含む社会福祉士国家試験の合格率は64.4パーセント(全国平均28.9パーセント)であり、全国の養成校(114校)中3位であった。なお、平成29年度は社会福祉士国家試験合格率77.1パーセント(全国平均30.2パーセント)、精神保健福祉士国家試験合格率100.0パーセント(全国平均62.9パーセント)、介護福祉士合格率100.0パーセント(全国平均70.8パーセント)であった。 社会福祉士国家試験の合格率が全国の養成校(114校)中3位であったことから、IVとした。 	IV
(ウ)看護学部				
7	<p>看護師、保健師、助産師、養護教諭の専門職業人の養成目的を明確化し、その目的達成に向けた具体的な方策を策定し計画的に実行する。</p> <p>新卒者の国家試験について、看護師百パーセント、保健師百パーセント、助産師百パーセントの合格率を達成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度までの「卒業時の到達状況」調査結果を活用し、看護師、保健師、助産師、養護教諭の専門職業人の養成目的を明確化する。 新卒者の国家試験について、看護師100パーセント、保健師100パーセント、助産師100パーセントの合格率を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師教育課程、保健師教育課程、助産師教育課程養護教諭一種免許状課程4種の専門職業人の養成については、年度当初に「看護学部」を用いて、新入生についてはスタートアップセミナー、2、3、4年次生ごとのカリキュラムガイダンスを実施し、その目的達成に向け履修登録した。学生は前期科目を全員が履修した。各課程の専門職業人の養成目的について検討した。 国家試験の支援のため、学生厚生委員会・キャリアサポート運営委員会を中心となり、当年度も同様に、入学年次から卒業年次まで「ステップ1～5」までのキャリアガイダンスを系統的に実施している(ステップ1:1年生平成31年1月15日Ⅱ限、ステップ2:2年生12月21日Ⅲ・Ⅳ限、ステップ3:3年生7月19日、ステップ4:3年生平成31年1月7日、ステップ5:4年生4月9日実施)。またGPA制度を活用し、チューター単位の個人面接を行っている。4年次生への国家試験合格に向けては、学生の国試担当、補講担当などの役割を決めて、学生が主体的に取り組むことが出来るように指導するとともに、模試結果を踏まえた個別指導や補習講義等によって、きめ細やかな指導を行った。この結果、看護師99.1パーセント(106名中105名合格)、保健師93.3パーセント(30名中28名合格)助産師(6名中6名合格)100.0パーセントの合格率であった。 	III

イ 大学院課程				
8	学問の進展や地域社会のニーズを踏まえた柔軟かつ高度な大学院課程を構想し、その実現に向けた取組を積極的に進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな大学院修士課程設置について、県や文部科学省との協議を重ねながら、大学院設置準備委員会を中心に設置構想や内容を具体化し設置準備を進める。 ・看護学研究科は博士課程設置に向けて継続して準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間福祉学部、国際政策学部において、それぞれ大学院修士課程設置構想の具体的デザインの作成に取りかかった。検討状況については、県に報告するとともに、文科省で1月16日に協議を行い、指導・助言を得た。 ・看護学研究科は博士課程設置準備委員会の構成メンバーに事務局次長を加え平成30年度は10回の会議を実施した。学長・副理事長・担当理事に進捗状況を報告しつつ助言を得るとともに、第3回・4回・9回・10回研究科教授会で博士課程の構想(案)について学部・修士課程・博士課程との目標の整合性等具体的な意見交換を行った。また、文科省で1月16日に協議を行い、指導・助言を得た。 	III
	看護学研究科では社会人学生の生活実態に即した学修環境を整備するとともに、スペシャリストの育成・教育研究者の育成のために、3つのポリシーの検証・評価を実施し、教育課程・教育内容の充実改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門看護師教育課程38単位教育課程の開設に向けて、引き続き準備を行う。 ・専門看護師コースの充実を図るために、「慢性期看護学」の開講準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門看護師教育課程38単位の開設のため、各専門分野のシラバス(案)を作成し、8月～10月にかけて専門分野ごと認定委員長からの助言を受けた。9月26日、3月4日に学内担当者会議を開催し、進捗状況・今後のスケジュールの確認を行った。 ・「慢性期看護学」の開設を行い、平成31年度Ⅰ期入試で2名の入学予定者を得た(慢性期についてはⅠ期で2名合格したためⅡ期募集は実施しない)。 	III
ウ 入学者の受け入れ				
10	大学の魅力を発信するとともに、学力以外の能力(思考力・判断力・表現力等)を重視する入試方法の工夫や給費奨学金制度の導入等により、留学生や社会人を含み幅広く優秀な学生を受入れ、安定した定員充足を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> ・3学部の魅力や特色のホームページ等を通じた情報発信を継続する。特に国際政策学部では、外国人留学生受入れのための新規協定校の開拓、海外広報の充実を図るための取り組みを継続する。 ・アドミッションポリシーに基づいた、入試方法の検討を継続して行う。 ・給費奨学金制度の導入状況について、公立大学に留まらず全国の大学(国立・私立)の状況についても情報収集を行い、本学での導入に向けて検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット出願や教員免許状更新講習についてホームページにバナーを開設するなどの情報発信・改善を行った。新規協定校の開拓についてはNo.28参照。(No47参照) ・本学のアドミッションポリシーの内容を踏まえ、平成29年度から本格的に開始した「高大接続改革における個別学力検査」等の検討と併せ、入試方法の検討を継続実施した。 ・平成29年度の検討経緯、給費奨学金制度の創設に向けた文科省からの高等教育無償化方針を踏まえて大学で検討を進めた。 	III
				III
				III

		<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に制定した「アドミッションズ・センター規程」を踏まえ、アドミッションズ・センターの機能充実に向けて活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に平成30年度アドミッションズ・センターの重点業務を定め、センター長指名教員を中心に入試区分と入学後の成績との関連性分析、入試アンケートの集計・分析を行った。また、7月9日に大学コンソーシアムさいたま主催の進学相談会にセンター教員と事務局で参加した。(No.11参照) 	Ⅲ
		<ul style="list-style-type: none"> ネット出願を導入することで、学生の受験利便性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度実施の入試よりインターネット出願を導入した。結果、志願者総数は昨年度の995名から今年度は1,159名に増加(1.16倍)した。(No.43参照) 	Ⅲ
11	全学AOセンターを早期に設置し、入学者選抜の実施体制を整備するとともに、入試方法や入試結果に関する追跡実証研究を行うなど、高大接続改革実行プランに基づく入試改革を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に制定した「アドミッションズ・センター規程」を踏まえ、平成29年度入試結果と入学後の成績(GPA)との関連から、3学部の入試結果の妥当性について引き続き検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「平成30年度アドミッションズ・センターの重点業務」の1つとして分析を開始した入試区分と入学後の成績(GPA)との関連性等の分析をはじめ、各学部の特性を踏まえた分析、毎年継続実施している入学者対象の入試アンケート結果及び高等学校訪問記録等を基に、入試結果の妥当性について検討を継続した。(No.10参照) 	Ⅲ
エ 成績評価等				
12	GPAを本格的に実施するとともに、基礎データの分析によりその効果を検証し、それぞれの課程における質保証の改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 継続して、GPAデータの収集・分析に基づいて学生に対する学修情報の提供、修学指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学務課・池田事務室担当者作成の学期GPAと累積GPAの資料を基に、特に学期GPAが1.5未満の学生に対しては個別に修学指導を行った。 看護学部では、「平成30年度前期GPA集計結果」について第5回学部教授会で教務委員会より報告があり、GPAに基づく修学指導の流れについて再度確認するとともに、該当者の背景や指導等について共有化を図った。 	Ⅲ
		<ul style="list-style-type: none"> CAP制の導入に合わせ、学生への履修指導を継続して徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> CAP制の導入に合わせた学生への適切な学習時間の確保や履修指導は、継続して実施した。 	Ⅲ
	学びの技法の教育法を習得するFDワークショップの開催等を通じて、学生の能動型アクティブラーニングを促進する教育方法や教育評価法を開発・実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 本学の目指すアクティブラーニングの在り方について継続して検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 8月1日に看護学教員研修リーダー講座において、学長による「FD/SD活動の意義とこれからの課題-看護教育の質的向上をめざして!-」と題する研修会を実施し、アクティブラーニング促進のための具体策等を研究した。 	Ⅲ

<p>・FD活動などを通じて、学生の能動型アクティブラーニングを促進する教育方法や教育評価法を研究する。</p>	<p>・人間福祉学部のFD・SD委員会では、第3回教授会にて企画案を提示し、以下のとおり計画どおりに活動を進めた。 7月11日にFD研修会「研究倫理審査・申請にあたって」を開催した。研究倫理審査の必要性を確認し、審査実績をふまえて、研究計画の作成と研究倫理審査申請の留意点を検討した。当日の出席者は23名(対象者25名中)で出席率は92%であった。</p> <p>・看護学部FD・SD委員会では、第2回教授会にて企画案を提示し、以下のとおり、計画通りに活動を進めた。 ①ランチョンミーティング:平成29年度に引き続き、「教育・研究・社会活動等について現状や課題を理解し、今後本学での、教育・研究、職場施行に活かすことができる機会とする」を趣旨とし教職員が主体的にテーマを設定した学習会や意見交換会を開催した。平成30年度は計11回開催し、教員は延べ162名、事務局職員は延べ22名が参加し、能動的なFD・SD活動の場として定着しつつある。テーマは教育の在り方・ワークライフバランス・研究報告等多岐に渡っており、参加者が領域や職位の枠を超えて情報交換しながら相互に高め合う機会となった。 ②8月1日に講演会「FD・SD活動の今までと今後の課題」をテーマに、清水学長を講師に迎え実施した。50名の教職員が参加し、FD・SD活動の目的や使命について理解を深め、教育の質の向上のための授業方法の改善について考える機会となった。 ③8月1日に「平成29年度看護学部共同研究費助成研究発表会」を開催し、教職員50名が参加し活発な意見交換を行った。 ④年間を通じた相互授業参観とアーカイブスの活用の推進のために教授会等で主体的な活動を呼びかけた。授業参観後の意見交換により相互の学びが深まった。 ⑤9月10日に研究倫理審査委員会との共同開催研修会を「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に基づいた研究」をテーマに実施した。参加者は54名(人間福祉学部5名、看護学部47名、事務局2名)であった。さらに看護学実習委員会と共催で平成31年2月5日に「臨地実習での現状と課題について」をテーマに看護学実習ワークショップを実施した。参加者は学部教員と実習指導者が参加し64名で情報交換や意見交換を行った。</p> <p>・看護学部でのFD・SD委員会の取組から、評価をIVとした。</p>	IV
--	---	----

『I-1-1(1) 教育の成果・内容等に関する目標』における特記事項

<p>1 特色ある取組事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス作成要領を改訂し、実務経験のある教員の教育方法の記載や授業外の学修等の記載をすることとした。 ・インターネット出願を取り入れた効果もあり、志願者数が増加(H29:995人、H30:1,135人)となった。 <p>2 未達成事項等</p> <p>なし</p>	<p>3 以前に評価委員会から指摘された事項についての対応結果 (指摘事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期計画で定める4年次後期に国際政策学部の学生の半数がTOEIC650点以上を獲得するという目標の達成が困難な状況にあるのは残念である。目標達成に向け、年度計画上に目標数値を設定することを含め再検討し、各種取り組みを加速させることを期待する。またVELCテスト未受講者に対し、どのような対応を行ったのかを整理しておくなど、次期に向け(ハードルを下げることを含め)検討していただきたい。 <p>(対応結果)</p> <p>平成30年度の学部将来構想委員会でEnglish Education Enhancing Project(EEE Project)を作成し、教授会で承認された。主な内容として、下記の方針を定めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年から2022年度までの期間限定のプロジェクトとして英語教育を強化する。 ・新たな英語カリキュラムを作成する。(2020年度から運用開始) ・今後3年間に退職する教員の後任人事をすべて英語に割り当てる。 ・情報システムの一部をTOEIC対策のためのe-learningに振り分ける。
---	--

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 1 教育に関する目標
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標
 より質の高い教育を提供するため、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み(ファカルティ・ディベロップメント活動)を引き続き積極的に進めるとともに、教員の教育活動を定期的、かつ、多角的に評価し、評価結果を教育の質の改善に反映する。

No.	中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
14	これまでの全学的なFDの実績を踏まえ、さらに課題別、テーマ別の研修会を新たに導入・実施するとともに、「大学コンソーシアムやまなし」等を通じて、広域ネットワークを活用した教職員のFDあるいはSDの組織化を実現する。また、学生による授業評価を継続し、その結果を公表するとともに、教育の質の向上に反映させる。	・平成29年度に引き続き、年間6回のテーマ別の全学FD・SD研修会を計画・実施し、結果を学内外に大学ホームページに掲載、公表する。	・全学FD・SD研修会の計画および結果については、随時、大学ホームページに掲載し公表した(6回)。 ・具体的には、4月25日(新任教員研修会)、5月30日(学修成果の可視化)、7月25日(学生支援)、9月26日(科研費の獲得と研究倫理)、11月28日(環境と広報ブランディング)、及び平成31年1月30日(人権と情報セキュリティ)に全学のFD・SD研修会を活発に実施した。	IV
		・広域ネットワーク型FD・SDの組織体制については、平成29年度から始めた「大学コンソーシアムやまなし」を通じた県内大学のFD・SD研修会の情報を教職員に提供し、その普及を図る。	・「大学コンソーシアムやまなし」を通じた県内他大学のFD・SD研修会の情報については、随時、学内メールにてすべての教職員に周知した。	III
		・新たに実施した学生による授業評価を継続実施し、学修成果の可視化を図るとともに、初年度との比較考察・分析を行う。次年度に活用できるよう授業評価結果をまとめ、大学ホームページで公表する。	・前年度同様に学修成果の可視化を実行した(3回目、4回目)。その結果は、11月22日及び3月28日の教研審で報告するとともに、前年度との比較考察・分析結果を踏まえてホームページで公表した。なお、受審した認証評価(大学改革支援・学位授与機構)の結果では、この取り組みは高く評価され、好結果につながった(次年度の同機構の大学説明会における事例報告大学に選ばれた)。(No49参照)	IV

『I-1-(2) 教育の実施体制等に関する目標』における特記事項

1 特色ある取組事項等

2 未達成事項等
なし

3 以前に評価委員会から指摘された事項についての対応結果
(指摘事項)
なし

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(3) 学生の支援に関する目標

中期目標	ア 学習支援 すべての学生(外国人留学生や社会人学生、障害のある学生を含む。以下同じ。)が学習しやすい環境をつくるため、学習相談体制を整備するとともに、教職員と学生のコミュニケーションを促し、学生からの要望を反映させる体制を維持し、随時見直し、及び改善を図る。 すべての学生の自主的な学習を促進するための仕組みを一層充実させる。
	イ 生活支援 すべての学生が健康で充実した大学生活を送るため、生活面での相談体制や健康管理体制の充実を図る。 経済的に困窮している学生の支援のため、経済的理由による授業料の減免等について一層の充実を図る。
	ウ 就職支援 すべての学生に対してキャリアサポートセンターを中心として、就職支援体制を強化することにより就職率(就職者数/就職希望者数)百パーセントを目指す。

No.	中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
	ア 学習支援			
15	すべての学生(外国人留学生や社会人学生、障害のある学生を含む。以下同じ。)が学習しやすい環境をつくるため、引き続き学生相談窓口を設けるなど、学習相談体制をさらに進展させるとともに、両キャンパスにおいて学生の自主的な学びと相談の場(ラーニングコモンズ)等を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 学生相談窓口、クラス担任制、チューター制度等を通じてきめ細やかな相談・学習支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生相談窓口を飯田・池田両キャンパスに設置し、修学や日常生活のための相談や助言を行った。 国際政策学部では、1年次から4年次まですべての教員がゼミを担当した。また、ゼミを必修としているため、学生の一次相談窓口としている。担任は各学科で、それぞれの学年に対して2名の教員が担当した。チューターは留学生に対して1名のチューターが担当した。 人間福祉学部ではクラス担任制に加えて、3年次からはゼミ担当教員が、学生生活全般への助言や個別指導を行った。 看護学部ではチューター制度による学生支援を長年継続している。当年度も、第1回チューターリーダー会議を5月11日に実施し、学生の学習支援・生活支援やキャリアガイダンスの計画等について共通認識を図った。これを踏まえ、各チューターの年間計画に基づき、チューターミーティング等により情報を共有し、学生が主体的に生活できるよう、きめ細やかな学生支援を行った。 	Ⅲ

15		<ul style="list-style-type: none"> ・飯田図書館においては、引き続き施設・設備の整備に努め、ラーニングコモンズとしての機能向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田図書館のラーニングコモンズの機能向上についてはプロジェクター、スクリーン、ホワイトボードなどの整備を行った。また、学生のラーニングコモンズの理解促進が重要であることから、ライブラリースタッフによる広報(学内ポスターなど)を行った。(教員による利用状況は前期7件、後期9件(学生の個別利用数は別)で問題は生じていない。) 	Ⅲ
		<ul style="list-style-type: none"> ・看護図書館においては、必要な備品、什器類を購入し、適所にラーニングコモンズを設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護図書館ではラーニングコモンズ設置に向けた検討を行い、年度末に完成した。 	Ⅲ
16	<p>学生との対話「学長と語る」を年間複数回実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の意見聴取制度の一環として、池田キャンパス及び飯田キャンパスの学生と学長との対話の機会を継続実施し、要望事項等の実現に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学部学生とは6月27日、8月29日、9月20日、10月31日及び12月26日に懇談の機会をもった(参加者3人)。飯田キャンパスの学生とは、9月20日(2人)に実施し、学生自治会メンバーとの語る会を新年の1月15日(5人)に実施した。また、本学のサテライトオフィスである駅前のCasa Prismaのキックオフフォーラム(12月22日、(No32参照))において、参加した学生6人と対話の機会をもった。要望事項の中で在學生(希望者)の学生証ICカード化や留学生奨学金制度の見直し検討を進めた。 	Ⅲ
イ 生活支援				
17	<p>すべての学生が安全にかつ安心してキャンパス生活を過ごすために、中期計画期間中に学生支援体制に係る情報や組織の一元化を目指すとともに、相談に適した環境整備を行い、学生に関する支援制度を充実する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生健康管理システムのデータ蓄積と運用により、健康診断や健康相談、健康教育等を通して生活習慣病予防や禁煙教育に重点を置き健康づくりを支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生健康管理システムにデータを蓄積し、個々の健診結果や保健センター利用履歴等を活用して健康づくりを支援した。「生活と健康」の科目の中で生活習慣病予防について11月に講義を実施した。また、学園祭で生活習慣病に関すること、タバコの害について健康教育を実施した。 	Ⅲ
		<ul style="list-style-type: none"> ・健康調査を実施し、メンタル不調や希死念慮のある学生に対し状況確認を行い、学生メンタルヘルス相談等により個別支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学生を対象に健康調査を実施(4月)、1年生および編入生を対象にこころの健康調査を実施(5月)した。結果、希死念慮があり対応を必要とした学生は計140名であり、そのうち102名と面談やメール等で連絡をとり状況を確認した。さらに、カウンセリングによる継続支援が必要と判断した学生は21名おり、個別対応を実施した。 	Ⅲ
		<ul style="list-style-type: none"> ・学生の対人関係の円滑化を目的としたプログラムを行い、学生支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の対人関係の円滑化を目的としたプログラムとして「人間関係論Ⅱ」の中でアサーショントレーニングについての講義を7月に2回実施した。 	Ⅲ
		<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援のための連携協議会において、学生対応の事例や学生支援にまつわる最新の情報を共有し、職員の資質向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学務・教務・キャリアサポート・保健センターにおいて、各部署が保有する情報を共有し、連携しながら学生支援を行えるよう、学生支援のための連携協議会を9回開催した。 	Ⅲ

		<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度から、相談者のプライバシーを確保するため、希望者には事前予約にて個室での対応(教室等を別途予約し確保)を行っている。平成30年度も引き続き同様の対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談者のプライバシーを確保するため、希望者には事前予約にて個室対応(教室等を別途予約し確保)を実施した。 	Ⅲ
18	<p>経済的困窮者に対する授業料減免措置(定員ベースで算定した授業料収入額に対する減免比率)を2%から4.4%以上に拡充して、意欲ある学生を経済的に支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業料減免制度について、引き続き周知する機会(進学説明会等)を増やすとともに、新入生及び授業料を滞納した者に対し、制度の周知を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に引き続き、オープンキャンパス及び大学説明会において減免制度の概要を記載したチラシを配布し、授業料減免制度を周知した。また、年度当初のオリエンテーションで減免制度の説明を行い、新入生・保護者及び過去に授業料納付遅延の経歴のある在学生に対し申請を促した。 	Ⅲ
		<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に行った授業料減免制度成績基準の見直しに基づき、申請者の選考を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に授業料減免制度の成績基準について見直しを行い、従来は成績評価「S・A」の量的判断のみであったが、「GPA制度」の導入により学修成果の質的な把握が可能となったことから、「GPA」を使用した成績基準に基づき、減免者の選考を行った。 	Ⅲ
		<ul style="list-style-type: none"> 繰越積立金を活用し、授業料減免率を5%を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 当年度の経済的困窮者に対する授業料(入学料を含む)減免措置については、平成29年度から減免比率5.0%を実施し、これにより平成29年度は前年度比で34名増加し、平成30年度は前年度並みであった。H28:183名、H29:217名:H30:214名。 	Ⅲ
ウ 就職支援				
19	<p>個々の能力・適性に応じた就職が可能となるよう、すべての学生に対して、キャリアガイダンス、セミナー等の企画実施をはじめ、企業・施設等でのインターンシップなどの就職支援活動を積極的に行い、就職率(就職者数/就職希望者数)百パーセントを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1～3年次までのキャリア関連科目である「キャリアデザインⅠ、Ⅱ」及び「キャリアデザイン実践」の一部を用いて、自己分析に基づく年間の目標設定やその達成状況の把握、さらには次年度以降へのフィードバックを行うPDCAサイクルを構築することにより、キャリア教育の体系化を試行する。併せてロードマップを作成しキャリア教育の全体像を学生に示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリアデザインⅠ」及び「キャリアデザイン実践」において、「やまなし合同JIBUN説明会」などのCOC+関連イベントとの連携を図りながら、各自の自己分析や目標設定などの場を提供した(No.36参照)。 更なるキャリア関係授業とキャリアサポートセンター(CSC)事業の連携強化にむけて、同授業担当者、CSCスタッフ、外部の専門家による議論を経て「山梨県立大学キャリアサポート体制の体系化と見える化に向けて(構想)」を策定し、次年度から学生便覧に掲載するための調整を行った。 	Ⅲ
		<ul style="list-style-type: none"> 学生生活における個々人の活動状況が蓄積できるSNSサービスWorkplaceの活用や、集中的な相談期間の設定、外部機関の活用による個別支援の強化に取組む。 	<ul style="list-style-type: none"> Workplaceの試行は、インターンシップの授業履修者を中心に導入しているが利用する学生としない学生にわかれてしまった結果を受けて、次年度以降の利活用について検討を行った。 集中的な相談期間を8月に設定したが、実際には3件の相談のみであった。外部機関の利用状況は平成29年より減少しているがキャリアサポートセンターの利用者数が増加していることで、個別支援の強化に影響はないと考えている。 	Ⅲ

『I-1-(3) 学生の支援に関する目標』における特記事項

1 特色ある取組事項等

・飯田図書館に引き続き、看護図書館の2階を改修し、アクティブラーニングに対応したラーニングコモンズとした。

2 未達成事項等

なし

3 以前に評価委員会から指摘された事項についての対応結果
(指摘事項)

なし

(対応結果)

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 2 研究に関する目標
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標	公立大学としての意義を踏まえた地域の課題や社会の要請に対応した特色ある研究に取り組む。 各分野の研究の成果については、国内外に通用する優れた水準を確保し、地域及び国内外に積極的に発信するとともに、社会への還元に努める。
------	--

No.	中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
20	「大学が地域を変える、社会を変える」の方針のもと、地域の課題や社会の要請に対応した特色ある組織的な研究を推進し、その成果を公表する。 また、学外委員を含めた研究評価委員会を設置し、組織的な研究成果を評価する。	・地域課題や社会の要請に応じた特色ある分野別の組織的研究を新規に募集し(3件)、平成29年度に学外委員を含めて設置した研究評価部会において審査・評価し、公表する。	・新たな組織的研究課題を募集したが応募がなく、また期間を延長して公募したが応募はなかった。そこで、次年度からの見直しを検討した結果、平成31年度は地域研究交流センター事業に組み入れて実施することとした。なお、大学の奨励事業として始まった農福連携事業については支援を続け、県の農業大学校との連携協力の下で活発な教育研究活動を行い、就農者を生み出すなど一定の成果を得た。	III

『I-2-(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標』における特記事項

1 特色ある取組事項等 ・農福連携事業について、教育研究活動の結果、就農者を生み出すなど一定の成果を得た。 2 未達成事項等 なし	3 以前に評価委員会から指摘された事項についての対応結果 (指摘事項) なし (対応結果)
--	--

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 2 研究に関する目標
 (2) 研究実施体制等の整備に関する目標

中期目標	ア 研究実施体制等の整備 社会的、地域的に要請の高い研究や学術的に重要性の高い研究等の中から重点研究課題を選定し、当該選定課題に対し、研究費の重点的配分等、弾力的な研究実施体制を確保する。目指すべき研究水準及び研究成果が達成できるよう柔軟に研究者を配置するとともに、民間企業や地方自治体等との研究者交流を進める。 分野の違いを越えて取り組む独創的なプロジェクト研究を育成、推進する。 研究者が倫理を堅持し、適正な研究活動を推進するための制度や体制を充実させる。多様なニーズに応える研究を支援するための組織や仕組みを整備するとともに、外部の競争的研究資金を獲得するための支援体制を維持し、随時見直し、及び改善を図る。
	イ 研究活動の評価及び改善 研究の経過や成果などの研究活動を評価し、評価情報を公表する体制とともに、研究の質の向上に結びつける仕組みを、維持し、随時見直し、及び改善を図る。

No.	中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
ア 研究実施体制等の整備				
21	強力かつ効率的な地域研究拠点を形成するために、COC事業の終了時には既存の地域研究交流センターと地域戦略総合センターを統合するとともに、学外委員も含めて地域研究課題や学術的に重要性の高い研究を重点的に選定し、実施する。	・地域研究事業について、従来の「共同研究」に加え、大学COC事業で実施してきた「Miraiサロン(地域との対話)」を引き続き実施する中で、地域ニーズを把握し、センターで設定したテーマの研究活動支援する「重点テーマ研究」を創設し、重要性の高い地域課題解決に向けた研究活動を行う。	・地域研究事業の「共同研究」については10件の応募のうち、8件が選考委員会により採択され、3月に研究報告会を開催した。 ・地域研究事業の「重点テーマ研究」については各学部の意見等を集約しながら、地域研究交流センターにおいて実施方法を具体化し、次年度から実施することとなった。当年度はテーマ設定に向けた市町村との対話(Miraiサロン)を進めた結果、1件の応募があり、外部委員を含む選考委員会にて3月に了承選定された。選定されたテーマは「穴切地区をモデルとした接続可能なコミュニティにつながる高齢者活動拠点構築」である。(No23・33参照)	Ⅲ
22	研究倫理保持の管理・責任体制を明確化し、効果的な運用を図るとともに、利益相反等に関する基本的な方針についても企画・立案し、実施する。	・研究倫理教育責任者のリーダーシップのもと効果的な研究倫理に関する研修を実施する。	・科学研究費補助金については9月26日に「科研費の獲得と研究倫理に関する研修会」として開催した全学FD・SD研修会の中で、「採択される申請書の書き方」・「科研費申請手続きの説明」と併せ、「公正な研究活動を推進するために」をテーマに研修会を実施した。参加者は94名(78.3%)(欠席者には授業・指定研修受講など公務を含む)であり、欠席した教員に対して当日資料を配付し周知を図った。(No24、45参照)	Ⅲ

		・「利益相反マネジメントポリシー」及び「利益相反マネジメント規程」の適正な運用を行う。	・平成28年7月1日に策定、施行した「山梨県立大学利益相反マネジメントポリシー」及び「山梨県立大学利益相反マネジメント規程」に従い、必要に応じて利益相反マネジメント委員会を開く体制とするなど、適正な運用を行った。	Ⅲ
23	本学の特色が活かせる大規模研究に対し、学部を超えた研究体制が敷けるよう、全学的な支援体制を継続する。	・No.21に記載した「重点テーマ研究」を通じて、地域課題解決に向けた、学部の横断及び複数の教員による大規模研究活動を推進するための基盤を構築し、試行する。	・地域研究事業の「重点テーマ研究」については各学部の意見等を集約しながら、地域研究交流センターにおいて実施方法を具体化し、平成31年度から実施することとなった。当年度はテーマ設定に向けた市町村との対話(Miraiサロン)を進めた。(No33参照)、(No21再掲)	Ⅲ
24	科学研究費等の学外の競争的研究資金の申請・獲得を促進するために情報収集、提供、申請手続の支援等を行う体制を継続する。	・平成29年度に引き続き、科学研究費の申請等に関する研修会を多くの教員が参加できる時期に実施する。	・科学研究費補助金については教員の参加しやすい9月26日の第4回全学FD・SD研修会で、『科研費申請率・採択数アップに向けての体制づくり』をテーマに、講演「採択される申請書の書き方」・「科研費申請手続きの説明」と併せ「採択された申請書の閲覧コーナー」を新設し、飯田・池田両キャンパスで10月末日まで公開、多くの閲覧者があった。また上記と併せ「公正な研究活動を推進するために」をテーマの研究倫理教育を実施し、94名(78.3%)(欠席者には授業・指定研修受講など公務を含む)の参加があった(No45参照)(No22再掲)。	Ⅲ
		・平成29年度に引き続き、科研費以外の外部資金の公募についても速やかにメール等で案内するとともにポスターによる掲示を行う。	・平成29年度に引き続き、科研費以外の外部資金の公募についても速やかにメールで案内するとともにポスターによる掲示を行った。	Ⅲ
		・教員の科研費申請を推進するために、引き続き科研費を獲得した教員の属する学部間に間接経費10%相当額を配分する取組を行う。	・教員の科研費申請を推進するために、当年度も科研費を獲得した教員の属する学部間に間接経費10%相当額を配分した。	Ⅲ
		・科研費の申請を推進するために、新たに科研費(S、A、B)に不採択となった場合で、Aランクの教員に対する奨励金制度を創設する。	・科研費(S、A、B)に不採択となった場合で、Aランクの教員に対する奨励金制度を創設したが、申請はなかったことから、平成31年度よりC、若手にも制度を拡大し、より利用しやすい制度に変更した。	Ⅲ
イ 研究活動の評価及び改善				
25	教員の研究業績評価を定期的実施し、その結果を公表する。	・教員業績評価において研究業績評価を行い、その結果を公表する。	・教育、研究、社会貢献、学内運営の4分野に対する教員業績評価を各学部・研究科で実施(一次評価)、これを踏まえ学長が行った最終評価を、「学長表彰」として3月の教育研究審議会で公表した。なお、全学的な分布状況については、ホームページでも公表した。(No26,41参照) ・人間福祉学部では、研究業績の評価の方法を継続して検討している。	Ⅲ

26	外部資金の獲得実績のほか、とくに質の高い研究成果や研究業績を上げた教員に研究費の増額や学長表彰等のインセンティブを付与する。	・平成29年度に引き続き、外部資金の獲得実績のほか、とくに質の高い研究成果や研究業績を上げた教員に学長表彰を行う。	・前年度実施した優秀教員に対する学長表彰を5月30日に実施した。当年度も引き続き教員業績評価を実施し(11月)、その結果に基づく昇給等への反映とともに、優秀教員に対する学長表彰を令和元年5月22日の「FD・SD研修会」の折に行った。(No25,41参照) ・計画外ではあるが、教員が主体的に研究又は研修に専念できるように、4月1日より施行した教員短期特別研修取扱要項について、看護学部の教員2名が活用して研修等を行った。	Ⅲ
----	--	---	---	---

I-2-(2) 研究実施体制等の整備に関する目標における特記事項

<p>1 特色ある取組事項等</p> <p>2 未達成事項等 なし</p>	<p>3 以前に評価委員会から指摘された事項についての対応結果 (指摘事項) 【平成29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究業績評価に基づく表彰制度は、教員のモチベーションや意識向上に繋がると評価できるが、優秀教員の表彰だけでは計画に示された教員業績評価結果の公表としては不十分である。例えば、評価段階別の教員数の分布状況を公表するなど、公表内容、公表方法の検討のほか評価方法や判断基準の公表も含めて全体的に検討する必要がある。 <p>(対応結果) 過去2か年の実施状況と併せて、学部別、職階別の評価結果の分布状況を公表した。また、次年度以降は教育、研究、社会貢献及び学内運営の各領域における分布も公表する予定である。</p>
---	--

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
3 大学の国際化に関する目標

中期目標	<p>国際教育研究センターを中心として、教育、研究その他大学運営全体について、国際的な協力・交流を積極的に進め、大学全体の国際化をすすめる。外国の大学等との国際交流協定の拡大などにより、海外留学や外国人留学生の受け入れなどについて、達成すべき具体的目標を定め、実施する。大学の国際化や教育内容の充実、研究水準の向上のため、外国の大学等との教育・学術交流や国際共同研究など教職員の国際交流を推進するとともに、外国人教員の比率を計画的に向上させる。</p>
------	--

No.	中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
27	<p>国際政策学部内組織である国際教育研究センターについて、その実績を踏まえながら平成30年度を目途に全学組織化し、留学や海外研修に関する支援措置を拡充し、学生及び教職員の外国大学との交流を推進する。</p>	<p>・学部や国際交流委員会が連携しながら、国際教育研究センターの全学組織化へ向けての具体的な準備をする。</p>	<p>・平成31年度の国際教育研究センター改組に向けて関係部署と調整中である。</p>	Ⅲ
		<p>・平成30年3月現在、20大学と提携することができているため、提携に基づいたプログラム開発を進める。</p>	<p>・提携に基づきテキサスA&M大学を対象として短期受入プログラムを開発し、実施した。多くの学生が参加し、マスコミ報道もされた。今後も継続して実施できるように準備を進めている。 ・10月に本学の国際化に果たす役割について取りまとめた「国際化ポリシー」を策定した。</p>	Ⅲ
28	<p>中期計画期間中に交換留学協定校を8校以上に拡大させることなどにより、交換留学による海外留学と外国人留学生の受け入れ人数を倍増(12人)させる。</p>	<p>・平成30年4月において、交換留学協定校は9校あり、12名の交換留学生を受け入れることとなっている。今後はより広い地域との交流協定の推進や、プログラムの内容について検討を行う。</p>	<p>・現在、新たな交流協定の準備をカナダの大学と進めており、また、新たにフィリピンの南ルソン州立大学と3月に提携を結んだほか、ニュージーランドのクライストチャーチ工科大学と国際交流協定を締結することを決定し手続きを進めた。 ・留学プログラムについては、当年度は長期・短期ともJASSOの奨学金対象プログラムに追加採択されたことを契機に、段階的な報告書の作成方法などが行えるように検討を行った。また、2月に短期の海外留学生プログラムを開発した。プログラムには2名の応募があり、クライストチャーチ工科大学で実施した。 ・短期日本語研修プログラムを提携校である韓国ハンバツ大学から受託し、15名の留学生を2月7日から2月23日まで受け入れた。本学の学生も参加したプログラムとなった。</p>	Ⅲ

29	クォーター制や秋入学制の導入などグローバルスタンダードに即した教育システムの改革について積極的に検討するとともに、外国人教員の比率(外国人教員数/専任教員数)を中期計画期間中に倍増(6.6%)させる。	・学事暦見直しのプロジェクトチームの検討結果を踏まえて、学内行事運営の見直しによる年間暦の一部変更を実施し、グローバル化に対応する。	・次年度からの年度当初の諸行事の見直しにより、平成31年度からは前期の授業は7月中旬に終了することとした。	Ⅲ
		・毎年度策定する大学の人事方針の中に、平成29年度に決定した「常時6人以上の外国人教員を維持すること」を明記し、その推進を図る。	・平成30年度の全学人事方針の中に、重点項目として「とくに外国人教員については、常時6人以上を維持しながら、第二期中期計画期間中にさらに1～2名の増員を図る。」ことを明記し、学内に周知を図った。(No39参照)	Ⅲ

『I-3-大学の国際化に関する目標』における特記事項

<p>1 特色ある取組事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキサスA&M大学、ハンバツ大学の学生を対象とした短期受入プログラムを実施した。 ・JASSOの奨学金対象プログラムに始めて採択された。 	<p>2 未達成事項等</p> <p>なし</p> <p>3 以前に評価委員会から指摘された事項についての対応結果 (指摘事項)</p> <p>(対応結果)</p>
---	--

II 地域貢献等に関する目標

中期目標	<p>地域貢献の窓口である地域研究交流センター等を中心に、COC事業、COCプラス事業等の実施を踏まえ、大学の持つ人的・物的・知的財産を地域に還元する取り組みを全学挙げて積極的に推進する。</p> <p>1 社会人教育の充実に関する目標 社会人の課題解決ニーズや学び直しニーズに応えるため、必要ときにいつでも学ぶことのできる体制を整備し、観光その他県内産業で働く社会人のニーズに合致した公開講座や子育て支援者の養成講座の開催等をはじめ、資格取得にもつながる生涯学習支援やリカレント教育を積極的に行う。</p> <p>2 地域との連携に関する目標 山梨県や県内市町村、企業、NPO法人などとの主体的・組織的な連携を深め、交流を進めるとともに、少子高齢化、人口減少等を始めとした地域が抱える様々な課題に対応した地域研究や地域と連携したプロジェクトを推進し、大学の知的資源を活用した支援など、地域のシンクタンクとしての役割を果たす。 また、地域の国際化や国際交流に係る活動を支援し、多文化共生の社会づくりに貢献する。</p> <p>3 教育現場との連携に関する目標 幼稚園、小学校、中学校、高等学校等への教育支援を行うとともに、高大連携を始めとする学校教育全体との連携を推進する。</p> <p>4 地域への優秀な人材の供給に関する目標 保健・医療・福祉の向上や地域振興など、社会の変化に応じて地域が抱える諸課題の解決に貢献できる優秀な人材を地域に供給するため、県内就職の促進に向けた取り組みを行う。 国際政策学部、人間福祉学部については、卒業生の県内企業等への就職について、達成すべき具体的目標を定め、実施する。 看護学部については、関係機関と緊密に協議・連携して種々の対策を講じながら学生指導の充実強化を図ることにより、卒業生の半数以上の県内医療機関等への就職を達成する。</p>

No.	中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
30	<p>地域研究交流センターの運営体制を充実強化するとともに、多様な地域課題に対応した学内外に対する組織的・協働的な教育プログラムや研究を計画的に実施する。</p>	<p>・地域研究交流センター及びキャリアサポートセンターの事務局機能を統合し「社会連携課」を新設することで、地域課題に対応した教育研究活動の支援基盤を構築する。</p>	<p>・社会連携課の新設に伴い、外部からの委託事業等に窓口対応するため、フローチャート(外部からの相談への対応)を作成し、柔軟な対応を可能にした。(No38参照)</p>	III
		<p>・平成29年度で終了した大学COCの取組を継承し、地域研究事業を活用しながら研究活動と連動した実践的教育プログラムを推進する。</p>	<p>・当年度採択された内閣府「地方と東京圏の大学生対流促進事業」により、新たに5つのプロジェクトを追加し、地域における実践的教育プログラムの充実を図った。</p>	IV

30		<p>・COC+を通じて、他大学との連携により全学共通科目となるプロジェクト型インターンシップ「フューチャーサーチ」をはじめとした地域における実践的教育プログラムを強化する。各学部による上記授業科目の実施に際して、地域研究交流センターとキャリアサポートセンターの連携を図りながら、支援体制を構築する。</p>	<p>・地域研究交流センターとキャリアサポートセンターの連携により、「フューチャーサーチ」には18人の学生が参加した。 ・プログラムの実施に際しては、社会連携課が中心となり教員や学生の活動支援を行うほか、キャリアサポートセンターやキャリア関連科目を通じて、当該プログラムの周知に協力するなどの連携を行った。</p>	Ⅲ
	<p>看護実践開発研究センターにおいて、認定看護師の需要を見極めながら、その育成・支援に積極的に取り組むとともに、県内の保健医療福祉の実践現場に携わる看護職が学び続ける場を提供する。</p>	<p>・認定看護師の育成・支援を継続実施する。</p>	<p><認定看護師の育成・支援> ・平成30年度緩和ケア認定看護師教育課程(定員20名)入学者21名中、県内者は、7名(平成29年度3名)でやや増加した。認知症看護師教育課程(定員30名)入学者30名中、県内は、6名(昨年度5名)であった。各施設からの受講生派遣への希望はあるものの、施設内のマンパワー不足等が影響しているため、県内から入学者は漸増状況である。 ・平成31年度緩和ケア入学試験では24名受験し22名が合格、全員が受講手続きを行った。認知症看護では、21名受験し19名が合格、5名が辞退したため、3月5日に2期入試を行い13名が受験し13名が合格、計27名が受講手付きをとり入学予定となった。</p>	Ⅲ
31		<p>・看護職が学び続ける場を提供するために、看護実践開発研究センター機能を活かした独自のプログラム、ならびに県からの看護職が学び続ける場の提供に係る委託事業を企画・実施する。</p>	<p><独自プログラム> ①認定看護師フォローアップ研修会 緩和ケア分野は、第1回を5月23日に「事例分析」、「交渉術を身につけコミュニケーションに生かそう」というテーマで実施し45名が参加、引き続き9月21日には28名参加、11月9日には30名の参加があった。2月8日には浜野淳先生「非がん患者の緩和ケア」に73名が参加した。認知症看護分野は、フォローアップ研修本来の目的・内容とし、第1回を5月18日に実施、参加者は18名、第2回を10月19日に実施、参加者は18名であった。引き続き2月13日に実施し事例分析27名参加した。 ②認知症看護研修会 第1回を8月30日に実施し80名が参加、第2回を10月4日に実施し参加者9名、第3回を11月15日に25名参加、2月22日に実施し14名の参加であった。 ③看護師のための研究活用講座 昨年までの「統計学講座」をさらに看護実践に必要な研究の基礎的内容を含め開講、9月5日より22名を対象に実践講座を実施した。 ④研究支援事業 5テーマ(昨年度4テーマ)があり、研究指導を実施した。 ⑤専門看護師資格取得のための支援 急性期重症患者看護分野3名、在宅看護分野2名の臨床看護師5名(平成29年度6名)を対象にコンサルテーションを実施し、急性期分野2名が合格した。</p>	Ⅲ

31			<p>⑥松野・望月看護研究費助成事業 事業実施から3年目。センター修了生で県内で活動する認定看護師の専門的知識や技術の習得に関する研究に助成を行うもので、当年度は1件(昨年度1件)採択し、研究成果をまとめた。</p> <p><山梨県委託事業> ・多施設合同研修を5月28日より開講。49名(平成29年度50名)が参加し、7回の研修を行った。参加者は4名の職場退職など中途辞退があり、最終的に41名修了できた。教育担当者研修は9月26日より16名(平成29年度20名)が参加し1名中途辞退があったが、2月まで6回の研修を行い15名が修了した。</p>	
1 社会人教育の充実に関する目標				
32	<p>観光産業をはじめ、県民の社会人学び直し事業を制度化し、学内外の人材を活用した社会人教育の充実を図る。また、子育て支援者の養成講座の開催等、資格取得にもつながるリカレント教育を行う。</p>	<p>・県民の社会人学び直し事業(リカレント教育)の一環として、観光講座や子育て支援者養成講座のほか、山梨経済同友会との連携に基づく山梨学講座(夜間)を継続実施する。</p> <p>・社会人の多様な要請に応えるため、平成29年度から検討を始めた学外における学びの拠点形成(サテライト教室)のためのプログラム設計を行い、大学のリカレント教育の充実・向上を目指す。</p> <p>・地域研究交流センターで主催する、各種公開講座の位置付けを明確にした上で、社会人学び直し事業の制度化を検討し、試行する。</p>	<p>・県民の社会人学び直し事業(リカレント教育)の一環として、山梨経済同友会との協定に基づく連携講座「やまなしの創生」講座を10月9日～12日(4日間8講座)に県の生涯学習推進センター(防災会館)で実施した(参加者は延べ293人)。</p> <p>・秋季総合講座(本学／4講座で約90名受講)、観光講座(本学／通算5日で約300名受講)を着実に実施した。</p> <p>・12月22日に本学のサテライト教室として、地域と大学による実践活動や情報発信の拠点となる山梨県立大学フューチャーセンター「Casa Prisma」を開設し、キックオフフォーラムを開催した。また、12月17日から12月21日にはプレイベントとして、ワークショップ等を開催するとともに、3月には、リカレント教育の一環として東日本大震災を機に山梨県内に転入した方たちによるトーク・カタリバを開催するなど、地域の新たな価値創造に向けた実験や情報発信を行っている。</p> <p>・拠点が開設できたことからIVとした。</p> <p>・社会人学び直し事業の制度化試行については上記「やまなしの創生」講座(平日夜間)「秋季総合講座」(平日午後)「観光講座」(土曜日午後)として実施した。</p>	<p>III</p> <p>IV</p> <p>III</p>

2 地域との連携に関する目標				
33	県や自治体、企業、各種団体などと連携し、地域のシンクタンクとしての役割を果たすために、地域課題をはじめ、国内外の産業や文化事業等に資する研究や情報提供を積極的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に連携協定を締結した山梨総合研究所などの各種団体と連携しながら、「Miraiサロン(地域との対話)」による地域の課題の把握、それに基づく研究活動の実施(No.21、23)及び研究成果の情報提供により、地域課題の解決に向けたPDCAサイクルを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話の場(Miraiサロン)を通じて、以下の通り、行政や民間企業との情報交換やワークショップなどを開催した。穴切・池田地区については11月13日に実施し、19名の参加が、穴切地区では3月5日に実施し、4名の参加があった。(No21、23参照) 人間福祉学部では、精神障害者の人権をテーマとした研修会を、山梨県精神保健協会、山梨県精神保健福祉士協会等との共催により12月に開催した。今後、福祉教育・実践センターを中心に、県内の福祉関係の職能団体等との連携事業のあり方を検討する予定である。 看護学部では、当年度、県立中央病院との『包括連携協定』2期(5年目)を迎えている。5月1日、9月20日、3月14日と3回連絡会議を開催し情報交換を行った。また、共同研究の実施、2月2日には学術集会の共同開催を行った。(No36参照) 対話の場(Miraiサロン)により地域の課題を把握し、重点テーマ研究として次年度以降、研究・評価等を行う事業体制を整備した。(No.21参照) 	IV
34	産学官民の連携強化により、県内在住外国人のための日本語学習支援など地域における国際交流や多文化共生社会づくりを積極的に推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 甲府市からの受託事業である「日本語・日本文化講座」(外国人向けの日本語講座及び日本の文化を知る・体験する講座)の開催を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に引き続き、甲府市からの受託事業として、日本語・日本文化講座を実施した。県内在住外国人のための生活に関わる日本語学習支援を目指すもので、通年で20回実施し、延べ286名の参加があった。 	III
		<ul style="list-style-type: none"> 教職員や学生(留学生を含む)を活用した、国際交流や多文化共生社会づくりに向けた方策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京オリンピックの開催にあわせて始められた「カタコト英語プロジェクト」は、甲府中心街の商店等を対象に接客英会話テキストの制作や出前講義等を実施している。 また、甲府財務事務所主催の「経済財政に関する山梨コンファレンス」で高い評価を受けるとともに、県の観光計画に採用されるなど、これまでの取組が学内外でも認められ、積極的な活動を行っている。 	IV
3 教育現場との連携に関する目標				
35	学校教員や教育関係者との連絡協議会を開催し、学生の教育ボランティア派遣を含め教育支援を行う。また、出前授業や一日大学体験などを実施し、高大連携を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 県内外の高校進路指導担当教員を対象とした大学説明会の開催、高校生による大学訪問の受入、大学教職員による高校訪問、高校への目的別の出前授業、1日大学体験及び大学授業公開の開催等を継続し、高大連携を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学説明会は7月6日に開催し、29校35名が参加した。また、高校生の大学訪問については、10校を受け入れた。大学教職員による高校訪問は、県内25校、県外11校に対して行った。 目的別出前授業については、看護学部8回、国際政策学部8回、人間福祉学部5回実施した。大学授業公開については、7月16日に開催し、延べ128名(池田:61名、飯田:67名)が参加した。 	III

35		<p>・平成28年度に締結した身延高校及び甲府城西高校との連携協定に基づき、相互の交流・連携を通じて、高校教育・大学教育の活性化等を図る。</p>	<p>・高大連携事業として身延高校及び甲府城西高校との連携を推進している。身延高校とは「高校生のハローワーク」、城西高校とは「まるごと山梨館の英語メニュー作成」という課題設定を通じて授業を展開した。その成果は地域研究交流センター研究発表会(3月13日、サテライト教室)において披露された。</p> <p>・看護学部・人間福祉学部では、甲府城西高校の出前授業を長年にわたり講義や演習など内容を工夫して実施した。平成30年度も、計画どおり順調に修了した。</p>	Ⅲ
----	--	---	---	---

4 地域への優秀な人材の供給に関する目標

36	<p>県内外の12大学とともに、COC+事業の推進に取組み、県をはじめとする19の参加自治体及び15の参加団体・法人などとの強固な連携のもと、県内、県外出身を問わず、学生が様々な魅力ある県内企業・施設・医療機関・団体とそれらに携わる人々との出会い、ふれあいの場を数多く設けるなど、山梨のよさを知る機会を充実させるとともに、県内就職に関する情報提供や就職支援を行う。その結果として、中期計画期間中に国際政策学部においては県内就職率四十五パーセント以上を達成し、人間福祉学部においては、県内就職率五十パーセント以上を達成する。また、看護学部においては、中期計画期間中に県内就職率五十五パーセント以上を達成する。</p>	<p>・自治体、保健・医療・福祉関連機関及び職能団体等との連携を強化するとともに、主要実習フィールドとの共同研究、人材交流等を継続・推進する。</p> <p>・No.30に記載した「社会連携課」により、地域研究交流センターと連携しながら、「フューチャーサーチ」などの地元企業・団体等との協働による「Miraiプロジェクト(実践型教育プログラム)」を実施することで、学生の地元企業への関心を高める。</p>	<p>・No32、No33、No34等に記載のとおり、経済同友会、精神保健協会、病院、自治体等と連携した取組を進めた。</p> <p>・「Miraiプロジェクト」の実施状況は次のとおりであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「フューチャーサーチ」には18人の学生が参加し、企業等との協働を行った。 ・4月の「やまなしJIBUNデザインdays」が開催され、3日間で延べ173人の学生が参加し、グループワークを通して自分の将来について改めて自分と向き合う機会を得た。 ・2月に学生と企業が参加する「やまなし合同JIBUN説明会(PART.1「学生と企業の交流会」)」が実施され、46名の県内学生が参加(うち、本学学生14名)し、来場した県内企業関係者や参加学生の前で、自分自身や活動等をアピールするプレゼンテーションを行い、企業関係者と学生が直接意見を交換する機会を得た。 ・3月には「やまなし合同JIBUN説明会(PART.2「合同企業ガイダンス」)」が実施され、45名の県内学生が参加(うち、本学学生11名)し、17社の企業の人事担当者と学生が直接交流することができた。これらのイベントにより学生に県内企業を知る機会を提供するほか、山梨県の魅力を再発見する機会を提供することで、学生に対して県内で働くことについての関心を高めることができた。 	Ⅲ
----	---	--	---	---

<p>・COC+、県、各種団体と連携しながら、県内企業との交流や県内就職に関するセミナー・イベント等の情報を分かりやすく学生に提供することにより、県内就職への意欲を向上させる。</p>	<p>【キャリアサポートセンター（国際政策学部・人間福祉学部向け事業）】 ・各学部の学生に対しては、次のような施策を行った。 働くことの実際や県内就職の魅力を知る機会を提供する目的で、授業科目「インターンシップ」において、本学と連携協定を締結している山梨経済同友会会員企業の担当者により6回の講義を実施した。 県内インターンシップを促進するために、県内企業、官公庁および山梨県情報通信業協会主催などのインターンシップへの斡旋および参加を勧奨した結果、県内19ヶ所に28名の学生が参加した。 12月14日に実施した県内企業等研究会には1年生～3年生までの35名が参加し（昨年約3倍の人数）、個別の県内企業等の情報を直接聞く機会を得た。 また、特に4年生には、県内で行うセミナー、イベント、合同説明会、企業説明会についてはチラシ、メールなどで積極的に学生に情報を提供し、県内就職へ意識を向けるよう促した。</p> <p>【看護学部】 ・県内就職に関する情報提供として、県内で奨学金制度のある施設一覧を学生に配付し個別への相談・支援を行った。さらにキャリア形成に向けた情報提供およびセミナーとして、1年生はスタートアップセミナー、2年生は平成27年度からキャリアガイダンスの実施時期・方法を改変し、「山梨県看護職員就職ガイダンス（12月21日）」に全員が一斉に参加できるように時間割に組み入れている。3年生には、例年同様、7月19日に県内就職した卒業生の体験談を直接聞く機会を設け、県内就職することの特徴などについて説明を行った。また4年生には、チューター教員による就職活動及び国家試験合格に向けた個別指導を通して、県内就職への意欲を高めるようにした。 ・県立中央病院での学術集会に学生が参加し、臨床の研究活動の場での交流を通して学生の県内就職の意欲向上を図った。 ・更に、定例教授会で4年生の就職内定届出状況（県内・県外、入試の種別等）を毎月報告するとともに、内定届出状況について各チューターに定期的な情報提供を行い、県内就職率アップに向けての支援を依頼・学部全体で取り組み、昨年度に引き続き70%の県内就職率となった。</p>	III
--	--	-----

『Ⅱ 地域貢献等に関する目標』における特記事項

<p>1 特色ある取組事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年11月7日に締結した拓殖大学との連携を活用し、地方と東京圏の大学生対流促進事業費補助金を獲得して、対流促進に係る事業を実施した。 ・山梨県立大学フューチャーセンター「Casa Prisma」を開設した。 ・地域研究交流センターとキャリアサポートセンターの連携により、「フューチャーサーチ」には18人の学生が参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学部では、「県看護職員就職ガイダンス(12/21定例実施事業)」に2年生全員が参加できるよう時間割調整を継続すると共に、チューターとの連携及び県内医療機関等との密な連携により昨年度に引き続き、70%の県内就職率となった。 <p>2 未達成事項等</p> <p>3 以前に評価委員会から指摘された事項についての対応結果 (指摘事項)</p>
---	--

Ⅲ 管理運営等に関する目標

1 業務運営の改善及び効率化に関する目標

中期目標	(1) 運営体制の改善に関する目標 社会環境の変化等に対応して大学の機能を最大限発揮できるよう、理事長のリーダーシップの下で戦略的に大学をマネジメントできる、ガバナンス体制を整備する。
	(2) 人事・教職員等配置の適正化に関する目標 柔軟で弾力的な人事制度の構築を進める。 学外の人材や多様な任用方法の活用等により、専門性の高い人材を確保・育成するとともに、全学的な観点から適正に教職員等を配置し、組織の活性化を図る。 教育研究活動の活性化を図るため、教職員等の業績を適切に評価し、その結果を給与等に反映できる仕組みを構築する。
	(3) 事務等の効率化・合理化・高度化に関する目標 専門知識・能力を有する人材を確保・育成し、事務局機能の高度化、効率化を一層推進する。 職員の職務能力開発のための組織的な取り組み(スタッフ・ディベロップメント活動)を積極的に推進する。

No.	中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
(1) 運営体制の改善に関する目標				
37	理事長のリーダーシップの発揮と責任あるガバナンス体制の確立のため、理事長選考方法の見直しを行う。	・平成29年度に行った理事長選考の委員体制や選考方法の見直し手続きに基づき、新理事長選考を実施する。	・平成29年度から、理事長の選考方法や手続きを見直す検討を進め、新たな選考方法により新理事長の選考を行った。 その後、11月30日の理事長選考会議において今回の理事長選考の振り返りを行い、次回理事長選考に向けての検討事項を整理した。	Ⅲ
38	理事長のリーダーシップの下で、ガバナンス機能を強化するために、両キャンパスの有機的連携を図りながら大学の戦略的運営のための補佐体制を整備する。	・大学の戦略的運営を図るために、副学長を置くほか、平成29年度に設置した地方創生担当理事に加え、新たに入試担当理事を設けて高大接続改革に対応する。	・高大接続改革に対応するために、従来の教育担当理事を「教育(入試を除く)担当」と「入試担当」とに分け、入試担当理事に副学長を任命した。	Ⅲ
		・大学の地域貢献機能を強化するために、地域交流研究センターとキャリアサポートセンターの組織改革を実施し、その運営体制や事務組織編制を改善する。	・大学の地域貢献機能強化のための組織改革として、地域研究交流センターとキャリアサポートセンターの事務を新たに「社会連携課」を設置して一本化した。平成30年度新規に採択された内閣府の「地方と首都圏との大学生対流促進事業」も社会連携課において対応した。(No30、43参照)	Ⅲ

(2) 人事・教職員等配置の適正化に関する目標				
39	全学的な人事方針を策定し、外国人や若手の積極的な採用を含めた透明かつ公正な人事を実施する。	・重点項目を盛り込んだ平成30年度の大学人事方針を策定し、優秀な教員採用とともに人事の透明性・公正性を図る。	・当年度も、優秀で多様な人材を登用するため大学人事方針を策定し、適切な人事を遂行した。「とくに外国人教員については、常時6人以上を維持しながら、第二期中期計画期間中にさらに1～2名の増員を図る。」こととした。(No29参照)	Ⅲ
40	組織の活性化を図るために、専門性の高い教職員の確保・育成に努め、適正な人員配置を行う。	・引き続き、専門性の高い教員の確保に努めるとともに、大学運営全般に精通した事務局職員の育成のため適切な人事配置を行う。	・教員については、各学部での審査を経て高度な専門性を有する教員を採用し、学部の諸活動の活性化を図った。	Ⅲ
		・事務局では担当事項の見直しにより業務の効率化を図るとともに、新事業の提案など組織活性化のための職員による活動を支援する。	・事務局では、業務効率の向上のため、各職員が作成した業務行程表をもとに、業務手順の切り分けと各工程の担当者設定の見直しを進めた。	Ⅲ
41	教員の業績評価の結果を踏まえ、教育、研究、社会貢献、学内運営の各領域における優秀な教員に特別昇給や理事長表彰等のインセンティブを付与する。また、職員についても、人事評価を実施し、その結果を給与等に反映する。	・3年目を迎える教員業績評価制度を実施し、その結果に基づく昇給等への反映を行うとともに、各評価領域(教育、研究、社会貢献、学内運営)における優秀な教員を理事長表彰する。	・前年度に続いて教員業績評価制度を実施し、その結果に基づく昇給等への反映を行った。また、昨年度から実施している優秀な教員への理事長(学長)表彰(新年度に実施)に、新たに副賞を贈呈することとした。(No25,26参照)	Ⅲ
		・プロパー職員については、年度計画等の達成への取り組み状況を含め、県派遣職員に準じた方法により適切な人事評価を実施し、その結果を給与等に反映する。	・プロパー職員については、所属する課室等の年度計画の達成を念頭においた目標設定を各自が行い、県派遣職員に準じた方法で人事評価を実施し、給与等への反映を行った。	Ⅲ
(3) 事務等の効率化・合理化・高度化に関する目標				
42	採用計画に基づき、中期計画期間中に職員のプロパー化を進める。	・引き続き、事務局職員のプロパー職員化を進める。	・事務職のプロパー職員1名を採用し、県派遣職員10名、プロパー職員11名と、ほぼ同数となった。 ・平成31年4月1日付け採用のプロパー職員1名を12月に内定した。	Ⅲ
43	効率的・合理的な事務執行のため、課長会議の場を活用して、随時事務組織及び業務分担の見直しについて検討を行う。	・平成31年度からの課室内の体制について、事務の効率化及び事務負担の軽減の観点から具体的に見直しを進める。	・各職員が当年度作成した業務行程表を元に、見直しを検討した。	Ⅲ
		・財務会計システムの更新により事務局職員の会計業務の効率化を進める。	・財務会計システムについては、12月にシステム改修を行った。	Ⅲ

43		<p>・学生の利便性向上及び、職員の事務量削減のために、学生証・証明書自動発行機の導入を進める。</p>	<p>・学生証・証明書自動発行機を3月に導入し、平成31年度から稼働している。</p> <p>・当年度よりインターネット出願制度を導入し、願書印刷代等を削減した。(No10参照)</p> <p>・発送業務に要する労力を削減するため、「webレター(日本郵政):宛先、発送文書のデータを送信することで発送作業が不要となる」の導入に向けての試行と利用基準の策定を進めた。</p> <p>・学生証・証明書自動発行機の導入に加え、インターネット出願による事務量削減が進んだことからIVとした。</p>	IV
44	<p>プロパー職員のキャリアパスを策定するとともに、学内外の研修への参加、他大学と連携したネットワーク型SDを活用した体系的で実践的な研修制度を構築し、高度化・複雑化する大学業務に対応できる専門的知識・能力を備えた職員を育成する。</p>	<p>・国、公立大学協会などが主催する外部研修へ職員を派遣し、大学運営に関する専門的知識を備えた職員を育成する。</p> <p>・外部研修で得た知識を他の職員に還元するための場を年2回試行的に設ける。</p>	<p>・公立大学協会主催の会計研修、早稲田アカデミックソリューションが実施する学生対応力向上研修、リーダーシップ研修などの外部研修にのべ35名の職員を派遣し、大学運営に関する専門的知識などの修得を促した。</p> <p>・校内のプロパー職員5名が講師となり、事務局職員を対象とした文書事務に関するSD研修会を平成31年2月14日に開催し、17人の出席があった。また、プロパー職員の勉強会の中で、各自の外部研修結果の報告を行った。</p>	III III

『Ⅲ-1 業務運営の改善及び効率化に関する目標』等における特記事項

<p>1 特色ある取組事項等</p> <p>・新理事長の選考を行った。</p> <p>・財務会計システムの更新、学生証・証明書自動発行機の導入等による業務の効率化、合理化を推進した。</p> <p>2 未達成事項等</p> <p>なし</p>	<p>3 以前に評価委員会から指摘された事項についての対応結果</p> <p>(指摘事項)</p> <p>なし</p> <p>(対応結果)</p>
---	---

Ⅲ 管理運営等に関する目標
2 財務内容の改善に関する目標

中期目標	(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標 運営費交付金や授業料等学生納付金のほか、外部研究資金の獲得や多様な大学事業の展開による自主財源の確保・拡充等、自己収入の増加のための組織的な活動に取り組む。
	(2) 学費の確保に関する目標 授業料等学生納付金については、公立大学の役割、優秀な学生の獲得や適正な受益者負担等の観点及び社会情勢等を勘案し、適正な水準を維持する。
	(3) 経費の抑制に関する目標 予算の弾力的、効率的な執行、管理的業務の簡素化、合理化などを進めるとともに、教育研究水準の維持向上に配慮しながら、組織運営の効率化等を進め、経費の抑制を図る。
	(4) 資産の運用管理の改善に関する目標 全学的かつ経営的視点から、施設・設備等の効率的活用を進めるとともに、金融資産については、安全確実な運用を行う。

No.	中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
	(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標			
45	科学研究費補助金への申請率を向上させ、またより大型の研究プロジェクトへの申請を奨励することにより、全体の採択件数及び獲得額の増加を図る。中期計画期間中に、申請件数95件、採択件数45件を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、教職員ポータル等を活用した情報の共有化を図るとともに、科学研究費補助金についての研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金については申請率の向上等のため、9月26日に「科学研究費の獲得と研究倫理に関する研修会」として開催した全学FD・SD研修会において、採択される科研費申請書の書き方や申請手続きについての研修を行い、94名の参加があった。欠席した教員に対して当日資料を配布し周知を図った。(No22、24参照) 	Ⅲ
		<ul style="list-style-type: none"> 平成30年2月に開始した古本募金制度を新入生や卒業生等にも周知することで、古本募金制度の周知及び募金額の増加を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 古本募金については入学式や学位授与式の場でチラシを配架した他、同窓会が同窓会報を送付する際のチラシ同封、県立・市立図書館へのチラシ配架などの広報を行った結果、本学の規模では年間10万円程度との業者説明により設定した年間目標の10万円を10月には超過し、年度末には寄付額が13万円超となった。 年間寄付額の目標を10月には超過したことから、Ⅳとした。 	Ⅳ

		<p>・平成30年3月より開始した本学ホームページのバナー広告による自己収入の増加を図る。</p>	<p>・大学ホームページ上での周知や学生向け広報を希望する不動産業者等にバナー広告の案内を送付して周知した(掲載団体7団体(掲載終了団体含む))。</p>	III
(2) 学費の確保に関する目標				
46	<p>授業料等の学生納付金について、優秀な学生の確保等の多様な観点から、他大学の状況等も踏まえながら適切な金額設定を行う。</p>	<p>・消費税10%への引き上げについては、2019年10月まで実施延期の見込であるが、近隣の同規模大学に調査等を行い、動向を把握し、金額についての検討を引き続き行う。</p>	<p>・消費税10%への引き上げについては、2019年10月から実施される方向であることから、近隣の同規模大学に調査等を行い、動向を把握し、金額設定についての検討を引き続き行った。なお公開講座受講料、看護実践開発研究センターの認定看護師教育課程授業料等については消費税引き上げに合わせて設定金額を引上げ予定である。</p>	III
(3) 経費の抑制に関する目標				
47	<p>管理的業務の一元化等によって経費の削減を実施する。</p>	<p>・経費の抑制の観点から、他の新電力を導入も検討する。</p>	<p>・契約電力会社と電気料金の引き下げ交渉を行ったところ、他の新業者より単価が安く、平成31年度の電気料金の単価を削減する事ができた。</p> <p>・ネット見積り依頼を活用したところ、扉の修繕について、扉の総入替が必要、との当初見積業者とは異なる新たな業者による修繕対応案が採用できた。</p> <p>・ネット見積り依頼については今後の修繕への対応に広がる可能性もある新たな取り組み成果であることからIVとした。</p>	IV
		<p>・冷房・暖房を過度な設定にならないように、集中管理し、電気料金の削減に努める。</p>	<p>・冷房・暖房については飯田キャンパスでは午後10時以降は教室・事務室の空調を切るほか、夏季は冷房について1日に1度は設定温度を確認し、過度な温度設定については設定調整を行った。池田キャンパスでは、警備員が巡回の際に適宜空調を切るなどの対応を行った。</p>	III
(4) 資産の運用管理の改善に関する目標				
48	<p>施設・設備等の利用状況を適切に把握し、より効率的な活用を図るとともに、金融資産については、安全確実な運用を行う。</p>	<p>・金利の情勢に留意しながら、運用方法についての判断を行う。</p>	<p>・国債・地方債の利率、金融機関の定期預金利率が低位で推移している中で、運用した場合にかかる人件費等も勘案した結果、当面の間、これまでどおり、資金運用は行わないことを8月に決定した。</p>	III

『Ⅲ－2 財務内容の改善に関する目標』における特記事項

1 特色ある取組事項等

・新たな新電力会社との交渉を行ったほか、新電力の電力会社と電気料金の引き下げ交渉を行った結果、平成31年度の電気料金単価の削減を図る事ができた。

・ネット出願制度や証明書自動発行機の導入、ネット見積り比較システムの活用等により人件費、印刷費等の削減を図った。

・古本募金やHPバナー広告等により、収入増を図った。

2 未達成事項等

なし

3 以前に評価委員会から指摘された事項についての対応結果
(指摘事項)

【平成29年度】

・外部資金の獲得について、一定の実績が示されているが、共同研究や受託研究の実績がここ数年乏しいことは残念である。大学の本来の使命(高度の、専門的な教育研究と教育研究を通じた社会貢献)を踏まえれば、地域研究交流センターを中心とする地域連携や産学連携活動を受託研究、共同研究、寄附講座等として実施し、それらを通じて外部資金を獲得するという方向の取り組みが必要と考えられる。

(対応結果)

本学が新たに設置した拠点施設「Casa Prisma」を活用し、フューチャーセンター準備会を中心に寄付講座の開設や地域の情報発信などの受託事業の獲得に向けた取組を推進する予定である。

なお、平成30年度は、新たに1件の新規受託研究を獲得して研究を実施中である。

Ⅲ 管理運営等に関する目標
 3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

中期目標 教育研究活動及び業務運営について、定期的に自己点検・評価を実施するとともに、認証評価機関による認証評価を受け、その結果を速やかに公表し、教育研究活動及び業務運営の改善に活用する。

No.	中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
49	自己点検・評価システムの検証・見直しを実施し、法人経営と教学経営の双方の観点から自己点検・評価を実施するとともに、認証評価機関による認証評価を受け、その結果を公表し、改善を図る。	・平成29年度、大学質保証委員会で検討を進めてきた外部委員からの指摘事項等について、法人経営及び教学経営の両面からの改善計画を明確にしその実現を図る。	・外部委員からの指摘事項等を受け、検証を進めるとともに改善のための行動計画を立て、国際化ポリシーの策定をはじめ一部は実行した。日本人学生の海外経験の比率において、全国大学ランキング40位の結果を得た。また、国の高等教育の無償化政策にも対応するために、他大学に先んじて本学のガバナンスコード及び教育の質保証のための教学マネジメント指針を策定した。	IV
		・認証評価受審のための本学における自己点検・評価書や基本統計データ等を完成・提出し、大学改革・学位授与機構から認証評価を受け、その結果をホームページに公表する。	・大学改革支援・学位授与機構から認証評価を受け(訪問調査は10月30、31日)、その結果(3月27日付)をホームページで公表した(4月2日)。そして、好結果により、次年度の同機構の大学説明会での事例報告校に選出された。(No14参照)	IV

『Ⅲ-3-自己点検に関する目標』における特記事項

<p>1 特色ある取組事項等 ・大学改革支援・学位授与機構による認証評価を受審し、「主な優れた点」8、「更なる向上が期待される点」1、「主な改善を要する点」なし、との高い評価を受けた。</p> <p>2 未達成事項等 なし</p>	<p>3 以前に評価委員会から指摘された事項についての対応結果 (指摘事項) なし (対応結果)</p>
---	---

Ⅲ 管理運営等に関する目標
4 その他業務運営に関する目標

中期目標	<p>(1) 情報公開等の推進に関する目標 公立大学法人としての社会への説明責任を果たし、広く県民の理解を得るため、広報体制の強化を図り、教育研究活動や業務運営に関して積極的かつ迅速な情報提供を行う。</p> <p>(2) 施設・設備の整備・活用等に関する目標 良好な教育研究環境を保つため、施設・設備の適切な整備・維持管理を行うとともに、有効活用を図る。</p> <p>(3) 安全管理等に関する目標 学内の安全と衛生の確保及び災害発生時など緊急時のリスク管理のための体制を整備するとともに、個人情報保護など情報に関するセキュリティを確保する。</p> <p>(4) 社会的責任に関する目標 法令遵守の徹底と人権尊重や男女共同参画の推進、環境への配慮など、公立大学法人としての社会的責任を果たす体制を維持し、随時見直し、及び改善を図る。</p>
------	---

No.	中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
(1) 情報公開等の推進に関する目標				
50	大学ポータルサイトに参加するとともに、地(知)の拠点整備事業等の成果を積極的に発信・提供する。	・本学の事業成果や教育実践内容に関するホームページを充実させたうえで、ポータルサイトへのリンクにより本学の特色を社会へ広く情報発信する。	・大学ポータルサイトは、ホームページとリンクできるようになっている。ホームページの更新による本学の新たな情報発信に努めた。	Ⅲ
51	大学の広報体制を整備し、ホームページの内容の充実を図るとともに、大学の運営状況をはじめ教職員や学生の教育研究成果を国内外に積極的に発信・提供する。	・大学ホームページの内容のリニューアルと情報検索の利便性を高めたサイトの見直しをすすめることによる、広報体制の充実を図る。また、大学案内についても内容の充実を図り、学生募集につながるよう再構成を行う。	・本学のホームページのリニューアルについては、当年度より立ち上がった広報・ブランドプロジェクトチームにて検討したが、平成31年度は既存ホームページの見直し検討をすることとなった。また、情報検索の利便性や内容に関するサイトの総合的な見直しについても同様に、方向性等の検討に入った。	Ⅲ

(2) 施設・設備の整備・活用等に関する目標				
52	<p>効果的・効率的な教育研究環境を維持するため、計画的に施設・設備の修繕を実施する。</p>	<p>・定期点検等の結果を踏まえて老朽化した設備の更新について、計画的な修繕を行うとともに、教職員・学生等の意見・要望等を反映させた施設整備、教育研究設備の充実を図る。</p>	<p>・施設の修繕項目について、法定点検のほか自主的な施設調査、学生との意見交換などでの要望を踏まえ、9月に「公立大学法人山梨県立大学の施設修繕必要箇所概要並びに修繕優先度一覧」をまとめた。今年度以降、優先度に従って計画的に施設等の修繕を進めるとともに、教職員や学生の意見を踏まえた教育研究設備の充実も図っていくこととした。</p> <p>・また、例年行われる教務委員会と総務課の施設調査や学生との意見交換会で挙げられた要望について優先度を確認の上、既存の予算の範囲で整備・修繕を図った。</p>	III
53	<p>大学の施設等を大学の運営に支障のない範囲で地域社会に開放する。</p>	<p>・大学運営に支障のない範囲で地元自治会等学外に積極的に施設を開放し、地域の資源として、市民の学びの場や健康づくりの場として活用するなど、地域の人と人とを結びつける拠点として有効利用を図る。</p>	<p>・両キャンパスとも、地元自治会の運動クラブなどの諸活動や各種団体が行う試験、講演会などの利用のために大学施設を開放した。</p> <p>・平成30年11月11日には池田地区保健計画推進協議会との共催で池田キャンパス体育館及び大学周辺のサイクリングロードを使用してウォーキング健康講座を実施し、約70人の参加者があった。</p>	III
		<p>・飯田キャンパスに昨年度開設した学食「グローバルキッチン」を地域住民の利用にも開放する。</p>	<p>・「グローバルキッチン」については大学広報誌「tobira」での案内のほか、近隣自治会役員へのチラシ配布、近隣学校への案内、学外向け掲示板での案内などを行い、地域住民等の利用も呼びかけた。</p>	III
(3) 安全管理等に関する目標				
54	<p>学内の安全と衛生を確保するため、ストレスチェック制度など労働安全衛生法等に基づく取組を推進する。また、学内外の安全・安心な教育環境を確保するために、各種の災害、事件、事故に対する学外も含めたリスク管理を強化・充実するとともに、個人情報保護などに関する情報セキュリティ教育を実施する。</p>	<p>・教職員のストレスチェックを行うとともに職場分析もを行い、その結果を執務環境改善に反映する。</p>	<p>・9月25日から10月19日にかけて教職員のストレスチェックを実施した。回答者は143名(89.4%)であり、そのうち高ストレス者は21名(14.7%)、3名が産業医面接を実施した。就業上の措置が必要な者に対しては、措置を実施した。また、衛生委員会で結果を共有した。</p>	III
		<p>・防災訓練の実施等を通じ、教職員・学生の危機管理意識の啓発や災害対応力の維持向上に努めるとともに、そのために必要となる防災備品等の充実を図る。</p>	<p>・飯田キャンパスにおいては、4月に全教職員・全学生参加の避難訓練を実施し、消火訓練を行った。また、8月末にメールによる安否確認を全教職員・全学生対象に行った。</p> <p>・池田キャンパスでは、4月と10月の年2回、全学生・教職員を対象とした防災訓練を実施し、消火訓練、避難行動及びメールによる安否確認の訓練を通して危機管理意識の向上を図るとともに、9月には教職員による防災設備・備品等の点検や設置方法の確認を行った。</p> <p>・衛生委員会では、各キャンパスごとに職場巡視を行い、危険箇所の改善を随時行った。</p>	III

		・健康診断及び健康相談等を通して教職員の疾病の早期発見、健康の保持増進に取り組む。	・労働安全衛生法に基づき、定期健康診断の実施(人間ドック受診勧奨)、健康相談(保健指導等)の実施を行い、教職員の疾病の早期発見、健康の保持増進に取り組んだ。	Ⅲ
(4) 社会的責任に関する目標				
55	法令遵守、人権尊重、男女共同参画の推進、環境への配慮などへの意識の醸成を図るため、研究倫理教育やハラスメント防止のための啓発活動と相談・対応体制を充実するなど、大学の社会的責任を果たすための体制を整備し、その取組を実施する。	・環境配慮については、年度始めのオリエンテーション及び年に1回環境研修会を実施し、教職員や学生に環境配慮への意識を高める。	・環境配慮については、11月にサステナビリティをテーマとする全学FD・SD研修会を実施し、70名の参加があった。	Ⅲ
		・人権尊重やハラスメントについては、年度始めのオリエンテーションにおいて、本学の人権委員である弁護士から学生に対して人権に関する講話を行う。また、四半期ごとに、ハラスメントに関する情報を配信し、人権意識の向上を図る。	・昨年度に引き続き、人権に関する講話を行うとともに、当年度は新たにハラスメント防止に係る情報をメール配信し、ハラスメントのない大学づくりに向け、人権意識の向上を図った。	Ⅲ
		・また、アンケート及び研修会を実施するとともに、各学部教授会及び事務局課長会議の際に毎月の人権委員会の対応状況を報告し、ハラスメントのない大学環境への配慮について教職員の意識向上を図る。	・ハラスメントについてのアンケートを11月から12月にかけて実施し、学生については前年度比185%以上の回答を得た。また、ハラスメントに関する研修会を1月に実施するとともに、当年度から全ての教授会等において、人権委員会の対応状況を報告しており、教職員の意識向上につながった。	Ⅳ

『Ⅲ-4 その他業務運営に関する目標』における特記事項

<p>1 特色ある取組事項等 ・9月に「公立大学法人山梨県立大学の施設修繕必要箇所概要並びに修繕優先度一覧」をとりまとめた。</p> <p>2 未達成事項等 なし</p>	<p>3 以前に評価委員会から指摘された事項についての対応結果 (指摘事項) なし (対応結果)</p>
---	---

予算、収支計画及び資金計画

※財務諸表及び決算報告書を参照

短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績
1 限度額 2億円 2 想定される理由 運営費交付金の受け入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることを想定する。	1 限度額 2億円 2 想定される理由 運営費交付金の受け入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることを想定する。	実績なし

重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実績
なし	なし	—

剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績
決算において剰余金が発生した場合は、教育、研究の質の向上、組織運営及び施設設備の改善に充てる。	決算において剰余金が発生した場合は、教育、研究の質の向上、組織運営及び施設設備の改善に充てる。	・知事に承認を受けた繰越積立金のうち、5,057万円余、目的積立金のうち1,966万円余を教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てた。

その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実績
<p>1 施設及び設備に関する計画 中期目標を達成するために必要な業務の実施状況を勘案した施設設備の整備や、老朽度合い等を勘案した施設設備の大規模修繕等については、山梨県と協議して決定する。</p> <p>2 人事に関する計画 第3の3「人事の適正化に関する目標を達成するための措置」に記載のとおり</p> <p>3 地方独立行政法人法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることのできる積立金の処分に関する計画 なし</p> <p>4 その他法人の業務運営に関し必要な事項 なし</p>	<p>1 施設及び設備に関する計画 中期目標を達成するために必要な業務の実施状況を勘案した施設設備の整備や、老朽度合い等を勘案した施設設備の大規模修繕等については、山梨県と協議して決定する。</p> <p>2 人事に関する計画 第3の3「人事の適正化に関する目標を達成するための措置」に記載のとおり</p> <p>3 地方独立行政法人法第40条第4項の規程により業務の財源に充てることのできる積立金の処分に関する計画 なし</p> <p>4 その他法人の業務運営に関し必要な事項 なし</p>	<p>1については、No.52参照 2については、No.39～41参照</p>